# 防災に関する市民意識
# アンケート調査報告書

令和６年１２月

仙　台　市

# 目　次


**１章　調査概要** ..... 3
**Ⅰ．調査目的** ..... 3
**Ⅱ．調査の概要** ..... 3
**Ⅲ．調査項目** ..... 3
**Ⅳ．調査機関** ..... 3
**Ⅴ．留意事項** ..... 4
**Ⅵ．参考資料** ..... 4
**２章　調査結果の要約** ..... 7
**３章　調査の分析** ..... 15
**Ⅰ．回答者属性** ..... 15
１．性別 ..... 15
２．年齢 ..... 15
３．自身を含んだ家族の人数 ..... 15
４．同居家族内での要援護者 ..... 16
５．職業 ..... 16
６．居住区 ..... 17
７．住まいの形態 ..... 18
８．居住年数 ..... 19
**Ⅱ．調査結果の詳細** ..... 20
１．災害への備えについて ..... 20
２．防災訓練について ..... 40
３．防災施策について ..... 45
４．ハザードマップについて ..... 48
５．避難行動について ..... 55
６．避難所の環境について ..... 62
７．地域住民相互の助け合いについて ..... 64
８．災害時要援護者対策について ..... 66
９．避難情報の収集について ..... 74
１０．東日本大震災の経験を伝えることについて ..... 80
１１．東日本大震災を経験していない子どもたちへの取り組みについて ..... 86
１２．地震対策について ..... 88
１３．消防施策について ..... 92
**Ⅲ．自由記述** ..... 101
**４章　資料（調査票）** ..... 107

# １章　調査概要

# １章　調査概要

## Ⅰ．調査目的

本調査は、今後の本市の防災施策の策定を進める上での基礎資料データの取得、震災後の自助・共助の取り組みの実態の把握を行い、その結果を分析し、今後の防災施策に反映させることを目的とするものである。

また、令和６年能登半島地震等の状況を踏まえ、今後の本市の避難所環境改善の参考とするための事項や、宮城県第五次地震被害想定調査を受けた「仙台市震災対策アクションプラン」策定の参考とするため、電気火災の防止等に関する事項を調査項目として新設した。

## Ⅱ．調査の概要

| | |
|---|---|
| **●調査実施期間** | 令和６年９月 18 日（水）～令和６年 10 月 11 日（金） |
| **●調査対象** | 小学校区の人口比率に基づき、令和６年８月１日現在、満 16 歳以上の市民 5,000 人を住民基本台帳から抽出 |
| **●調査方法** | 郵送による配布、郵送及び WEB による回答（無記名式） |
| **●総回収数・率** | 1,736 件（34.7%） |
| **●有効回答件数・率** | 1,735 件（34.7%）　※前回　1,969 件（39.4%） |

## Ⅲ．調査項目

・災害への備えについて
・防災訓練について
・防災施策について
・ハザードマップについて
・避難行動について
・避難所の環境について
・地域住民相互の助け合いについて
・災害時要援護者対策について
・避難情報の収集について
・東日本大震災の経験を伝えることについて
・東日本大震災を経験していない子どもたちへの取り組みについて
・地震対策について
・消防施策について
・回答者の属性

## Ⅳ．調査機関

●調査主体：仙台市危機管理局防災・減災部防災計画課
●調査実施及び集計・分析：株式会社東京商工リサーチ　東北支社

## Ⅴ．留意事項

・調査数（ｎ=Number of cases）とは、設問ごとに無回答者数を除いた回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
・調査数が少ない項目については、分析対象から除外している場合がある。
・回答の構成比は百分率で表し、小数点第２位を四捨五入して算出している。
・回答数が僅かな選択肢のうち、四捨五入により構成比が 0.0%になる項目については「-」と表記している場合がある。
・数値の単位未満は四捨五入を原則としたため、各項目の値の合計が総数と一致しない場合がある。
・回答者が２つ以上の回答をすることができる多岐選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると 100%を超える。
・調査票における設問及び選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。
・本文中の「前回調査」とは、仙台市が令和元年度に実施した、「防災に関する市民意識アンケート調査」を指す。参考として前回結果と比較している設問があるが、設問文・選択肢等が同一でない場合がある。

## Ⅵ．参考資料

### ●令和６年 10 月１日時点の推計人口と今回調査における回収数の割合

≪令和６年 10 月１日時点住民基本台帳人口（性別、年齢別、居住区別）≫

| | | 16歳未満 | 16～19歳 | 20～29歳 | 30～39歳 | 40～49歳 | 50～59歳 | 60～64歳 | 65～69歳 | 70～79歳 | 80歳以上 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 青葉区 | 男性 | 17,911 (1.7) | 5,660 (0.5) | 19,951 (1.9) | 17,263 (1.6) | 20,743 (1.9) | 21,287 (2.0) | 8,443 (0.8) | 7,610 (0.7) | 14,596 (1.4) | 8,657 (0.8) | 142,121 |
| | 女性 | 16,874 (1.6) | 5,328 (0.5) | 19,010 (1.8) | 17,856 (1.7) | 21,878 (2.1) | 21,956 (2.1) | 8,991 (0.8) | 8,651 (0.8) | 17,884 (1.7) | 15,923 (1.5) | 154,351 |
| | 計 | 34,785 (3.3) | 10,988 (1.0) | 38,961 (3.7) | 35,119 (3.3) | 42,621 (4.0) | 43,243 (4.1) | 17,434 (1.6) | 16,261 (1.5) | 32,480 (3.1) | 24,580 (2.3) | 296,472 |
| 宮城野区 | 男性 | 11,967 (1.1) | 3,486 (0.3) | 11,745 (1.1) | 12,518 (1.2) | 14,161 (1.3) | 14,268 (1.3) | 5,276 (0.5) | 4,648 (0.4) | 8,608 (0.8) | 4,950 (0.5) | 91,627 |
| | 女性 | 11,330 (1.1) | 3,417 (0.3) | 11,997 (1.1) | 12,124 (1.1) | 14,045 (1.3) | 13,775 (1.3) | 5,408 (0.5) | 4,908 (0.5) | 10,411 (1.0) | 8,847 (0.8) | 96,262 |
| | 計 | 23,297 (2.2) | 6,903 (0.6) | 23,742 (2.2) | 24,642 (2.3) | 28,206 (2.6) | 28,043 (2.6) | 10,684 (1.0) | 9,556 (0.9) | 19,019 (1.8) | 13,797 (1.3) | 187,889 |
| 若林区 | 男性 | 8,905 (0.8) | 2,357 (0.2) | 8,722 (0.8) | 9,104 (0.9) | 10,441 (1.0) | 10,183 (1.0) | 3,917 (0.4) | 3,499 (0.3) | 6,619 (0.6) | 3,737 (0.4) | 67,484 |
| | 女性 | 8,445 (0.8) | 2,364 (0.2) | 8,586 (0.8) | 9,137 (0.9) | 10,171 (1.0) | 9,917 (0.9) | 3,958 (0.4) | 3,727 (0.3) | 7,719 (0.7) | 6,765 (0.6) | 70,789 |
| | 計 | 17,350 (1.6) | 4,721 (0.4) | 17,308 (1.6) | 18,241 (1.7) | 20,612 (1.9) | 20,100 (1.9) | 7,875 (0.7) | 7,226 (0.7) | 14,338 (1.3) | 10,502 (1.0) | 138,273 |
| 太白区 | 男性 | 15,783 (1.5) | 4,281 (0.4) | 12,448 (1.2) | 14,188 (1.3) | 16,676 (1.6) | 17,183 (1.6) | 6,719 (0.6) | 6,211 (0.6) | 12,119 (1.1) | 7,692 (0.7) | 113,300 |
| | 女性 | 15,055 (1.4) | 3,997 (0.4) | 12,380 (1.2) | 14,569 (1.4) | 17,043 (1.6) | 17,163 (1.6) | 6,772 (0.6) | 6,643 (0.6) | 14,619 (1.4) | 13,015 (1.2) | 121,256 |
| | 計 | 30,838 (2.9) | 8,278 (0.8) | 24,828 (2.3) | 28,757 (2.7) | 33,719 (3.2) | 34,346 (3.2) | 13,491 (1.3) | 12,854 (1.2) | 26,738 (2.5) | 20,707 (1.9) | 234,556 |
| 泉区 | 男性 | 12,666 (1.2) | 3,865 (0.4) | 9,921 (0.9) | 11,085 (1.0) | 14,235 (1.3) | 15,454 (1.5) | 6,136 (0.6) | 6,141 (0.6) | 12,941 (1.2) | 7,640 (0.7) | 100,084 |
| | 女性 | 12,171 (1.1) | 3,811 (0.4) | 9,765 (0.9) | 10,838 (1.0) | 14,703 (1.4) | 15,661 (1.5) | 6,695 (0.6) | 6,910 (0.6) | 15,361 (1.4) | 11,721 (1.1) | 107,636 |
| | 計 | 24,837 (2.3) | 7,676 (0.7) | 19,686 (1.8) | 21,923 (2.1) | 28,938 (2.7) | 31,115 (2.9) | 12,831 (1.2) | 13,051 (1.2) | 28,302 (2.7) | 19,361 (1.8) | 207,720 |
| 計 | 男性 | 67,232 (6.3) | 19,649 (1.8) | 62,787 (5.9) | 64,158 (6.0) | 76,256 (7.2) | 78,375 (7.4) | 30,491 (2.9) | 28,109 (2.6) | 54,883 (5.2) | 32,676 (3.1) | 514,616 |
| | 女性 | 63,875 (6.0) | 18,917 (1.8) | 61,738 (5.8) | 64,524 (6.1) | 77,840 (7.3) | 78,472 (7.4) | 31,824 (3.0) | 30,839 (2.9) | 65,994 (6.2) | 56,271 (5.3) | 550,294 |
| | 計 | 131,107 (12.3) | 38,566 (3.6) | 124,525 (11.7) | 128,682 (12.1) | 154,096 (14.5) | 156,847 (14.7) | 62,315 (5.9) | 58,948 (5.5) | 120,877 (11.4) | 88,947 (8.4) | 1,064,910 |

※括弧内の数値は総人口に対する割合を示す

≪今回調査における回収数（性別、年齢別、居住区別）≫

| | | 16～19歳 | 20～29歳 | 30～39歳 | 40～49歳 | 50～59歳 | 60～64歳 | 65～69歳 | 70～79歳 | 80歳以上 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 青葉区 | 男性 | 4 (0.2) | 11 (0.7) | 17 (1.0) | 30 (1.8) | 37 (2.2) | 22 (1.3) | 20 (1.2) | 50 (3.0) | 20 (1.2) | 211 |
| | 女性 | 2 (0.1) | 19 (1.1) | 26 (1.6) | 50 (3.0) | 56 (3.3) | 26 (1.6) | 16 (1.0) | 42 (2.5) | 25 (1.5) | 262 |
| | 計 | 6 (0.4) | 30 (1.8) | 43 (2.6) | 80 (4.8) | 93 (5.5) | 48 (2.9) | 36 (2.1) | 92 (5.5) | 45 (2.7) | 473 |
| 宮城野区 | 男性 | 1 (0.1) | 14 (0.8) | 8 (0.5) | 13 (0.8) | 29 (1.7) | 12 (0.7) | 15 (0.9) | 20 (1.2) | 7 (0.4) | 119 |
| | 女性 | 3 (0.2) | 11 (0.7) | 26 (1.6) | 27 (1.6) | 19 (1.1) | 11 (0.7) | 11 (0.7) | 34 (2.0) | 20 (1.2) | 162 |
| | 計 | 4 (0.2) | 25 (1.5) | 34 (2.0) | 40 (2.4) | 48 (2.9) | 23 (1.4) | 26 (1.6) | 54 (3.2) | 27 (1.6) | 281 |
| 若林区 | 男性 | 2 (0.1) | 6 (0.4) | 9 (0.5) | 15 (0.9) | 19 (1.1) | 7 (0.4) | 17 (1.0) | 20 (1.2) | 11 (0.7) | 106 |
| | 女性 | 3 (0.2) | 12 (0.7) | 13 (0.8) | 9 (0.5) | 24 (1.4) | 11 (0.7) | 10 (0.6) | 18 (1.1) | 7 (0.4) | 107 |
| | 計 | 5 (0.3) | 18 (1.1) | 22 (1.3) | 24 (1.4) | 43 (2.6) | 18 (1.1) | 27 (1.6) | 38 (2.3) | 18 (1.1) | 213 |
| 太白区 | 男性 | 4 (0.2) | 8 (0.5) | 16 (1.0) | 26 (1.6) | 27 (1.6) | 15 (0.9) | 13 (0.8) | 30 (1.8) | 18 (1.1) | 157 |
| | 女性 | 6 (0.4) | 15 (0.9) | 27 (1.6) | 27 (1.6) | 27 (1.6) | 15 (0.9) | 25 (1.5) | 51 (3.0) | 13 (0.8) | 206 |
| | 計 | 10 (0.6) | 23 (1.4) | 43 (2.6) | 53 (3.2) | 54 (3.2) | 30 (1.8) | 38 (2.3) | 81 (4.8) | 31 (1.8) | 363 |
| 泉区 | 男性 | 4 (0.2) | 9 (0.5) | 15 (0.9) | 18 (1.1) | 22 (1.3) | 14 (0.8) | 18 (1.1) | 38 (2.3) | 14 (0.8) | 152 |
| | 女性 | 4 (0.2) | 9 (0.5) | 22 (1.3) | 31 (1.8) | 33 (2.0) | 15 (0.9) | 18 (1.1) | 41 (2.4) | 21 (1.3) | 194 |
| | 計 | 8 (0.5) | 18 (1.1) | 37 (2.2) | 49 (2.9) | 55 (3.3) | 29 (1.7) | 36 (2.1) | 79 (4.7) | 35 (2.1) | 346 |
| 計 | 男性 | 15 (0.9) | 48 (2.9) | 65 (3.9) | 102 (6.1) | 134 (8.0) | 70 (4.2) | 83 (5.0) | 158 (9.4) | 70 (4.2) | 745 |
| | 女性 | 18 (1.1) | 66 (3.9) | 114 (6.8) | 144 (8.6) | 159 (9.5) | 78 (4.7) | 80 (4.8) | 186 (11.1) | 86 (5.1) | 931 |
| | 計 | 33 (2.0) | 114 (6.8) | 179 (10.7) | 246 (14.7) | 293 (17.5) | 148 (8.8) | 163 (9.7) | 344 (20.5) | 156 (9.3) | 1,676 |

※無回答、性別（問３８）における「回答しない」を除く
※括弧内の数値は無回答を除いた有効回収数に対する割合を示す
※調査対象（令和６年８月１日現在、満 16 歳以上の市民）の関係上、16 歳未満の人口は掲載していない

# ２章　調査結果の要約

# ２章　調査結果の要約

（１）回答者の属性…15 ページ

■有効回答者 1,735 人のうち、「女性」が 53.9%、「男性」（43.1%）と女性比率がやや高い。

■回答者の年齢については、「70～79 歳」が 20.0%と最も多く、以下、「60～64 歳」と「65～69 歳」をあわせた 60 歳台（18.0%）、「50～59 歳」（17.5%）となっている。

■自身を含んだ家族の人数については、「２人」が 36.4%と最も多く、以下、「３人」（23.8%）、「１人」（17.1%）、「４人」（13.9%）となっている。

■同居家族内の要援護者（自身を含む）については、「65 歳以上の方」が 37.9%で最も多く、次に、「小学生」（9.6%）、「身体に障害があり、自力避難ができない方」（5.0%）、「１～３歳児」（4.2%）となっている。なお、「いずれもいない」は 38.1%となっている。

■現在の住まいの形態については、「一戸建て持家」が 53.7%と最も多く、以下、「賃貸アパート・マンション（１～５階部分）」（17.2%）、「分譲マンション（１～５階部分）」（9.6%）となっている。

■仙台市での居住年数については、「20 年以上」が 69.3%と最も多く、以下、「10 年～20 年未満」（14.7%）、「４年～10 年未満」（7.8%）、「１年～４年未満」（4.4%）となっている。

（２）災害への備えについて…20 ページ

■生活の中で特に不安に思う災害のうち、１番目に心配な災害については、「地震災害」が 81.5%と突出しており、以下、「豪雨による洪水」（4.8%）、「原子力災害」（3.3%）、「津波・高潮災害」（3.1%）となっている。

参考までに前回調査と比較すると、１位の「地震災害」は変わらず、今回調査では 81.5%とやや増加している。２位は「原子力災害」から「豪雨による洪水」へと変化が見られた。

点数化し比較すると、「地震災害」が 4,611 点と突出した点数となった。以下、「豪雨による洪水」（1,476 点）、「強風による災害」（816 点）、「大規模な建物火災」（733 点）となっている。

■家庭内で非常時にすぐ使用できるように用意しているものについては、「懐中電灯」が 85.3%と最も多く、以下、「食料・飲料水」（74.8%）、「乾電池」（73.4%）、「カセットコンロ」（64.6%）、「携帯ラジオ」（58.2%）となっている。なお、「特にない」は 3.5%であり、ほとんどの方が非常時にすぐ使用できるように何らかの用意をしていると回答している。

参考までに前回調査と比較すると、今回調査では「食料・飲料水」は 74.8%と 4.9 ポイント増加し、３位から２位に上昇している。「スマートフォン・携帯電話の充電用電池」は 48.2%と 10.8 ポイント、「携帯トイレ・簡易トイレ」は 30.1%と 15.8 ポイントと増加している一方、「携帯ラジオ」は 58.2%と 7.1 ポイント減少している。

■家庭内で備蓄している食料については、全体で「２日分～３日分」が 55.7%と最も多く、以下、「４日分～７日分」（30.1%）、「８日分以上」（6.5%）と続いた。

非常用飲料水については、全体で「２日分～３日分」が 50.9%と最も多く、以下、「４日分～７日分」（29.5%）、「８日分以上」（8.9%）、「１日分以下」（8.4%）となっている。

■家庭内で準備している災害への備えについて「何らかの取組をしている」方は、《自家用車にこまめに給油をする》が 59.7%、《食器棚などに飛び出し防止器具をとりつける》が 46.7%、《風呂にいつも水をいれておく》が 44.4%、《家族との連絡方法を決める》が 41.8%、《自宅から避難する場所、経路を決める》が 36.4%となっている。取り組みができていない理由として最も多いのは、「必要性は感じるが実施していない」となっている。

参考までに前回調査と比較すると、今回調査では「何らかの取組をしている」方は、≪自家用車にこまめに給油をする≫が 59.7%と 8.5 ポイント、≪食器棚などに飛び出し防止器具をとりつける≫が 46.7%と 4.2 ポイント、≪自宅の耐震化をする≫が 33.0%と 3.8 ポイント増加している。

■家具などの転倒防止対策の実施状況については、全体で「一部の家具などで実施している」が 57.3%と

最も多く、以下、「全ての家具などで実施している」（11.4%）、「金銭的な余裕や時間がないため、実施していない」（10.3%）、「対策が必要な家具などがない」（7.1%）となっている。
年齢別にみると、『50～59 歳』から『70～79 歳』では、全てまたは一部の家具などで転倒防止対策を実施していると回答した割合が７割以上を占めており他の年齢に比べ多くなっている。

■防災・減災に対する意識の評価については、全体で「ふつう」が 50.7%と最も多く、以下、「やや高い」（19.1%）、「やや低い」（16.5%）、「低い」（8.4%）となっている。性別にみると、『女性』では「やや低い」が 18.2%と『男性』（20.7%）に比べ若干多くなっているが大きな差は見られない。
年齢別にみると、『20～29 歳』では「高い」への回答はなく、「やや低い」については他の年代に比べて 28.8%と多くなっている。

（３）防災訓練について…40 ページ

■防災訓練などへの参加状況については、全体で「何らかの訓練などに参加したことがある」は 70.3%となっており、「いずれも参加したことがない」は 27.6%となっている。
年齢別にみると、『16～19 歳』では、「何らかの訓練などに参加したことがある」が 91.4%と多く、『20～29 歳』から『65～69 歳』では７～８割台となっている。一方、『70～79 歳』『80 歳以上』では「いずれも参加したことがない」が他の年齢に比べ多くなっている。

■防災訓練等へ参加しない理由については、全体で「訓練があることを知らなかった」が 38.8%と最も多く、以下、「必要性は感じるが参加していない」（37.9%）、「参加する意思はあったが、都合により参加できなかった」（11.8%）、「訓練に参加する必要がない」（4.3%）となっている。
年齢別にみると、『16～19 歳』から『30～39 歳』では、「訓練があることを知らなかった」が４～７割台となっており他の年齢に比べ多くなっている。70 歳以上では、「必要性は感じているが参加していない」が約５割を占めている。

（４）防災施策について…45 ページ

■仙台市が実施している取り組みの認知度については、「仙台防災ハザードマップ」が 56.5%と最も多く、以下、「仙台市津波避難訓練」（20.5%）、「せんだいくらしのマップ」（19.8%）、「わが家と地域の防災チェック表」（14.4%）となっている。なお、いずれの施策も選択していない人（無回答）は 30.7%となっている。
年齢別にみると、40 歳台以下では「せんだいくらしのマップ」が２割を超えて、他の年代に比べて多くなっている。「仙台防災ハザードマップ」は『70～79 歳』『80 歳以上』を除いて５割以上となっている。

（５）ハザードマップについて…48 ページ

■ハザードマップ閲覧の有無については、全体で「紙面版のみ見たことがある」が 37.8%、次いで「ハザードマップを見たことがない」（23.3%）、「インターネット版のみ見たことがある」（19.5%）、「インターネット版、紙面版のどちらも見たことがある」（15.4%）と続いた。
年齢別にみると、若年層では「インターネット版のみ見たことがある」が多く、年齢が上がるにつれて「紙面版のみ見たことがある」が多くなる傾向にある。

■自宅周辺の災害リスクについて把握しているかたずねたところ、全体では「災害リスクを把握できている」が 53.7%、「ハザードマップを見たことがあるが、災害リスクはあまり把握していない」が 44.4%であった。
年齢別にみると、『30～39 歳』が「災害リスクを把握できている」が 66.2%と最も多かった。一方、『16～19 歳』『20～29 歳』や『70～79 歳』『80 歳以上』において「ハザードマップを見たことがあるが、災害リスクはあまり把握していない」が過半数以上となっている。

■災害リスクをあまり把握していない理由をたずねたところ、「一度見たことがあるが、内容を忘れてしまった」が 58.0%と最も多く、以下、「ハザードマップの種類が多く、全ての災害リスクを把握できてい

るかわからない」(27.9%)、「地図の縮尺が小さいことなどから、自宅周辺の状況がよくわからない」(24.1%) となっている。

■ハザードマップを見たことがない理由をたずねたところ、「ハザードマップを見ようと思っているが、見る方法がわからない」が 30.4%と最も多く、以下、「ハザードマップの存在を知らなかった」(28.6%)、「災害が近づいている時や現に災害が発生した時にハザードマップを見ようと思っている」(26.7%) となっている。

### (6) 避難行動について…55 ページ

■災害の危険のある場所にいて、避難情報が発令された場合にどの時点で避難行動をとるべきかをたずねたところ、全体では「【警戒レベル4】避難指示の発令」が 48.8%で最も多く、次いで「【警戒レベル3】高齢者等避難の発令」(23.3%) となった。

年齢別には 65 歳以上の高齢者において「【警戒レベル4】避難指示の発令」で避難行動をとるとの回答も多く、「【警戒レベル3】高齢者等避難の発令」での避難行動が十分に浸透していない結果となった。

■避難を開始するきっかけについては、「市職員、消防職員、消防団員、町内会の役員などが避難の広報を呼びかけているのを確認したとき」が 73.0%と最も多く、以下、「近所の人が避難を開始したことを確認したとき」(57.1%)、「直接、誰かに避難を呼びかけられたとき」(56.9%)、「携帯電話、スマートフォンへの通知」(52.7%) となっている。

■正常性バイアスについては、全体で「聞いたことがない」が 36.2%と最も多く、以下、「聞いたことがあり、内容も知っている」(35.8%)、「聞いたことはあるが、内容まではわからない」(25.6%) となっている。

同調性バイアスについては、全体で「聞いたことがあり、内容も知っている」が 36.1%と最も多く、以下、「聞いたことがない」(34.7%)、「聞いたことはあるが、内容まではわからない」(26.1%) となっている。

### (7) 避難所の環境について…62 ページ

■避難所利用時に配慮してほしいことのうち、1番目に優先度が高いものについては、「衛生的・快適なトイレの設置」が 34.9%と最も多く、以下、「パーティションによるプライバシーの確保」(33.4%)、「簡易ベッド等による就寝環境の確保」(7.4%)、「高齢者・障害者に配慮したスペースの設置」(5.5%) となっている。

点数化し比較すると、「衛生的・快適なトイレの設置」が 3,122 点と最も高くなった。以下、「パーティションによるプライバシーの確保」(2,524 点)、「簡易ベッド等による就寝環境の確保」(1,038 点) となっている。

### (8) 地域住民相互の助け合いについて…64 ページ

■地域住民の共助推進のため有効だと思う取り組みについては、全体で「地域で防災に関して学ぶ機会を設ける」が 26.5%と最も多く、以下、「地域で気軽に参加できる防災訓練を増やす」(23.1%)、「地域の中心となるリーダーを養成する」(12.9%) となっている。

### (9) 災害時要支援者対策について…66 ページ

■災害時、家族以外の要援護者のために協力できることについては、「安否確認」が 60.5%と最も多く、以下、「安全な場所への避難の手助け」(58.6%)、「災害状況や避難情報の伝達」(49.2%)、「家族や親族への連絡」(47.4%) となっている。

なお、「協力できない、または難しい」は 10.0%となっている。

■災害時要援護者の支援に協力できない理由をたずねたところ、「近所付き合いがあまりない」が 40.5%と最も多く、以下、「自分自身の身体が不自由」(38.2%)、「自分の家族にもお年寄りや乳幼児などがい

るので、近所まで手が回らない」および「災害時要援護者がどこにいるかわからない」が 26.6%となっている。

■災害時要援護者への対策として行政に期待することについては、「おむつや、やわらかい食べ物など災害時要援護者用の生活支援用品を蓄える」が 28.5%と最も多く、以下、「緊急通報電話（ボタン１つで直接 119 番につながる電話）などの普及」(27.4%)、「地域での協力体制づくりの支援」(27.3%）となっている。

### （１０）避難情報の収集について…74 ページ

■災害発生時や発生しそうな時の情報収集手段については、「テレビ（データ放送除く)」が 79.6%と最も多く、以下、「常時携帯している情報端末(スマートフォン･携帯電話など)」(74.5%)、「ラジオ」(35.3%)、「テレビのデータ放送（ｄボタン)」(24.3%）となっている。

■パソコンやスマートフォンなどを活用し、どのように情報を収集しているかをたずねたところ、「防災アプリ（Ｙａｈｏｏ！防災速報など)」が 47.5%と最も多く、以下、「行政機関のウェブサイト（気象庁や宮城県のサイトなど)」(43.4%)、「仙台市公式ホームページ」(30.8%)、「仙台市避難情報ウェブサイト」(18.8%)、「仙台市公式ＳＮＳ（Ｘ、ＬＩＮＥなど)」(16.5%）となっている。

### （１１）東日本大震災の経験を伝えることについて…80 ページ

■東日本大震災の経験伝承への考えについては、全体で「すでに伝えたり、残したりしている」(34.7%）と「いずれは伝えたり、残したりしたい」(35.1%）が多く、合わせると『伝えたい』人は約７割となっている。一方、「わからない」人は 19.1%、「そう思わない」人は 3.9%となっている。
年齢別にみると、『16～19 歳』から『30～39 歳』では、「いずれは伝えたり、残したりしたい」が４～６割台と多く、60 歳以上では、「すでに伝えたり、残したりしている」が４割程度と多くなっている。

■東日本大震災の経験を伝承した（したい）理由をたずねたところ、「地震や津波、被害の大きさなど、災害の脅威を伝えるため」が 69.7%と最も多く、以下、「災害に備えることの大切さを伝えるため」(68.8%)、「災害時の工夫や知恵など、災害を乗り越える術を伝えるため」(53.4%）となっている。
年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「災害時だけではなく、普段から助け合うことの大切さを伝えるため」が多くなる傾向がある。

■東日本大震災の経験伝承とともに、大災害に備える考え方や行動を身に付けるための効果的な方法については、「東日本大震災の被災状況(津波やがれきの様子、ガソリンスタンドや食料品店での大行列など)が分かる写真や映像を見る」が 60.3%と最も多く、以下、「災害時に役立つ知識や技術（身の守り方、暖を取る方法、限られた食材での煮炊き、コミュニケーションの取り方、救援方法など）を学ぶ」(54.2%)、「災害時、多種多様な人が経験した「困りごと」を知る」(47.5%）となっている。

### （１２）東日本大震災を経験していない子どもたちへの取り組みについて…86 ページ

■震災未経験の子どもたちが防災意識を持つため有効と思う取り組みについては、「学校や地域における避難訓練への参加」が 67.8%と最も多く、以下、「防災関連施設（震災遺構荒浜小学校、津波避難タワー等）の見学」(53.5%)、「語り部や東日本大震災の経験者の話を聞く」(41.2%)、「家庭で災害時のことを話し合う」(40.1%）となっている。

### （１３）地震対策について…88 ページ

■「北海道・三陸沖後発地震注意情報」については、全体で「全く知らない」が 51.6%と最も多く、以下、「名前を聞いたことはある」(25.4%)、「知っている」(21.5%）となっている。

■電気火災防止のため、地震発生時にブレーカーを落とす行為が有効であることを知っているかどうかをたずねたところ、全体では、「はい」が 78.2%と多く、８割程度の人が有効であることを認知していた。
年齢別に見ると、『16～19 歳』『20～29 歳』においては「はい」の割合が相対的に少なくなっている。

■「感震ブレーカー」の設置状況については、全体で「設置しておらず、今後設置する予定はない」が 30.5%で最も多く、次に、「感震ブレーカーを設置している」（16.2%）、「設置していないが、今後設置する予定である」（7.1%）となった。なお、「わからない」は 44.0%で多かった。
年齢別にみると、おおむね若年層ほど「わからない」が多く、20 歳台以下においては６割を超えている。

■地震時に火災を早期に発見した場合、どのような初期消火活動をすることができるかたずねたところ、初期消火活動については、「消火器又は住宅用消火器で消火」が 64.0%で最も多く、以下、「水バケツ等にて消火」（60.4%）、「濡らしたタオル等にて消火」（43.4%）となっている。

（１４）消防施策について…92 ページ

■仙台市で実施している消防施策の認知度については、「杜の都ハートエイド（応急手当協力事業所表示制度）」が 28.2%と最も多く、以下、「おとな救急電話相談（＃７１１９）」（27.1%）、「仙台市小学生防火ポスターコンクール」（24.1%）、「住宅用火災警報器の設置・維持管理の促進」（20.9%）、「杜の都防災メール・Ｗｅｂ・Ｍｏｂｉｌｅ」（11.0%）となっている。
なお、いずれの事業も選択していない人（無回答）は 36.3%となっている。

■消防施策で特に力を入れて取り組むべきことについては、「増加する救急需要に対応するため、救急体制を強化する」が 49.7%と最も多く、以下、「大災害や遭難事故に対応するためレスキュー隊など救助体制を強化する」（35.7%）、「大災害や遭難事故に対応するため消防ヘリコプターによる救助・救命体制を強化する」（25.6%）、「テレビ・ＳＮＳを活用した防火・救急などの広報を強化する」「商業施設・病院など、災害時に多数の人に危険が及ぶ建物への指導を強化する」（ともに 24.0%）となっている。

■急病人や負傷者発生時に自身ができる応急手当については、「ＡＥＤを心肺停止（成人）の方に対し、使用することができる」が 36.8%と最も多く、以下、「胸骨圧迫を心肺停止（成人）の方に対し、実施することができる」（28.8%）、「けがにより出血している方に対し、止血を実施することができる」（28.6%）となっている。
一方、「できるものはない」は 39.7%となっている。

■消防団活動について、どのような場面で見聞きするかについては、「テレビ・新聞などのマスコミ」が 55.7%と最も多く、以下、「ポスター・パンフレット・広報誌など」（31.2%）、「家族または知人が入団している」（16.0%）となっている。

■消防団活動に対するイメージについては、「地域にとって頼もしい存在」が 61.9%と最も多く、以下、「訓練、災害活動が大変そう」（44.7%）、「上下関係が厳しそう」（9.3%）となっている。

■災害対応以外で地元消防団に期待することについては、「消防訓練・防災訓練の指導」が 64.7%と最も多く、以下、「火災予防の広報」（39.5%）、「防火・防災講話」（21.4%）となっている。

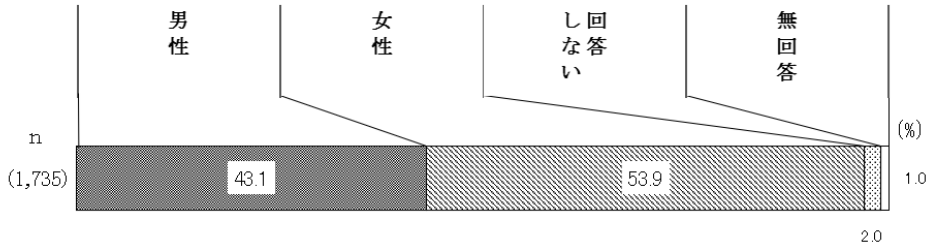
# ３章　調査の分析

# ３章　調査の分析

## Ⅰ．回答者属性

### １．性別

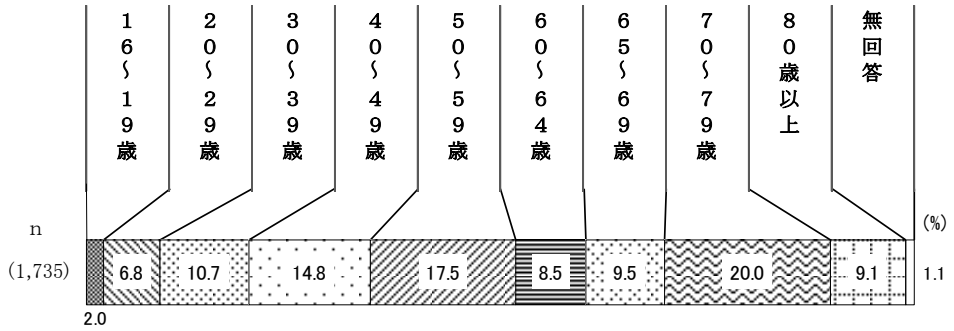
■性別（図表１－１）




回答者の性別については、「女性」が 53.9％と「男性」（43.1％）を上回っている。

### ２．年齢

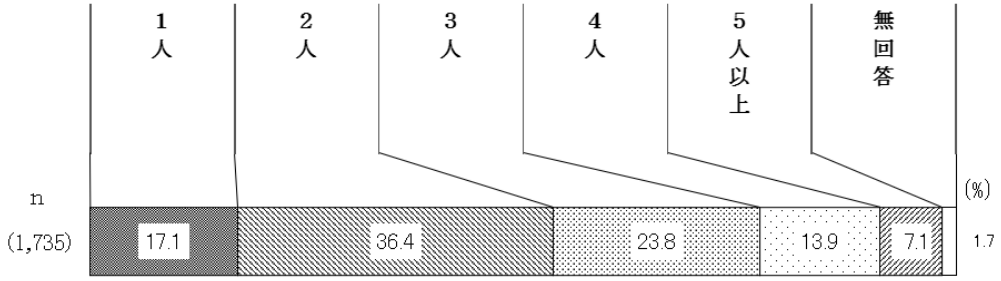
■年齢（図表１－２）




回答者の年齢については、「70～79 歳」が 20.0％と最も多く、以下、「60～64 歳」と「65～69 歳」をあわせた 60 歳台（18.0％）、「50～59 歳」（17.5％）となっている。

### ３．自身を含んだ家族の人数

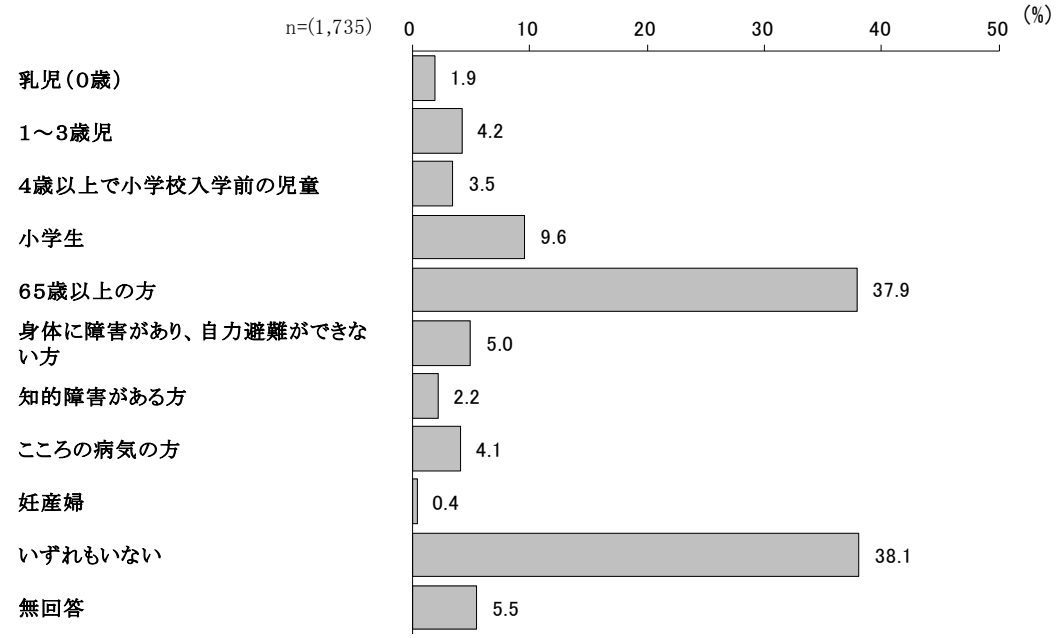
■自身を含んだ家族の人数（図表１－３）




自身を含んだ家族の人数については、「２人」が 36.4％と最も多く、以下、「３人」（23.8％）、「１人」（17.1％）、「４人」（13.9％）となっている。

## ４．同居家族内での要援護者

■同居家族内での要援護者（自身を含む）（図表１－４）



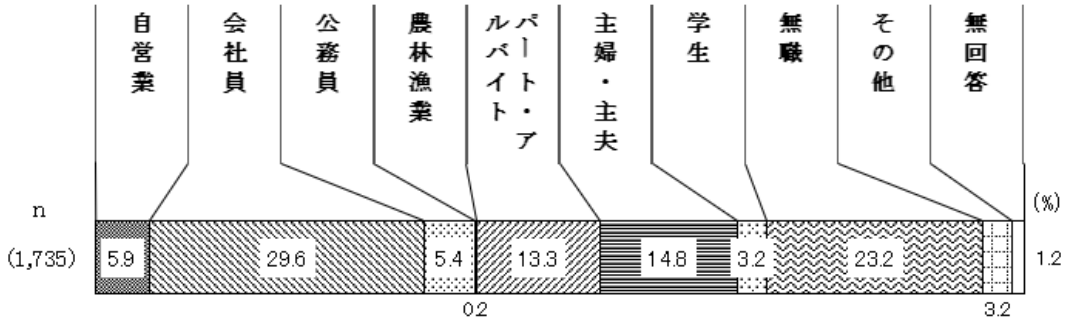

同居家族内の要援護者（自身を含む）については、「65 歳以上の方」が 37.9％で最も多く、以下、「小学生」（9.6％）、「身体に障害があり、自力避難ができない方」（5.0％）、「１～３歳児」（4.2％）となっている。

なお、「いずれもない」は 38.1％となっている。

※次ページ以降の要援護者別のグラフにおいて、『子どもがいる世帯』は「乳児（０歳）」「１～３歳児」「４歳以上で小学校入学前の児童」「小学生」、『高齢者がいる世帯』は「65 歳以上の方」、『支援を必要とする方がいる世帯』は「身体に障害があり、自力避難ができない方」「知的障害がある方」「こころの病気の方」「妊産婦」、『該当者がいない世帯』は「いずれもいない」と記載する。

## ５．職業

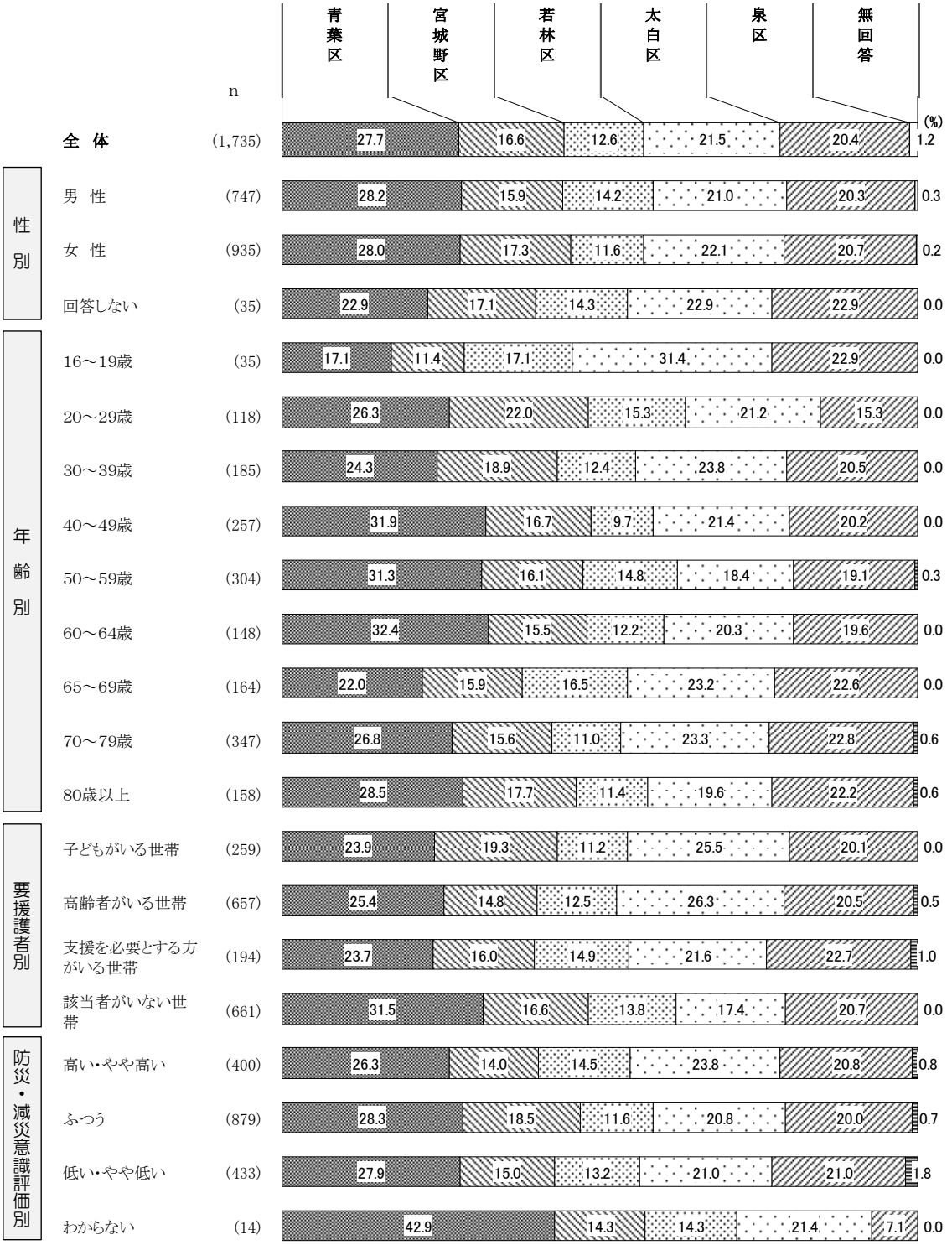
■職業（図表１－５）




回答者の職業については、「会社員」が 29.6％と最も多く、以下、「無職」（23.2％）、「主婦・主夫」（14.8％）、「パート・アルバイト」（13.3％）となっている。

## ６．居住区

■居住区（図表１－６）




回答者の居住区について、全体で「青葉区」が 27.7％と最も多く、以下、「太白区」（21.5％）、「泉区」（20.4％）、「宮城野区」（16.6％）、「若林区」（12.6％）となっている。

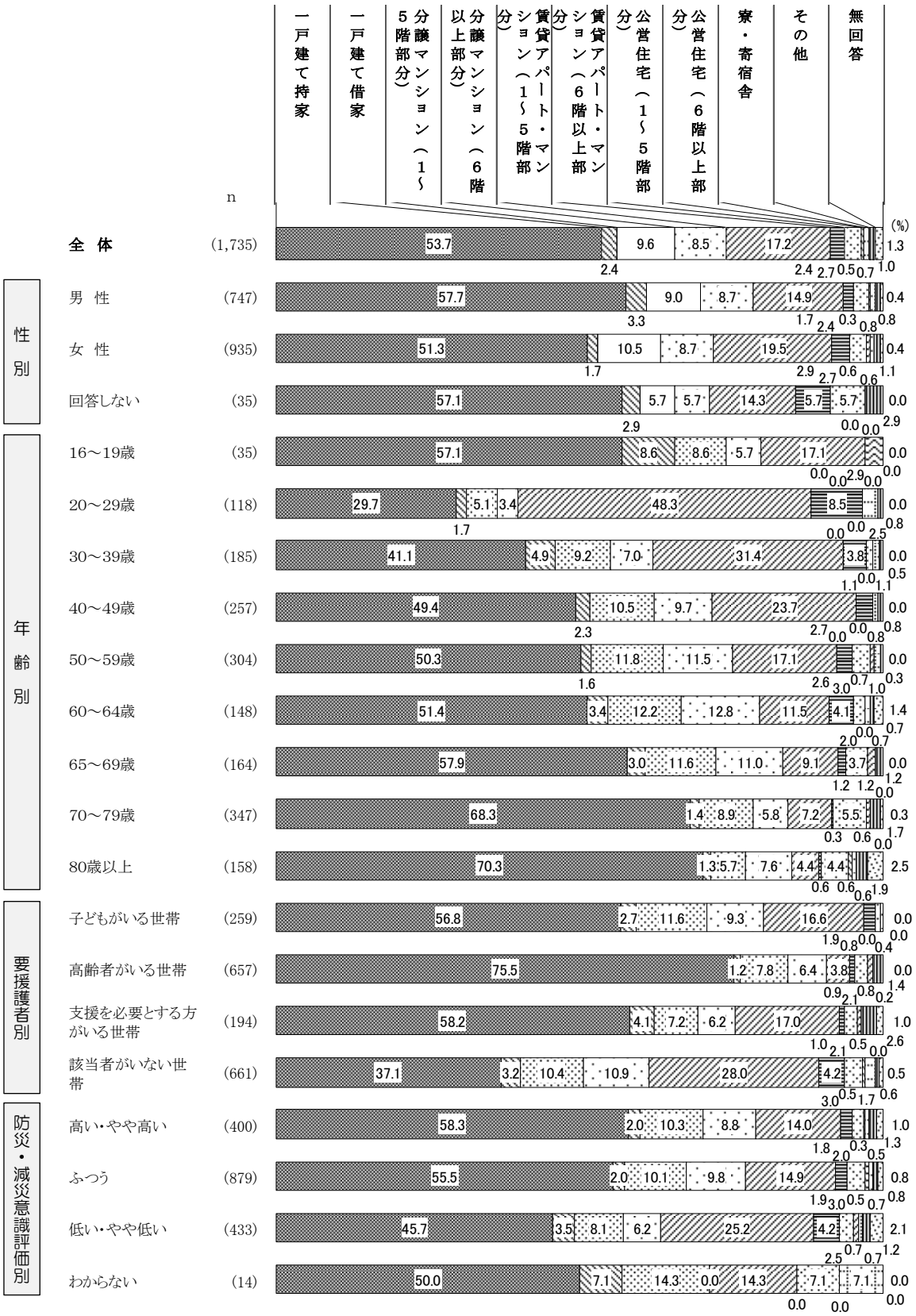
性別にみると、『男性』と『女性』で大きな差はみられない。

年齢別にみると、『16～19 歳』では、「太白区」が３割を超えて多くなっている。

※表内の「防災・減災意識評価別」とは、後述の問６の回答結果を反映したものである。

## ７．住まいの形態

■住まいの形態（図表１－７）



現在の住まいの形態については、全体で「一戸建て持家」が 53.7%と最も多く、以下、「賃貸アパート・マンション（１～５階部分)」(17.2%)、「分譲マンション（１～５階部分)」(9.6%）となっている。

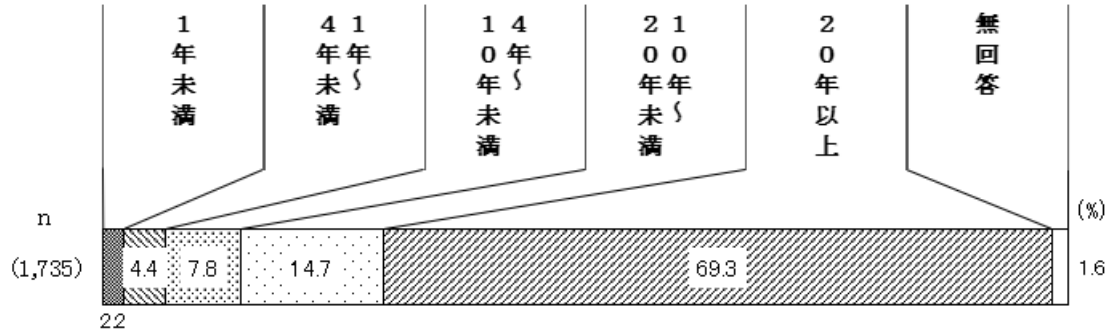
性別にみると、『男性』と『女性』で大きな差はみられない。

年齢別にみると、『20～29 歳』では、「賃貸アパート・マンション（１～５階部分)」が 48.3%で他の年齢に比べ突出して多い。また、年齢が高くなるにつれて「一戸建て持家」が多くなる傾向がみられ、70 歳以上では「一戸建て持家」が７割前後と多くなっている。

同居している家族内での要援護者（自身も含む）別にみると、いずれも「一戸建て持家」の割合が多く、『高齢者のいる世帯』では、75.5%と最も多くなっている。

## ８．居住年数

■居住年数（図表１－８）




仙台市での居住年数については、「20 年以上」が 69.3%と最も多く、以下、「10 年～20 年未満」(14.7%)、「４年～10 年未満」(7.8%)、「１年～４年未満」(4.4%）となっている。

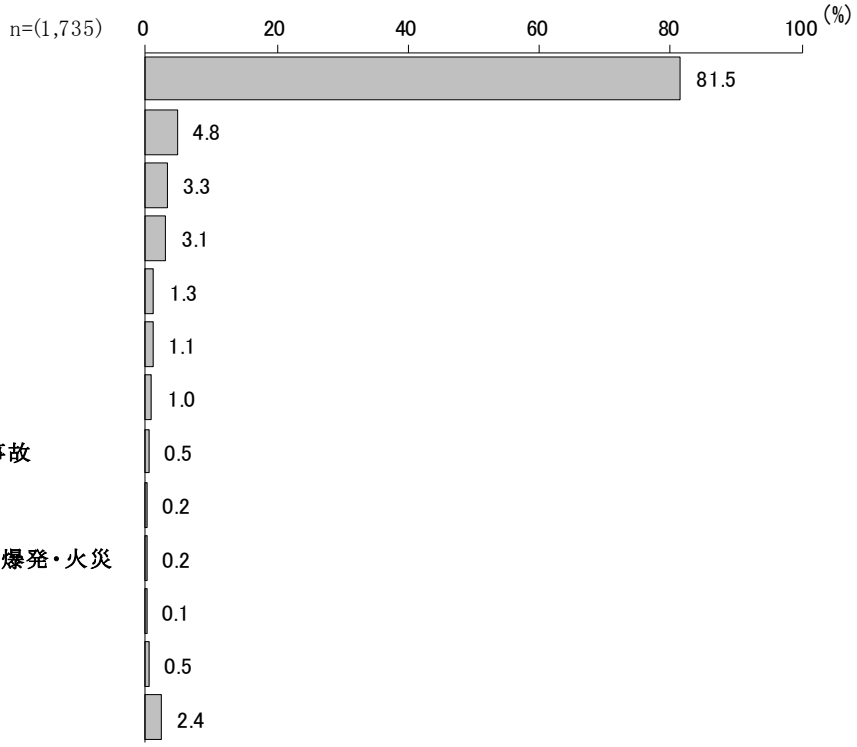
## Ⅱ．調査結果の詳細

1．災害への備えについて

（1）生活の中で特に不安に思う災害

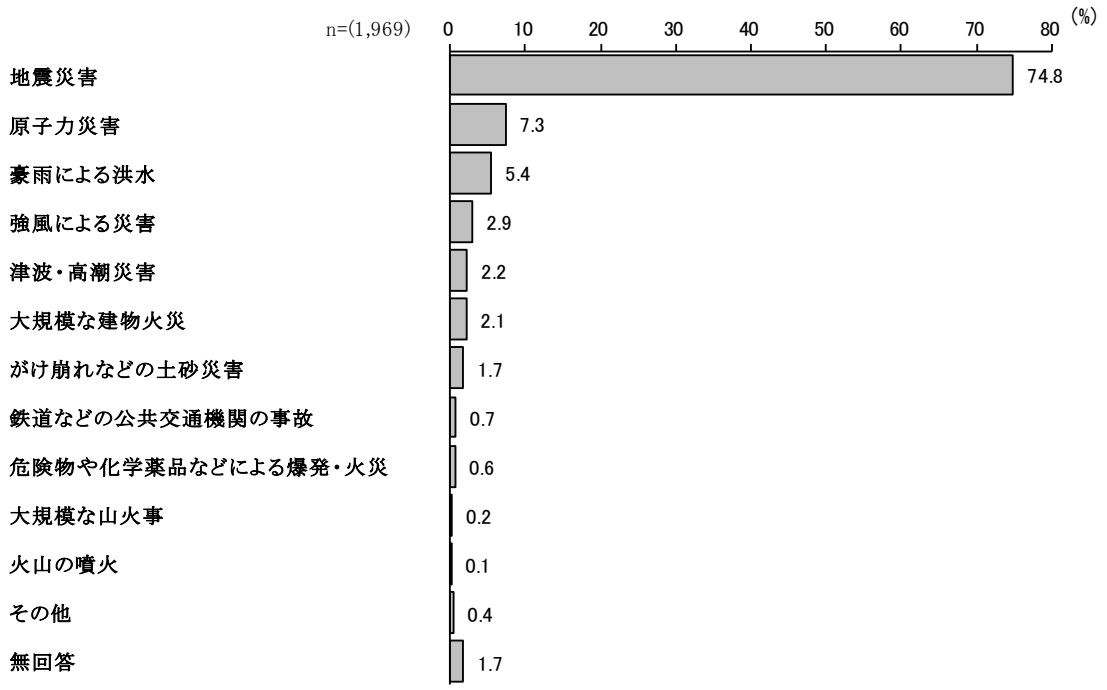
問１．あなたの生活の中で、特に不安に思う災害を心配な順番に３つまで選び、下の回答欄にご記入ください。（あてはまるもの３つまで）

■生活の中で特に不安に思う災害（１番目）（図表２－１－１－１）



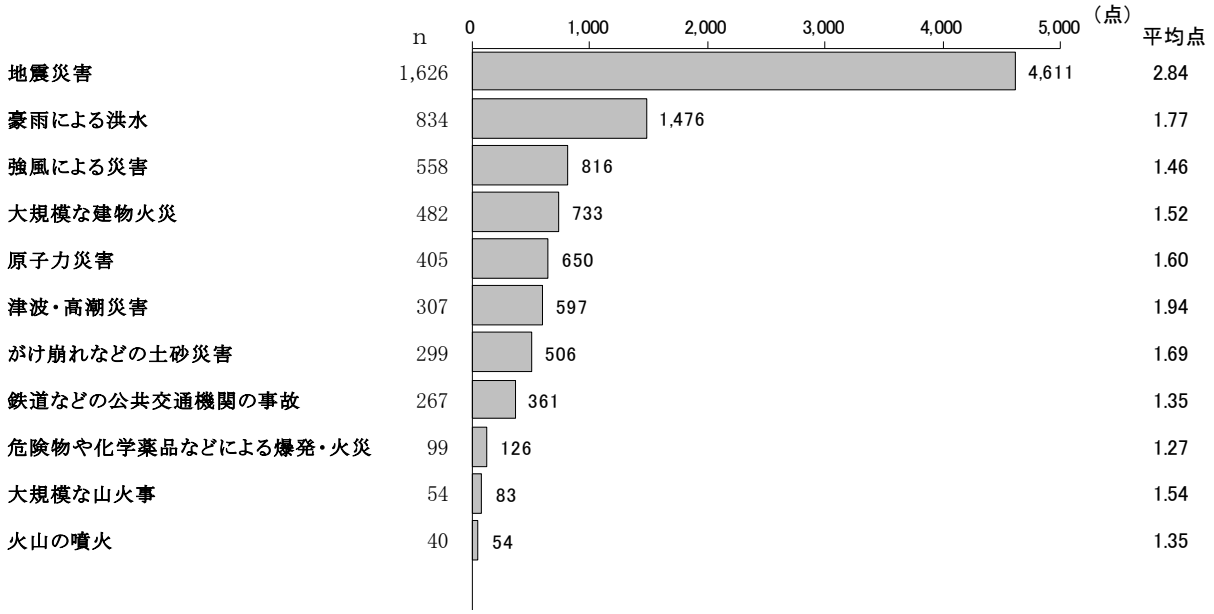

生活の中で特に不安に思う災害のうち、１番目に心配な災害については、「地震災害」が 81.5%と突出しており、以下、「豪雨による洪水」(4.8%)、「原子力災害」(3.3%)、「津波・高潮災害」(3.1%) となっている。

【参考】生活の中で特に不安に思う災害（１番目）（令和元年度調査結果）
（図表２－１－１－２）




参考までに前回調査と比較すると、１位の「地震災害」は変わらず、今回調査では 81.5%とやや増加している。２位の「原子力災害」は今回調査では 3.3%と 4.0 ポイント減少し、２位の順位が「原子力災害」から「豪雨による洪水」へと変化が見られた。

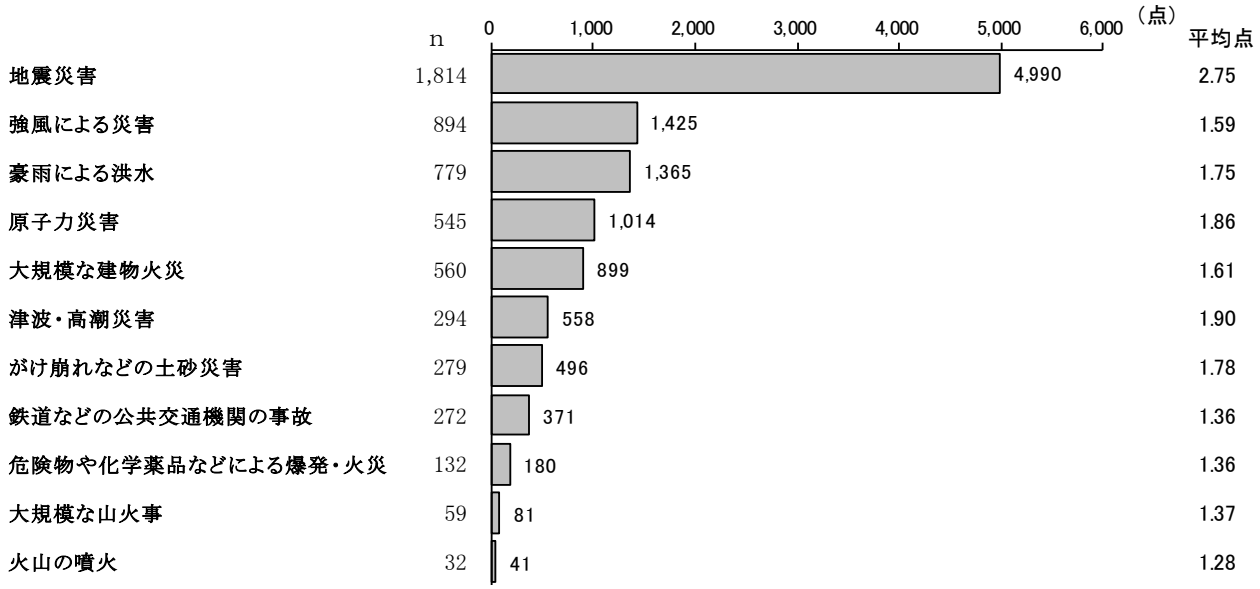
■生活の中で特に不安に思う災害について、１番目から３番目までを合算して集計（合計点）
（図表２－１－１－３）




１番目に選んだ災害に３点、２番目に２点、３番目に１点を付与し、合計すると、「地震災害」が 4,611 点と突出した点数となった。以下、「豪雨による洪水」（1,476 点）、「強風による災害」（816 点）、「大規模な建物火災」（733 点）となっている。

上記で算出した合計点を回答数で除し、平均点数で比較すると、「地震災害」が 2.84 点と最も高く、以下、「津波・高潮災害」（1.94 点）、「豪雨による洪水」（1.77 点）、「がけ崩れなどの土砂災害」（1.69 点）となっている。

【参考】生活の中で特に不安に思う災害について、１番目から３番目までを合算して集計（合計点）
（令和元年度調査結果）（図表２－１－１－４）



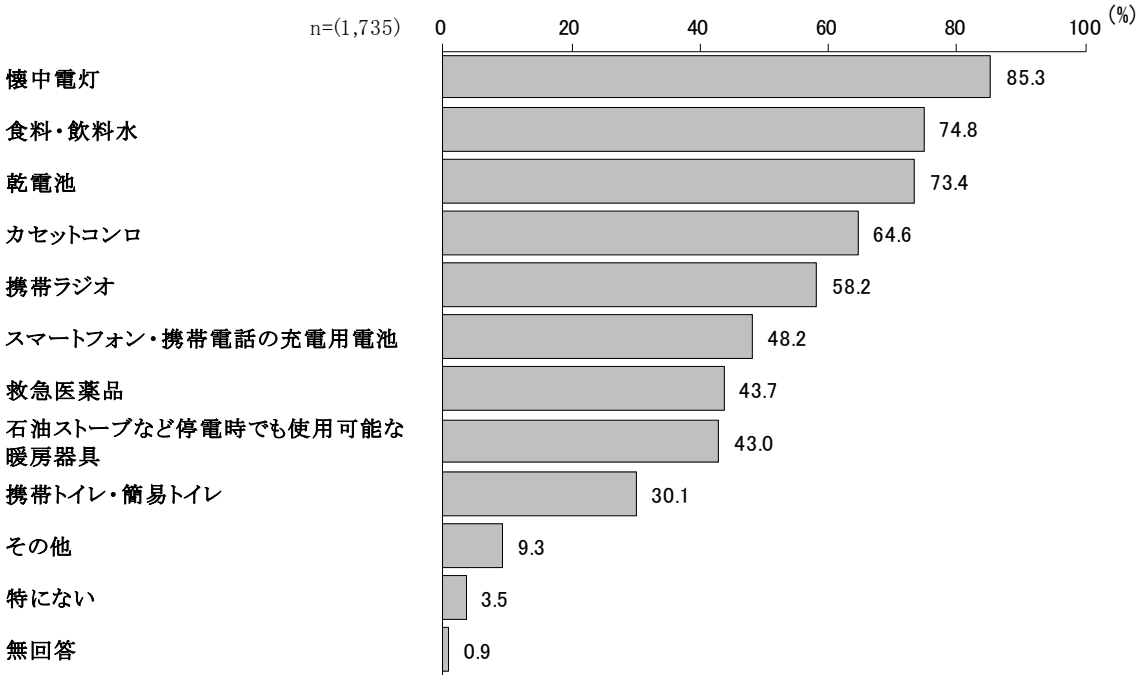

※１番目に選んだ災害に３点、２番目に２点、３番目に１点を付与した合計

参考までに前回調査と比較すると、１位の「地震災害」に変化はないが、「豪雨による洪水」が３位から２位に上昇している。

（２）家庭内で非常時にすぐ使用できるように用意しているもの

問２．ご自宅で、非常時にすぐ使用できるように用意しているものをすべてお選びください。
（あてはまるものすべてに○）

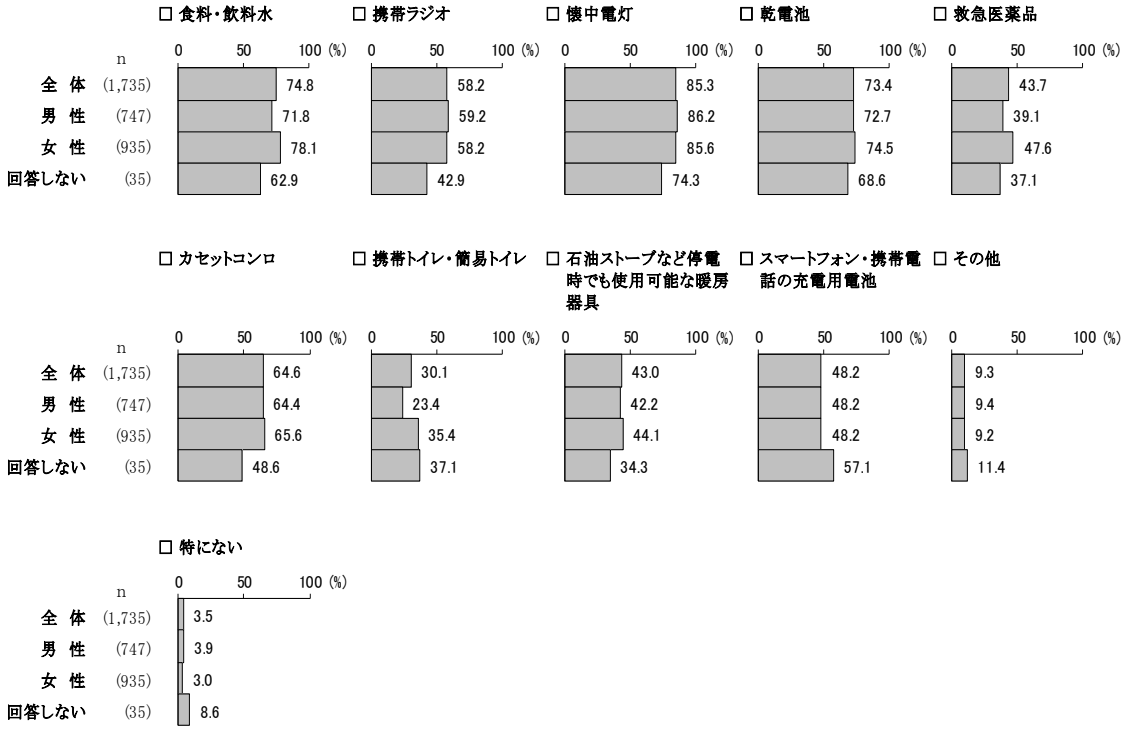
■家庭内で非常時にすぐ使用できるように用意しているもの（図表２－１－２－１）




家庭内で非常時にすぐ使用できるように用意しているものについては、「懐中電灯」が 85.3%と最も多く、以下、「食料・飲料水」(74.8%)、「乾電池」(73.4%)、「カセットコンロ」(64.6%)、「携帯ラジオ」(58.2%) となっている。

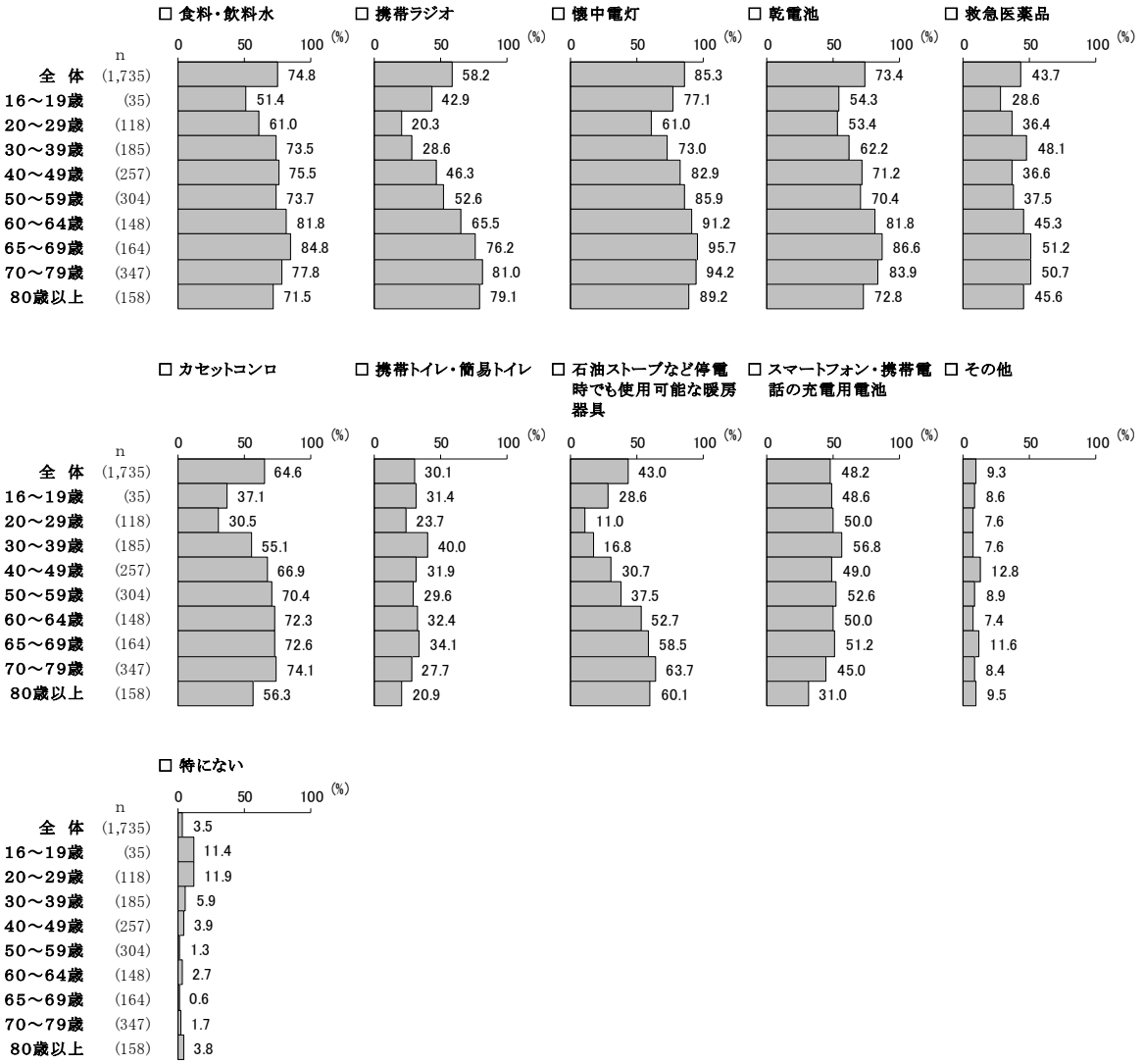
なお、「特にない」は 3.5%であり、ほとんどの方が非常時にすぐ使用できるように何らかの用意をしていると回答している。

■家庭内で非常時にすぐ使用できるように用意しているもの（性別）（図表２－１－２－２）



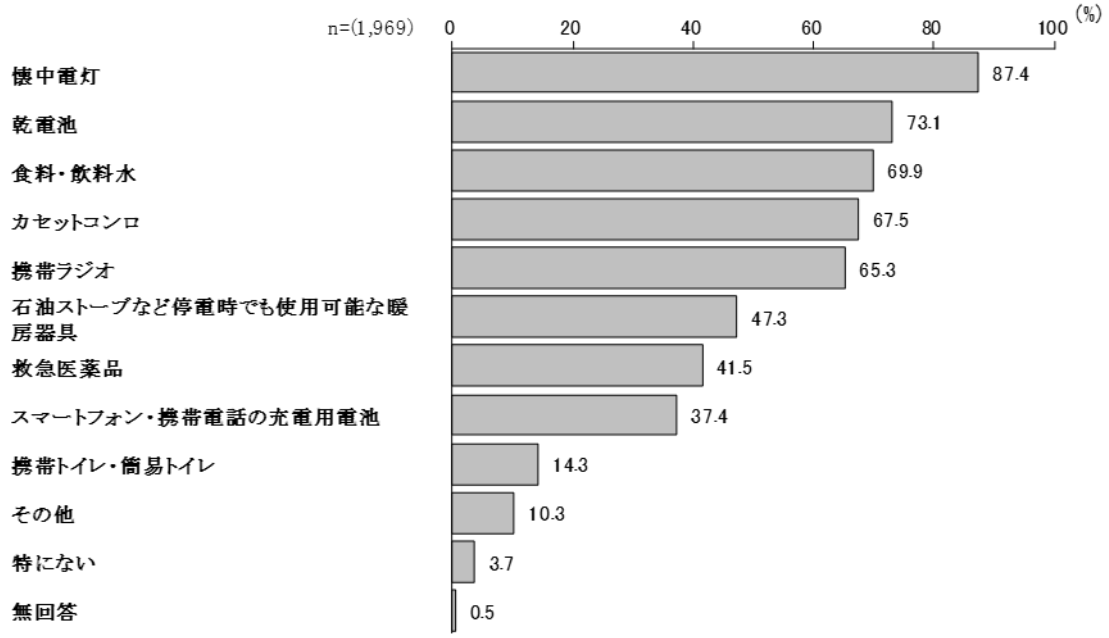

家庭内で非常時にすぐ使用できるように用意しているものを性別にみると、『女性』では、「救急医療品」が 47.6%、「携帯トイレ・簡易トイレ」が 35.4%と『男性』に比べ多くなっている。

■家庭内で非常時にすぐ使用できるように用意しているもの（年齢別）（図表２－１－２－３）




家庭内で非常時にすぐ使用できるように用意しているものを年齢別にみると、70 歳台以下では「スマートフォン・携帯電話の充電用電池」が４割を超え、『80 歳以上』に比べて多くなっている。また、年代が高くなるにつれ、「携帯ラジオ」「懐中電灯」「乾電池」「カセットコンロ」「石油ストーブなど停電時でも使用可能な暖房器具」を準備している割合が多くなっている。全体的なグラフの曲線は同じ傾向を示しており、若年層に比べて中高年層について備蓄に対する意識が高い。

【参考】家庭内で非常時にすぐ使用できるように用意しているもの（令和元年度調査結果）
（図表２－１－２－４）



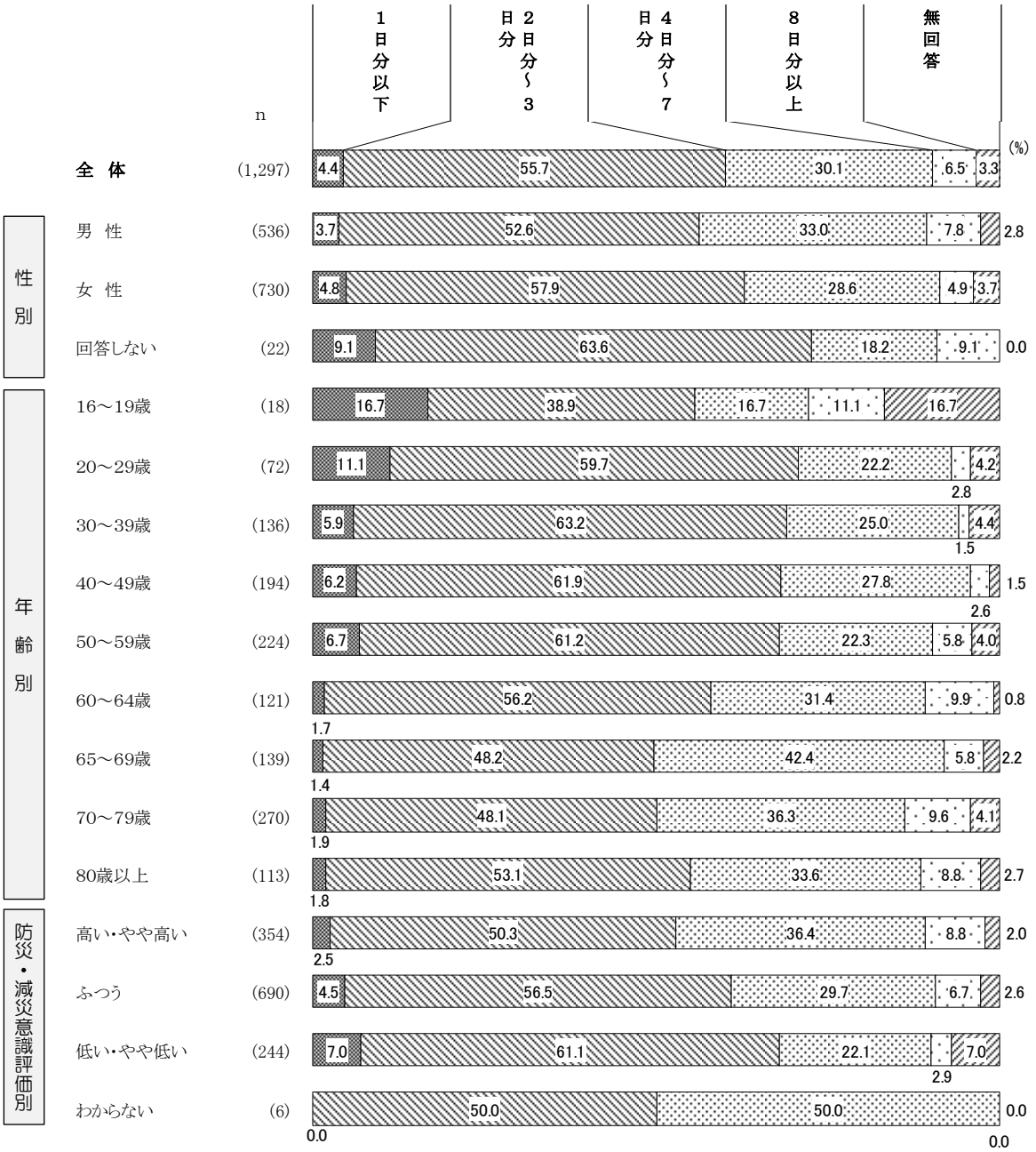

参考までに前回調査と比較すると、今回調査では「食料・飲料水」は 74.8%と 4.9 ポイント増加し、３位から２位に上昇している。「スマートフォン・携帯電話の充電用電池」は、48.2%と 10.8 ポイント、「携帯トイレ・簡易トイレ」は、30.1%と 15.8 ポイントと増加している一方、「携帯ラジオ」は 58.2%と 7.1 ポイント減少している。

（３）家庭内の非常用食料・飲料水の備蓄量

（問２で「１．食料・飲料水」を選択した方）

問３．（問２で「１．食料・飲料水」を選択した方にお伺いします。）
ご自宅の備蓄量はおおむね何日分を用意していますか。食料と飲料水それぞれお答えください。

■家庭内の非常用食料の備蓄量（図表２－１－３－１）



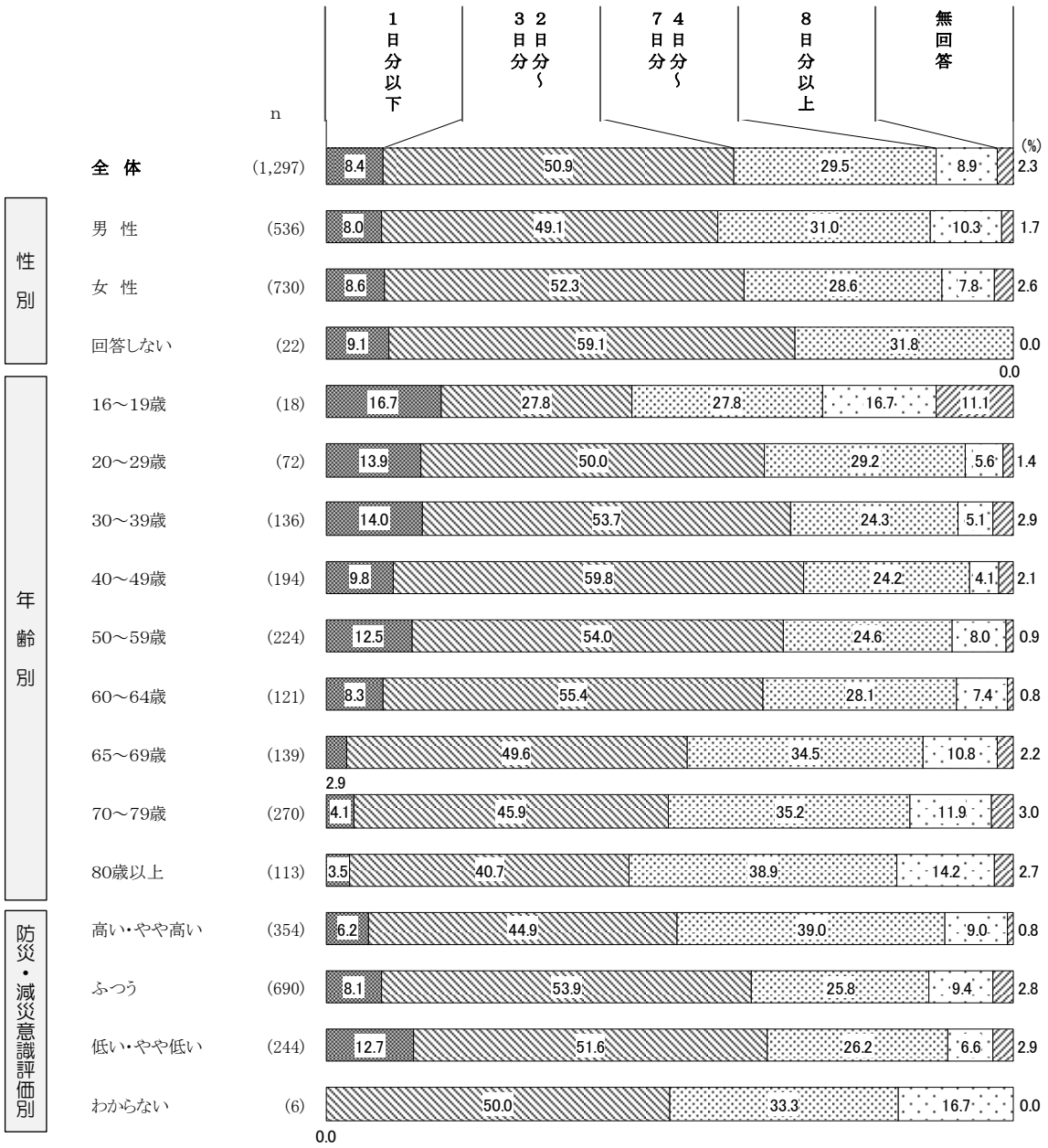
問２で「１．食料・飲料水」を選択した方に対し、非常用食料・飲料水のそれぞれの備蓄量をたずねたところ、非常用食料については、全体で「２日分～３日分」が 55.7%と最も多く、以下、「４日分～７日分」(30.1%)、「８日分以上」(6.5%) と続いた。

性別にみると、『男性』と『女性』で大きな差はみられない。

年齢別にみると、60 歳以上は「４日分～７日分」が３～４割台と他の年齢に比べ多くなっている。おおむね年齢が上がるにつれて備蓄量が多くなる傾向がみられる。

防災・減災意識評価別にみると、『高い・やや高い』では「４日分～７日分」が 36.4%、『低い・やや低い』では「２日分～３日分」が 61.1%と他の評価に比べ多くなっている。

■家庭内の非常用飲料水の備蓄量（図表２－１－３－２）




非常用飲料水については、全体で「２日分～３日分」が 50.9%と最も多く、以下、「４日分～７日分」(29.5%)、「８日分以上」(8.9%)、「１日分以下」(8.4%) となっている。

性別にみると、『男性』と『女性』で大きな差はみられない。

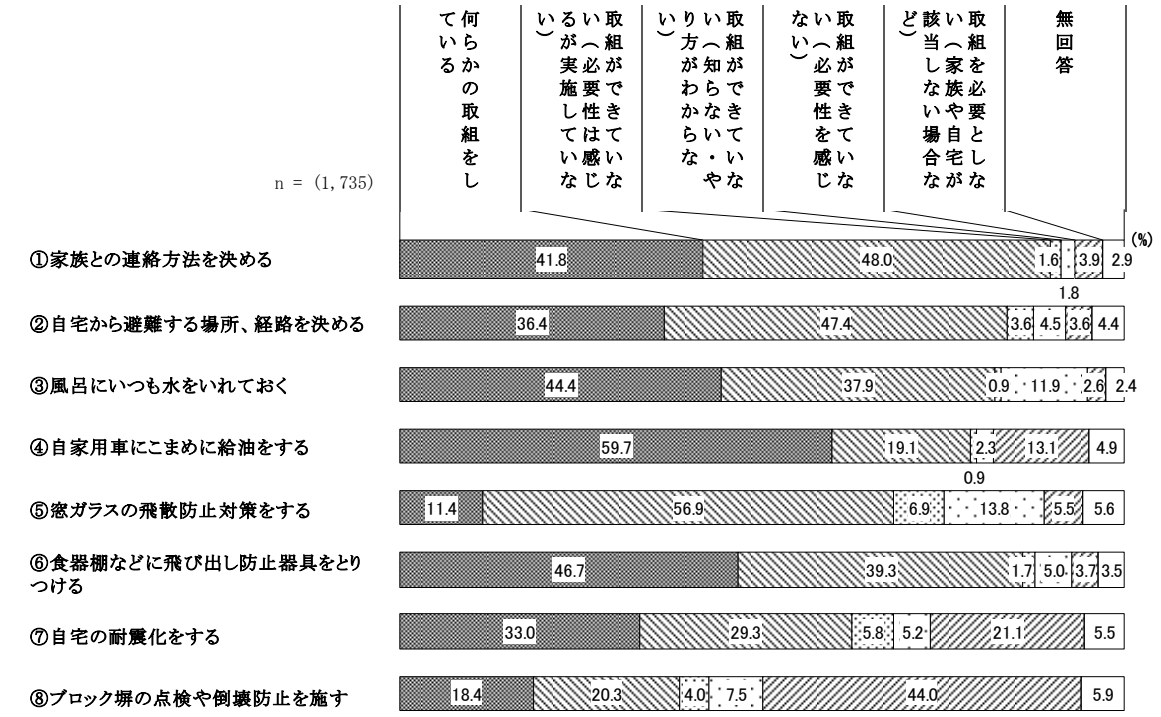
年齢別にみると、65 歳以上は「４日分～7 日分」が３割を超え他の年齢に比べ多くなっている。非常用食料同様に非常用飲料水についてもおおむね年齢が上がるにつれて備蓄量が多くなる傾向がみられる。

防災・減災意識評価別にみると、『低い・やや低い』では「１日分以下」が 12.7%と他の評価に比べ多くなっている。

（４）災害への備えに対する取り組み

問４．災害への備えについて、あなたや同居のご家族が取り組んでいることをお答えください。
（①～⑧のそれぞれについて、あてはまる番号に○）

■災害への備えに対する取り組み（図表２－１－４－１）

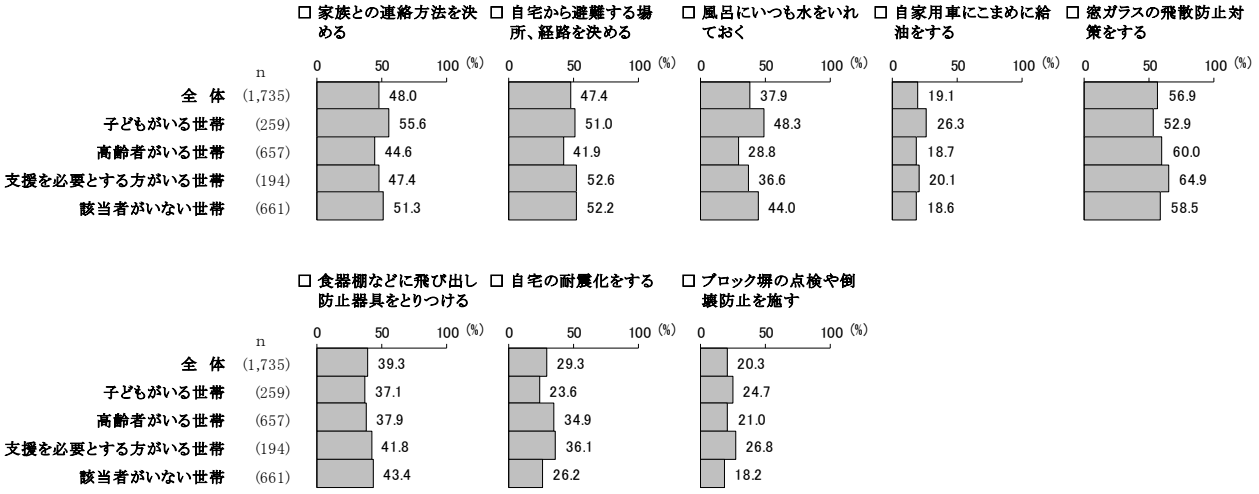



家庭内で準備している災害への備えについて、「何らかの取組をしている」方は、《自家用車にこまめに給油をする》が 59.7%、《食器棚などに飛び出し防止器具をとりつける》が 46.7%、《風呂にいつも水をいれておく》が 44.4%、《家族との連絡方法を決める》が 41.8%、《自宅から避難する場所、経路を決める》が 36.4%となっている。

一方で、《窓ガラスの飛散防止対策をする》《ブロック塀の点検や倒壊防止を施す》では、「何らかの取組をしている」は１割台にとどまっており、《窓ガラスの飛散防止対策をする》については、「取組ができていない（必要性は感じるが実施していない）」が 56.9%と他の項目に比べ多くなっている。

また、取り組みができていない理由として最も多いのは、「必要性は感じるが実施していない」となっている。

■「取組ができていない（必要性は感じるが実施していない）」（世帯内の要援護者〔自身を含む〕別）（図表２－１－４－２）

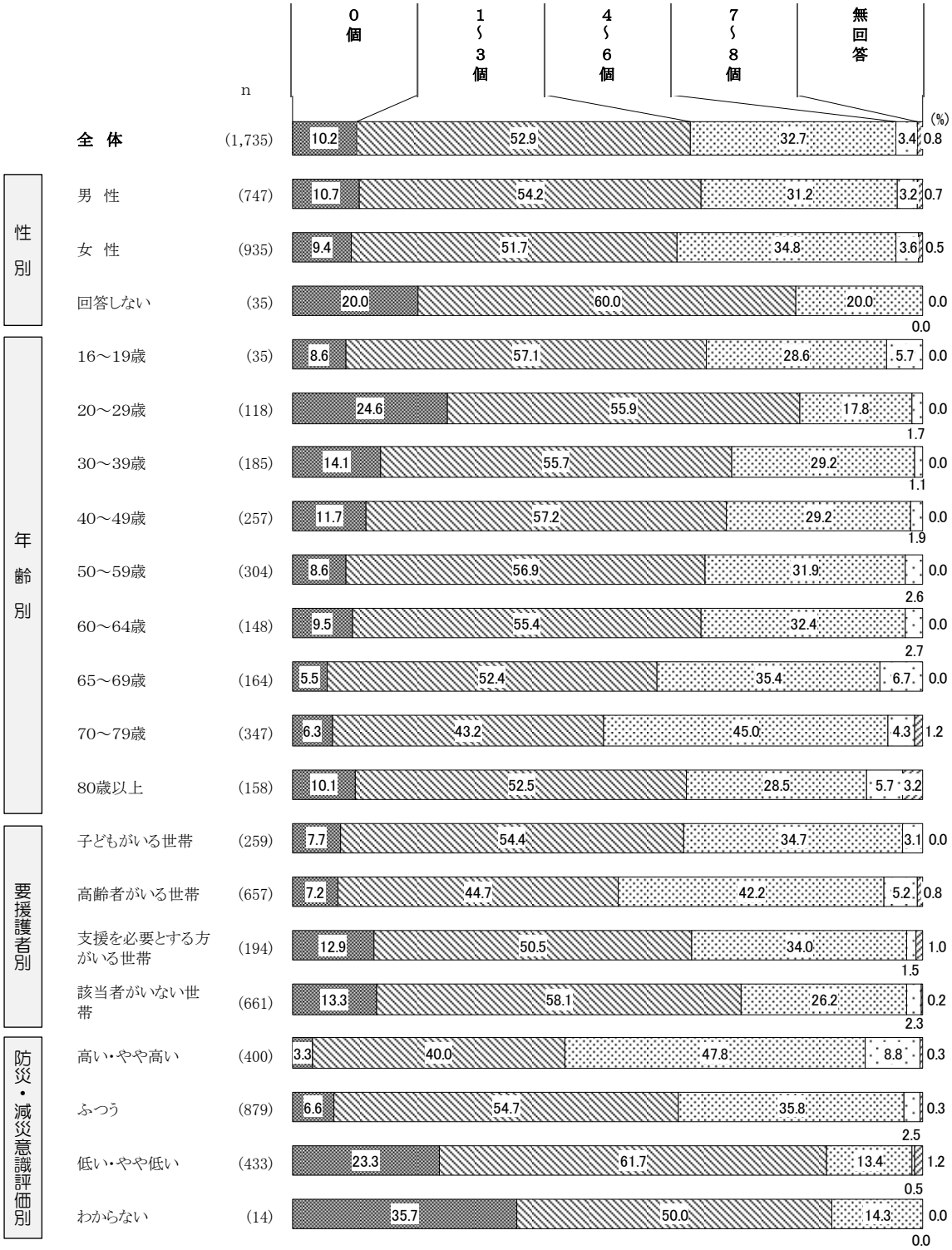






災害への備えで「取組ができていない（必要性は感じるが実施していない）」について世帯内の要援護者（自身も含む）別でみると、『子どもがいる世帯』は《家族との連絡方法を決める》が 55.6%、《風呂にいつも水を入れておく》が 48.3%、《自家用車にこまめに給油をする》が 26.3%などと多くなっている。

■「何らかの取組をしている」の回答数（図表２－１－４－３）



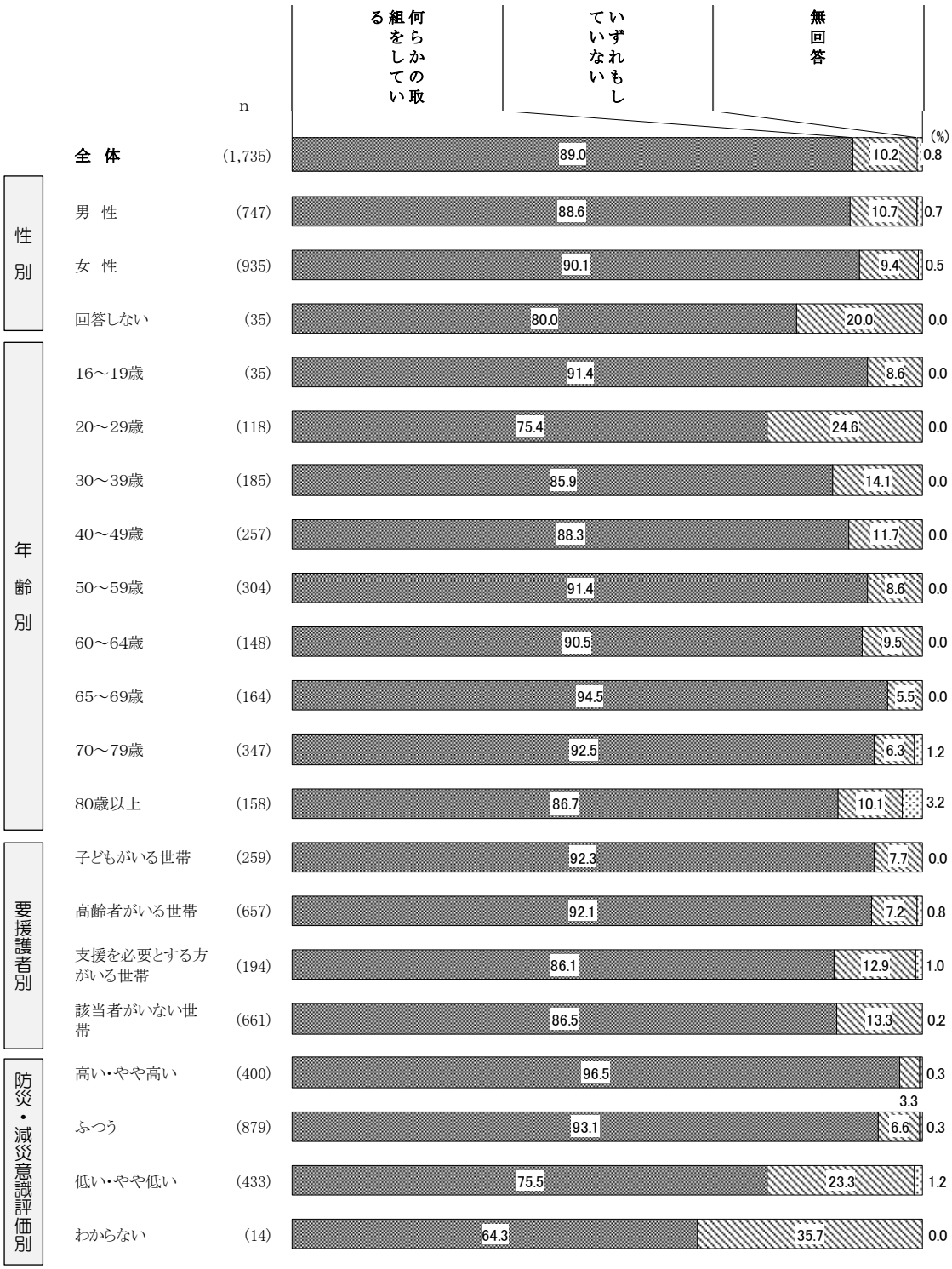

「何らかの取組をしている」の回答数を性別にみると、『男性』と『女性』で大きな差はみられない。

年齢別にみると、『20～29 歳』から『70～79 歳』では、年齢が上がるにつれて「0 個」が減少する傾向が見られる。

家族内での要援護者（自身も含む）別にみると、『高齢者がいる世帯』では、「４～６個」が 42.2%と他の世帯に比べ多くなっている。

防災・減災意識評価別にみると、『高い・やや高い』では、「４～６個」が 47.8%と最も多くなっている。

■災害への備えについて（２区分）（図表２－１－４－４）



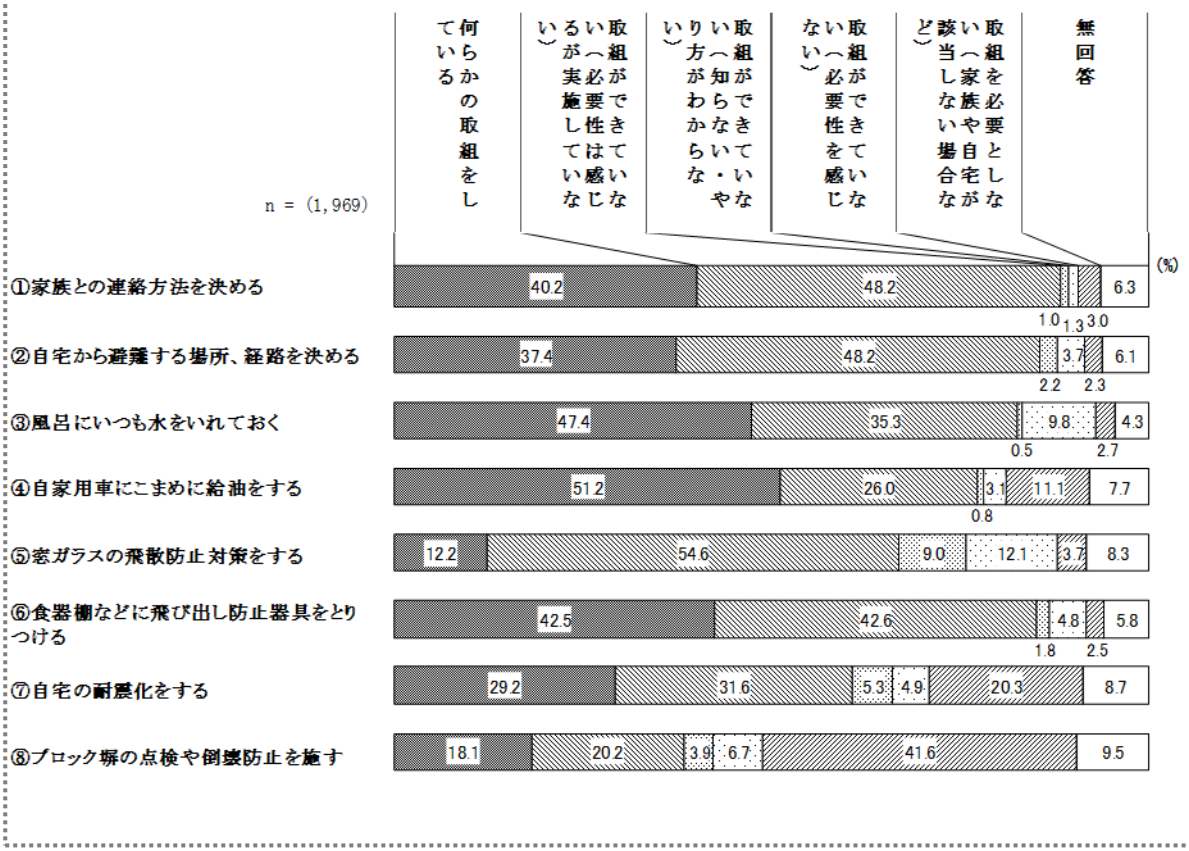

災害への備え（２区分）を性別にみると、『男性』と『女性』で大きな差はみられない。

年齢別にみると、『20～29 歳』では、「いずれもしていない」が他の年齢に比べ多くなっている。

家族内での要援護者（自身も含む）別にみると、大きな差はみられない。

防災・減災意識評価別にみると、『高い・やや高い』では、「何らかの取組をしている」が 96.5%と最も多くなっている。

【参考】災害への備えについて（令和元年度調査結果）（図表２－１－４－５）

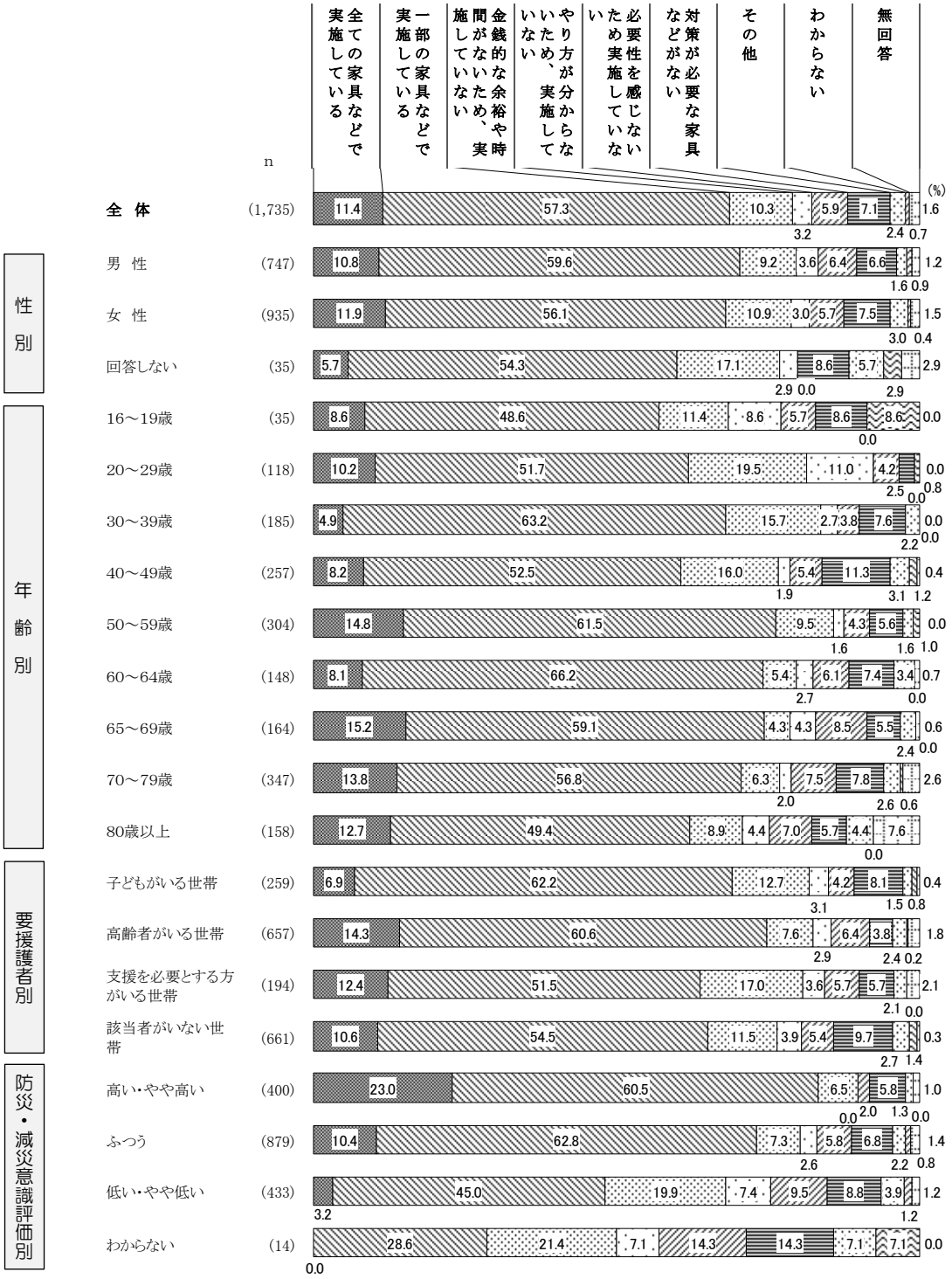



参考までに前回調査と比較すると、今回調査では「何らかの取組をしている」方は、≪自家用車にこまめに給油をする≫が 59.7%と 8.5 ポイント、≪食器棚などに飛び出し防止器具をとりつける≫が 46.7%と 4.2 ポイント、≪自宅の耐震化をする≫が 33.0%と 3.8 ポイント増加している。

（５）転倒防止対策の実施状況

問５．ご自宅では、家具などの転倒防止対策を実施していますか。あてはまるものを１つお選びください。（○は１つ）

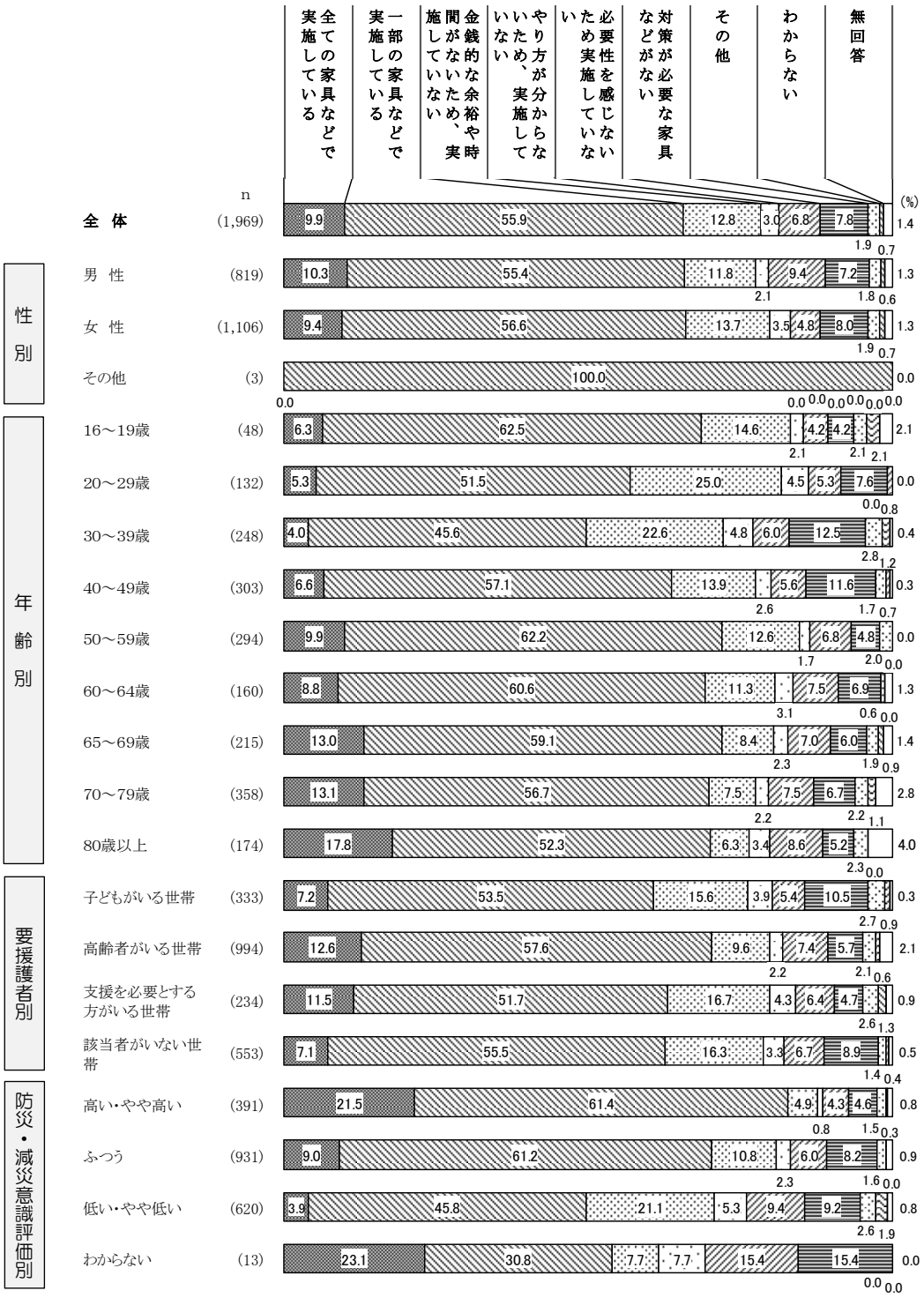
■転倒防止対策の実施状況（図表２－１－５－１）




家具などの転倒防止対策の実施状況については、全体で「一部の家具などで実施している」が 57.3%と最も多く、以下、「全ての家具などで実施している」（11.4%）、「金銭的な余裕や時間がないため、実施していない」（10.3%）、「対策が必要な家具などがない」（7.1%）となっている。

年齢別にみると、『50～59 歳』から『70～79 歳』では、全てまたは一部の家具などで転倒防止対策を実施していると回答した割合が７割以上を占めており他の年齢に比べ多くなっている。

【参考】転倒防止対策の実施状況（令和元年度調査結果）（図表２－１－５－２）

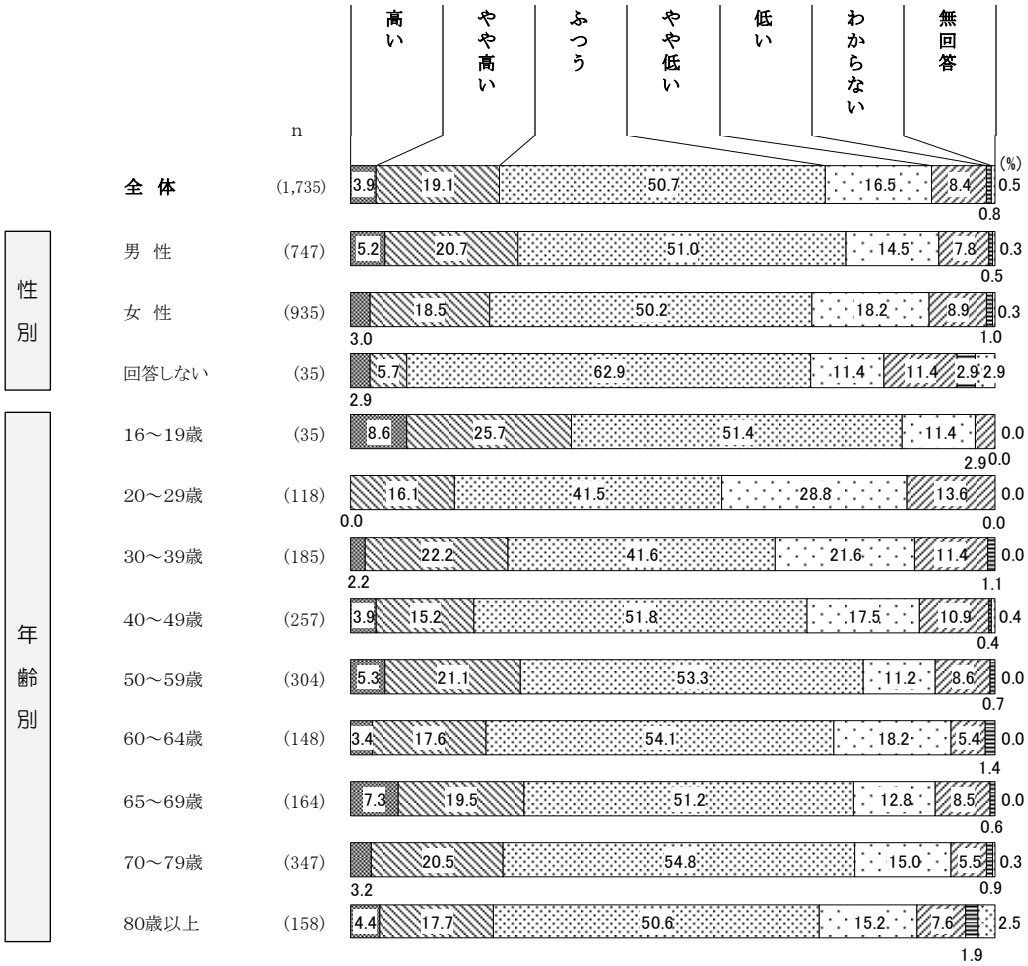



参考までに前回調査と比較すると、今回調査では、全てまたは一部の家具などで転倒防止対策を実施していると回答した要援護者別の世帯の合計割合が、『子どもがいる世帯』では 69.1％と 8.4 ポイント、『高齢者がいる世帯』では 74.9％と 4.7 ポイント増加しており、実施率が高くなっている。

（６）防災・減災への意識の評価

問６．あなたの防災・減災に対する意識はどのくらいだと思いますか。あてはまるものを１つお選びください。（自己評価でご回答ください）（○は１つ）

■防災・減災への意識の評価（図表２－１－６－１）

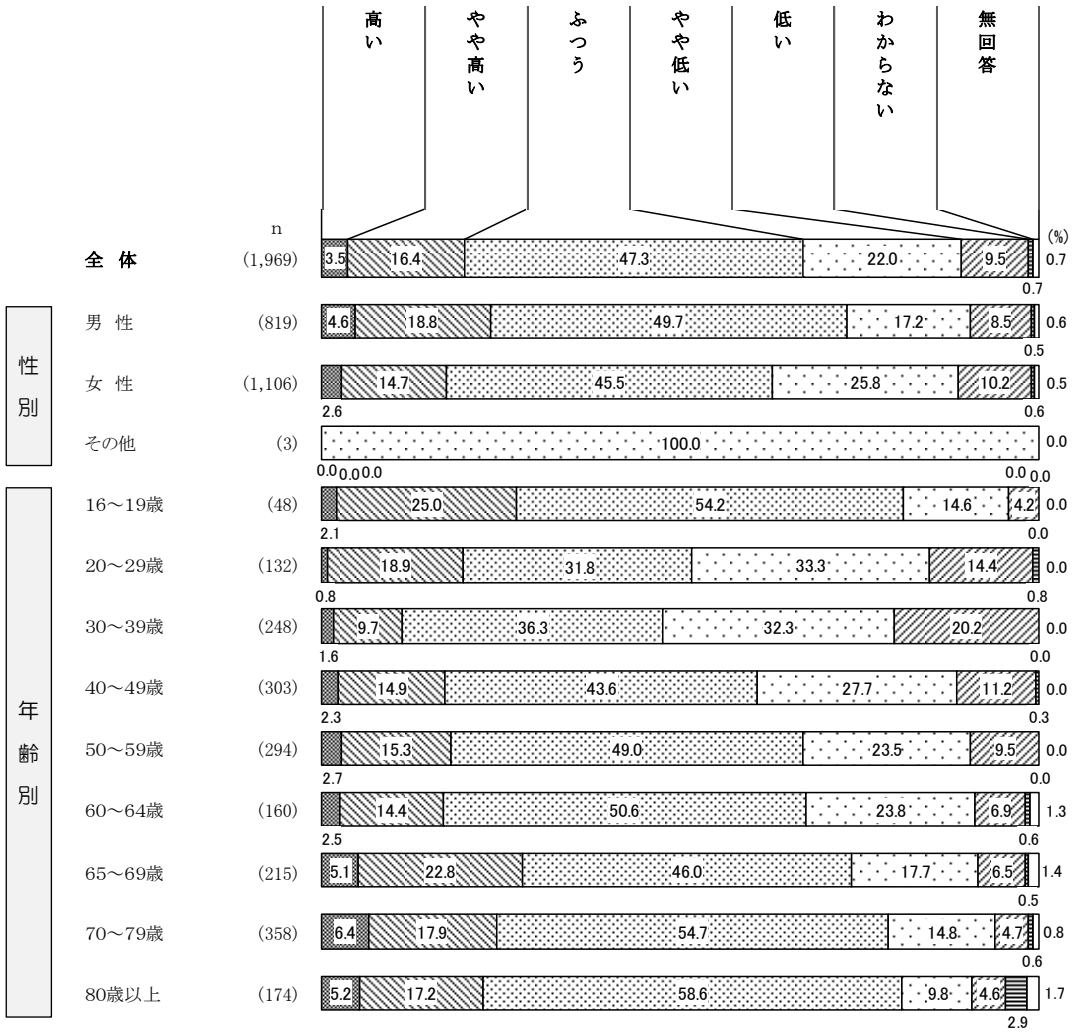



防災・減災に対する意識の評価については、全体で「ふつう」が 50.7％と最も多く、以下、「やや高い」（19.1％）、「やや低い」（16.5％）、「低い」（8.4％）となっている。

性別にみると、『女性』では「やや低い」が 18.2％と『男性』（20.7％）に比べ若干多くなっているがほとんど差は見られない。

年齢別にみると、『20～29 歳』では「高い」への回答はなかった。『20～29 歳』『30～39 歳』では、「やや低い」が２割を超え他の年代に比べて多くなっている。また、「ふつう」は『20～29 歳』『30～39 歳』では４割程度で、その他の年代では５割程度となっている。

【参考】防災・減災への意識の評価（令和元年度調査結果）（図表２－１－６－２）




参考までに前回調査と比較すると、今回調査では、『女性』では「やや低い」が 18.2%と 7.6 ポイント減少し、「やや高い」が 18.5%と 3.8 ポイント増加している。

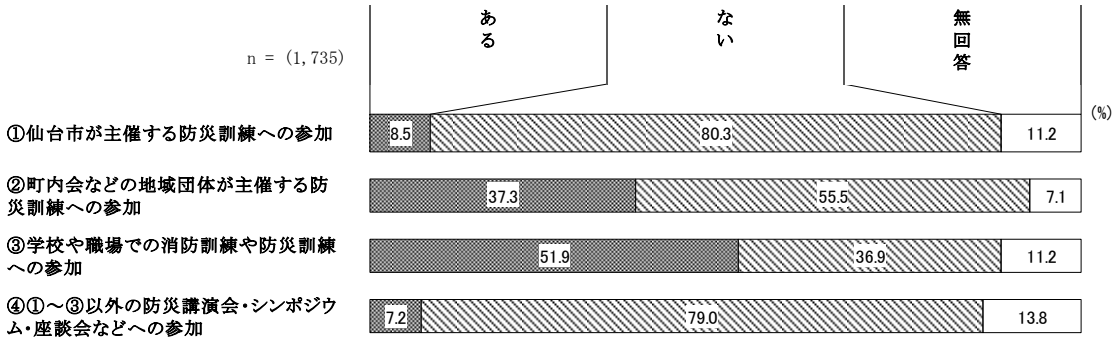
年齢別にみると、『20～29 歳』から『65～69 歳』では、「ふつう」の割合が増加し、「やや低い」の割合が減少している。

## ２．防災訓練について

### （１）防災訓練などへの参加状況

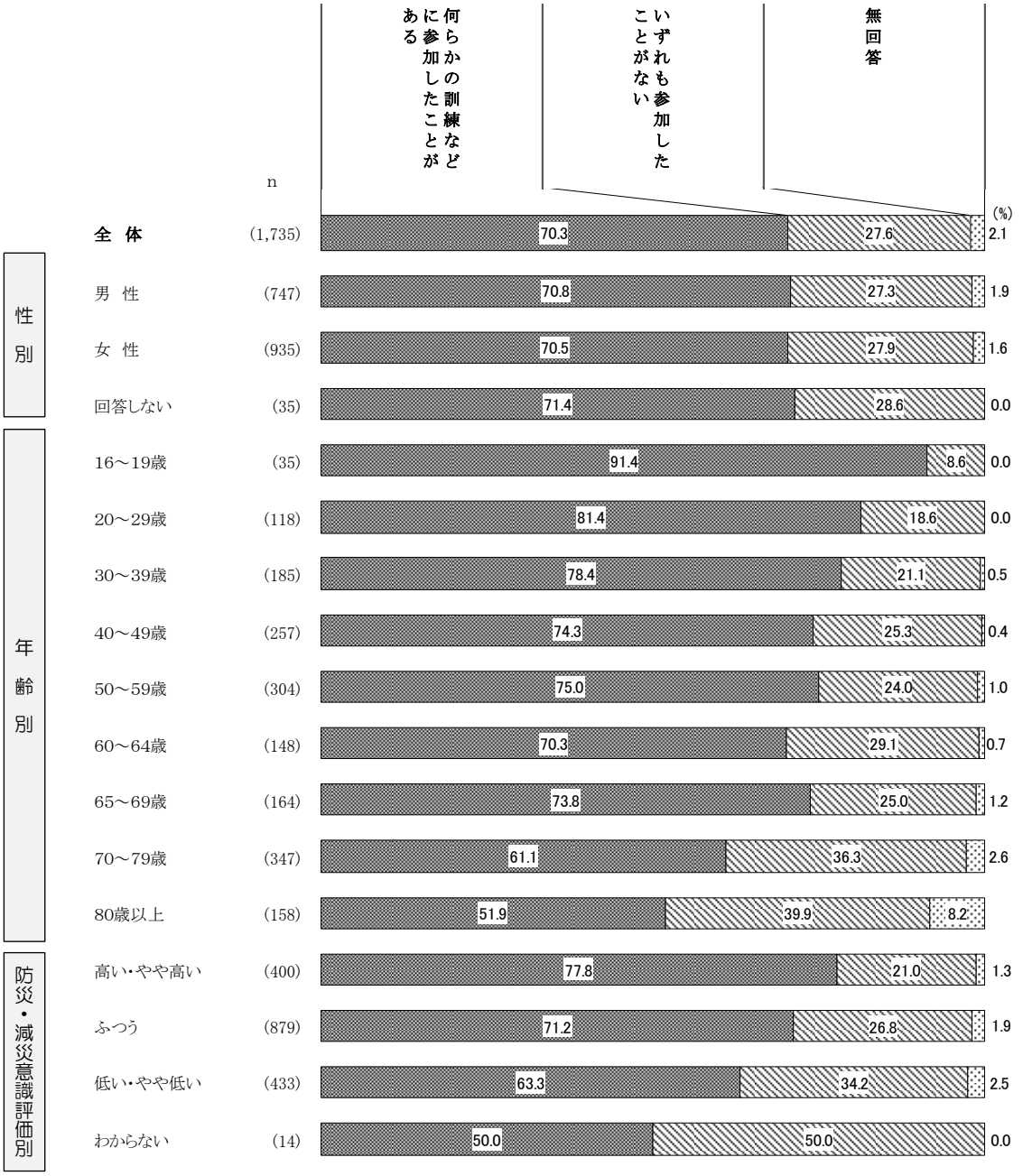
問７．あなたは、次の防災訓練などに参加したことはありますか。
（①～④のそれぞれについて、あてはまる番号に○）

■防災訓練などへの参加状況（図表２－２－１－１）




防災訓練などへの参加状況については、参加したことが「ある」が多いものは、《学校や職場での消防訓練や防災訓練への参加》が 51.9%、《町内会などの地域団体が主催する防災訓練への参加》が 37.3%となっている。

■防災訓練などへの参加状況（２区分）（図表２－２－１－２）




※「何らかの訓練などに参加したことがある」は、図表２－２－１－１の①～④のいずれかに参加したことがある人

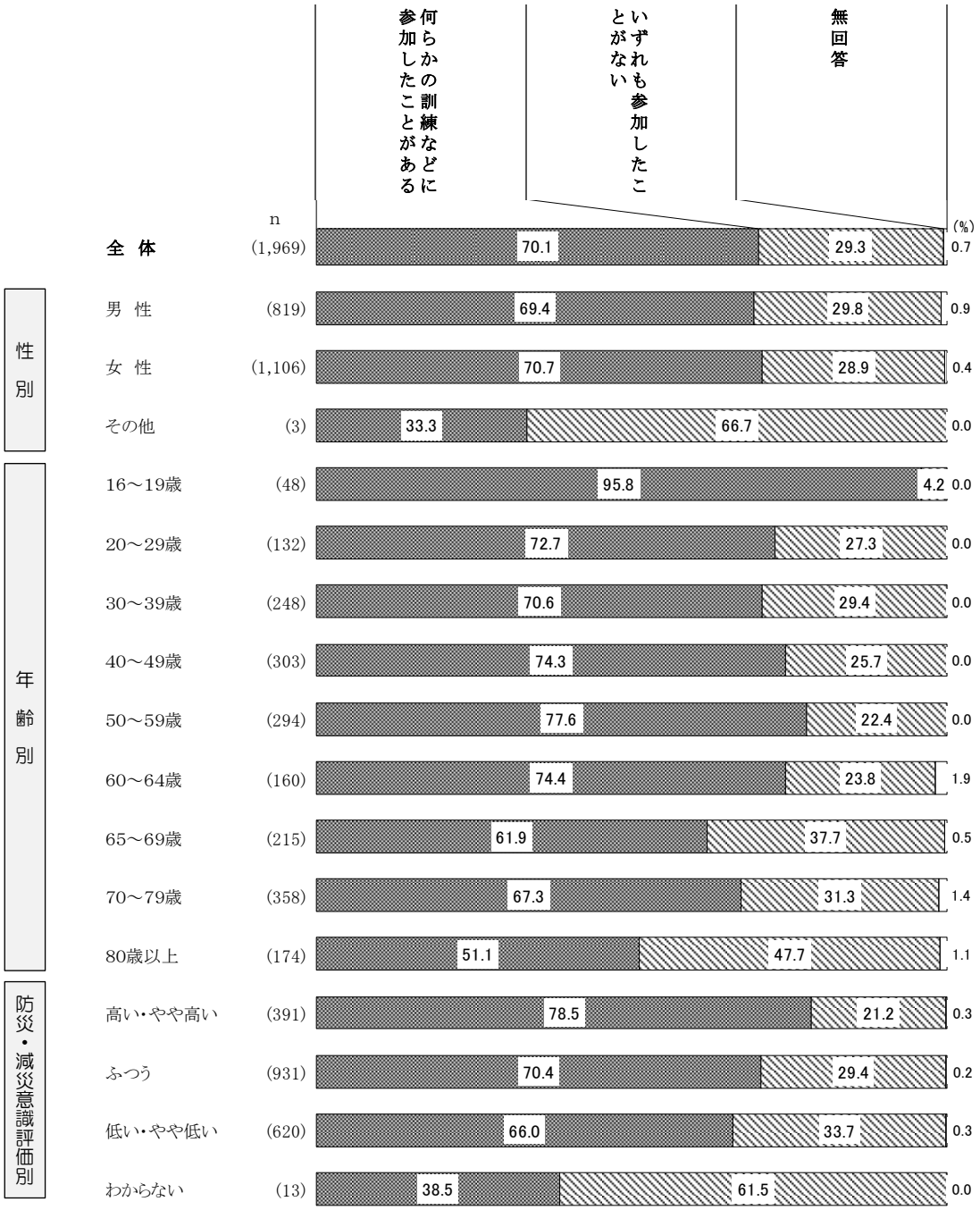
防災訓練などへの参加状況（２区分）については、全体で「何らかの訓練などに参加したことがある」は 70.3％となっており、「いずれも参加したことがない」は 27.6％となっている。

性別にみると、『男性』と『女性』で大きな差はみられない。

年齢別にみると、『16～19 歳』では、「何らかの訓練などに参加したことがある」が 91.4％と多く、『20～29 歳』から『65～69 歳』では７～８割台となっている。一方、『70～79 歳』『80 歳以上』では「いずれも参加したことがない」が他の年齢に比べ多くなっている。

防災・減災意識評価別にみると、『高い・やや高い』では、「何らかの訓練などに参加したことがある」が 77.8％となっている。

【参考】防災訓練などへの参加状況（２区分）（令和元年度調査結果）（図表２－２－１－３）




参考までに前回調査と比較すると、全体では今回調査でも７割の人が「何かしらの訓練などに参加したことがある」ことに変わりはなかった。

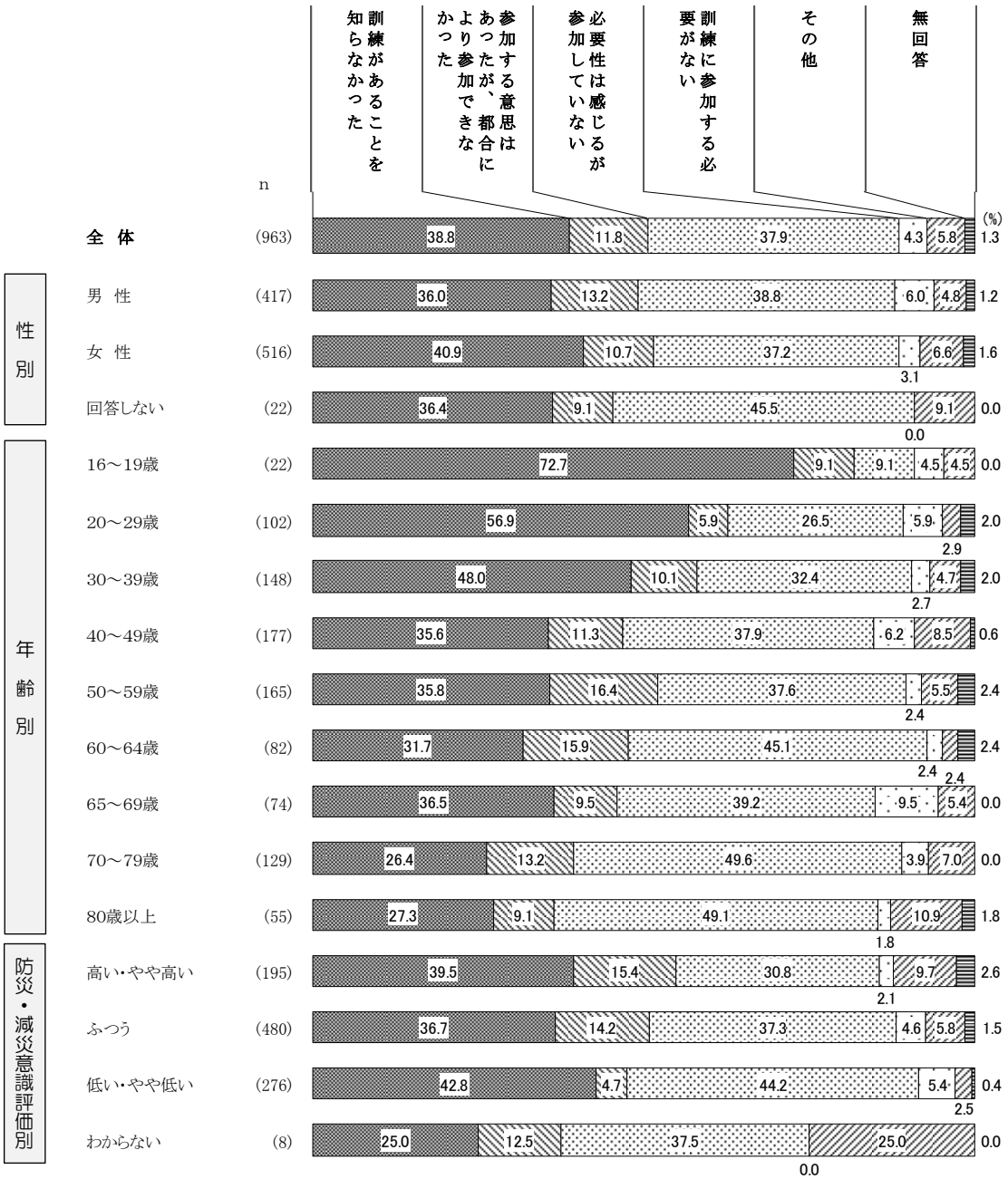
年齢別にみると、『65～69 歳』では「何らかの訓練などに参加したことがある」が 73.8%と 11.9 ポイント増加している。

（２）防災訓練へ参加しない理由

（問７の②で「２．ない」を選択した方）

問８．（問７の②で「２．ない」を選択した方にお伺いします。）防災訓練へ参加しない理由についてあてはまるものを１つお選びください。（○は１つ）

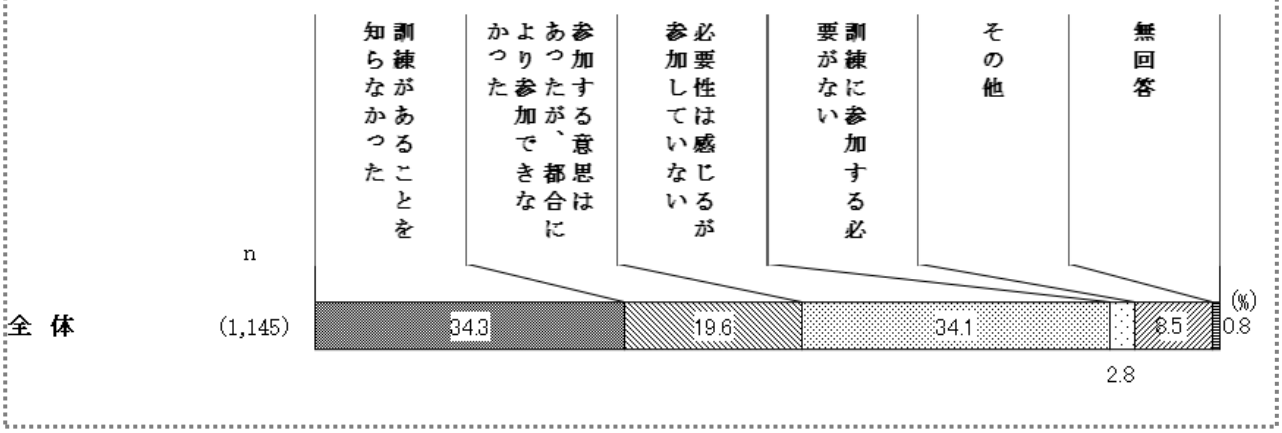
■防災訓練へ参加しない理由（図表２－２－２－１）




問７の②で「２．ない」を選択した方に対し、防災訓練へ参加しない理由をたずねたところ、全体では「訓練があることを知らなかった」が 38.8％と最も多く、以下、「必要性は感じるが参加していない」（37.9％）、「参加する意思はあったが、都合により参加できなかった」（11.8％）、「訓練に参加する必要がない」（4.3％）となっている。

年齢別にみると、『16～19 歳』から『30～39 歳』では、「訓練があることを知らなかった」が４～７割台となっており他の年齢に比べ多くなっている。70 歳以上では、「必要性は感じているが参加していない」が約５割を占めている。

【参考】防災訓練へ参加しない理由（令和元年度調査結果）（図表２－２－２－２）



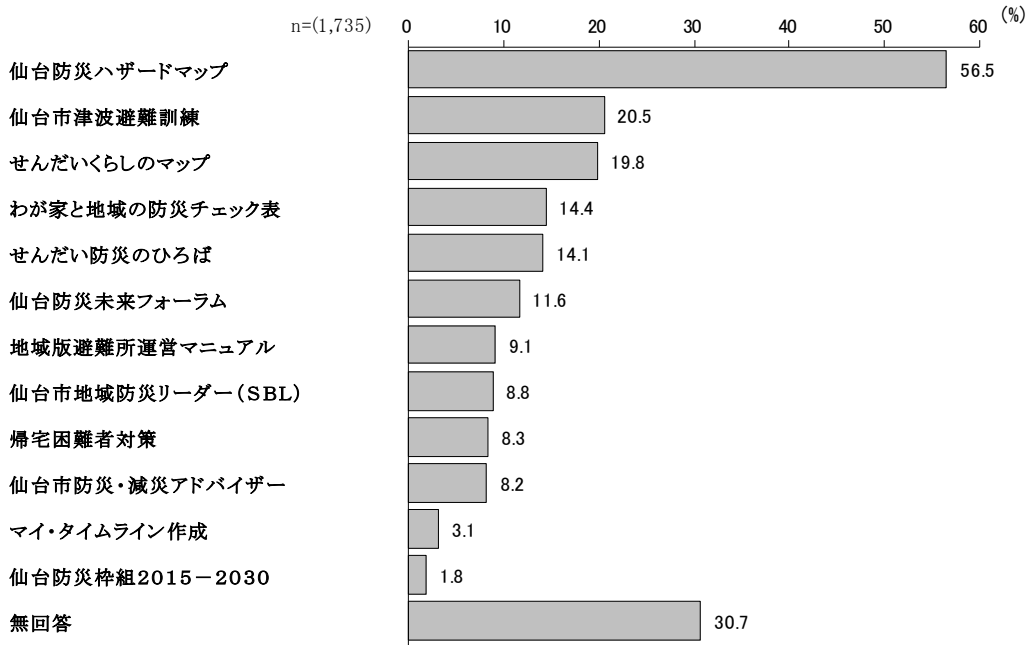

参考までに前回調査と比較すると、今回調査では「訓練があることを知らなかった」は 38.8%と 4.5 ポイント増加、「参加する意思はあったが、都合により参加できなかった」は 11.8%と 7.8 ポイント減少、「必要性は感じるが参加していない」が 37.9%と 3.8 ポイント増加となっている。

## ３．防災施策について

### （１）仙台市が実施している取り組みの認知度

問９．仙台市で実施している以下の取り組みなどを知っていますか。知っているものをすべてお選びください。（あてはまるものすべてに○）

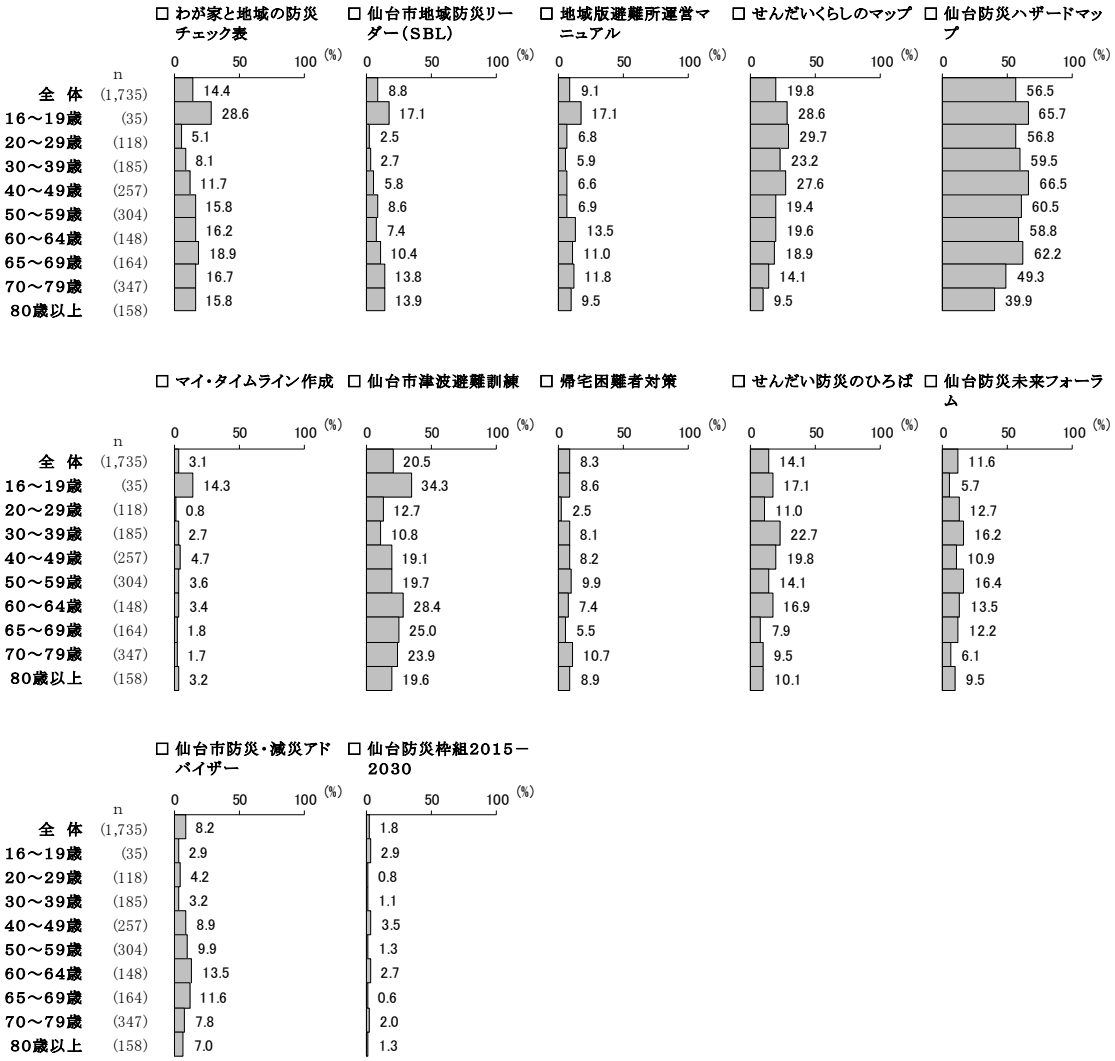
■仙台市が実施している取り組みの認知度（図表２－３－１－１）




仙台市が実施している取り組みの認知度については、「仙台防災ハザードマップ」が 56.5%と最も多く、以下、「仙台市津波避難訓練」(20.5%)、「せんだいくらしのマップ」(19.8%)、「わが家と地域の防災チェック表」（14.4%）となっている。

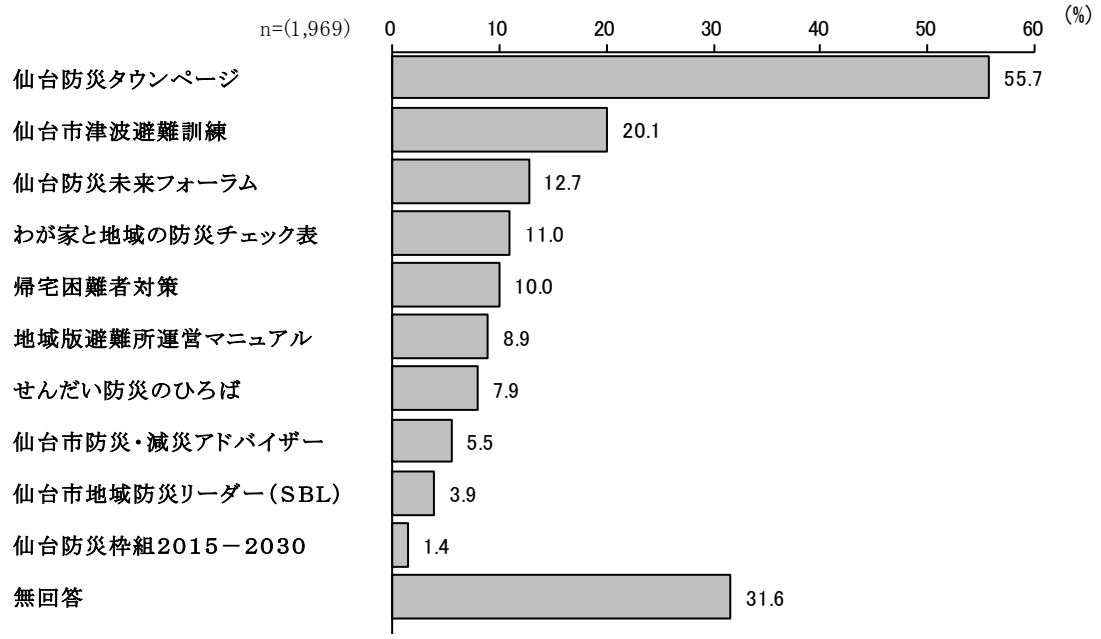
なお、いずれの施策も選択していない人（無回答）は 30.7%となっている。

■仙台市が実施している取り組みの認知度（年齢別）（図表２－３－１－２）




仙台市が実施している取り組みの認知度を年齢別にみると、40 歳台以下では「せんだいくらしのマップ」が２割を超えて、他の年代に比べて多くなっている。「仙台防災ハザードマップ」は『70～79 歳』『80 歳以上』を除いて５割以上となっている。

【参考】仙台市が実施している取り組みについて（令和元年度調査結果）（図表２－３－１－３）



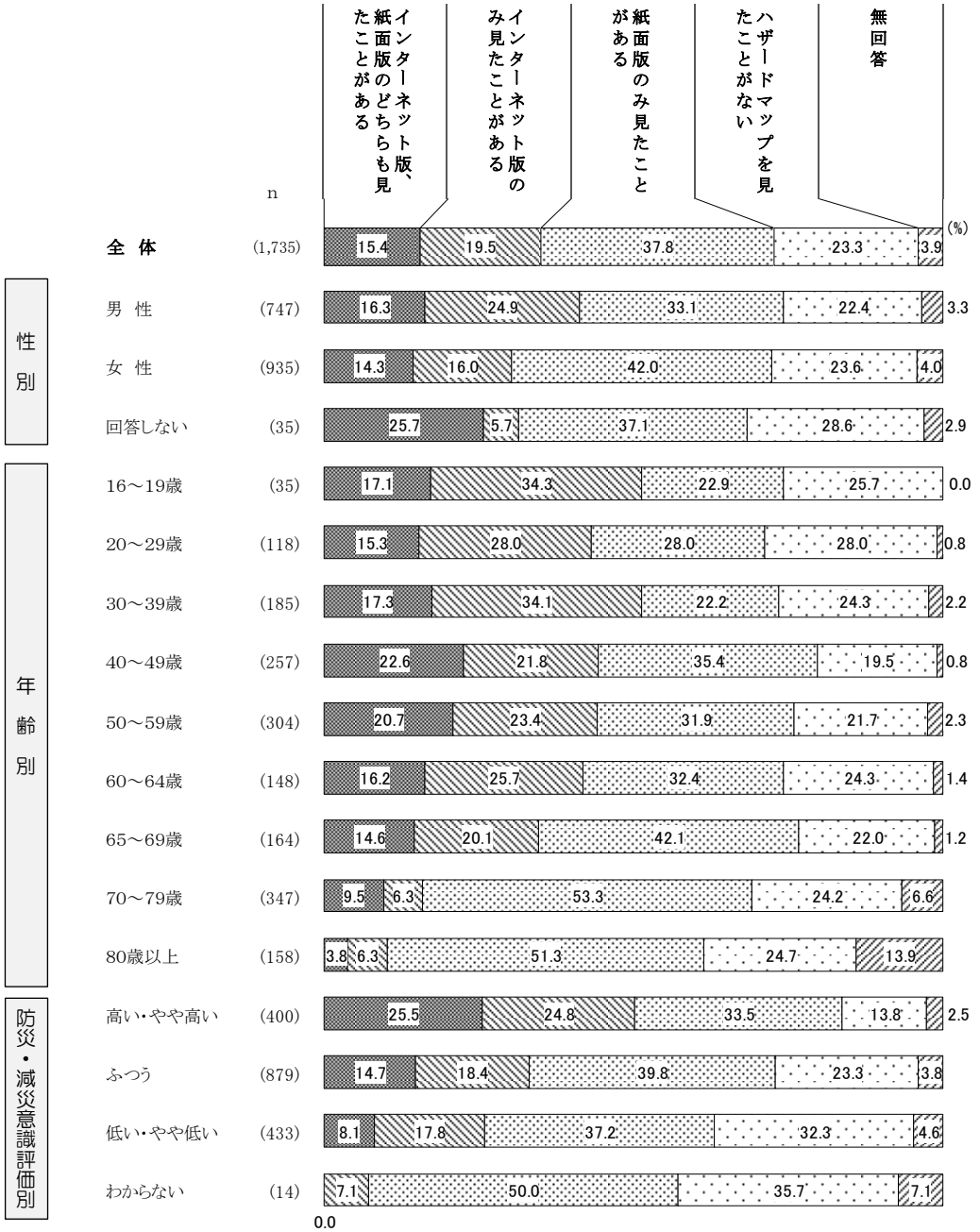

参考までに前回調査と比較すると、選択肢が異なるため単純比較はできないものの、「仙台防災ハザードマップ（仙台防災タウンページ）」が 56.5%、「仙台市津波避難訓練」が 20.5%で前回同様の傾向である。

## ４．ハザードマップについて

### （１）ハザードマップ閲覧の有無

問１０．あなたはこれら（インターネット版および紙面版）のハザードマップをご覧になったことがありますか。あてはまるものを１つお選びください。（○は１つ）

■ハザードマップ閲覧の有無（図表２－４－１－１）

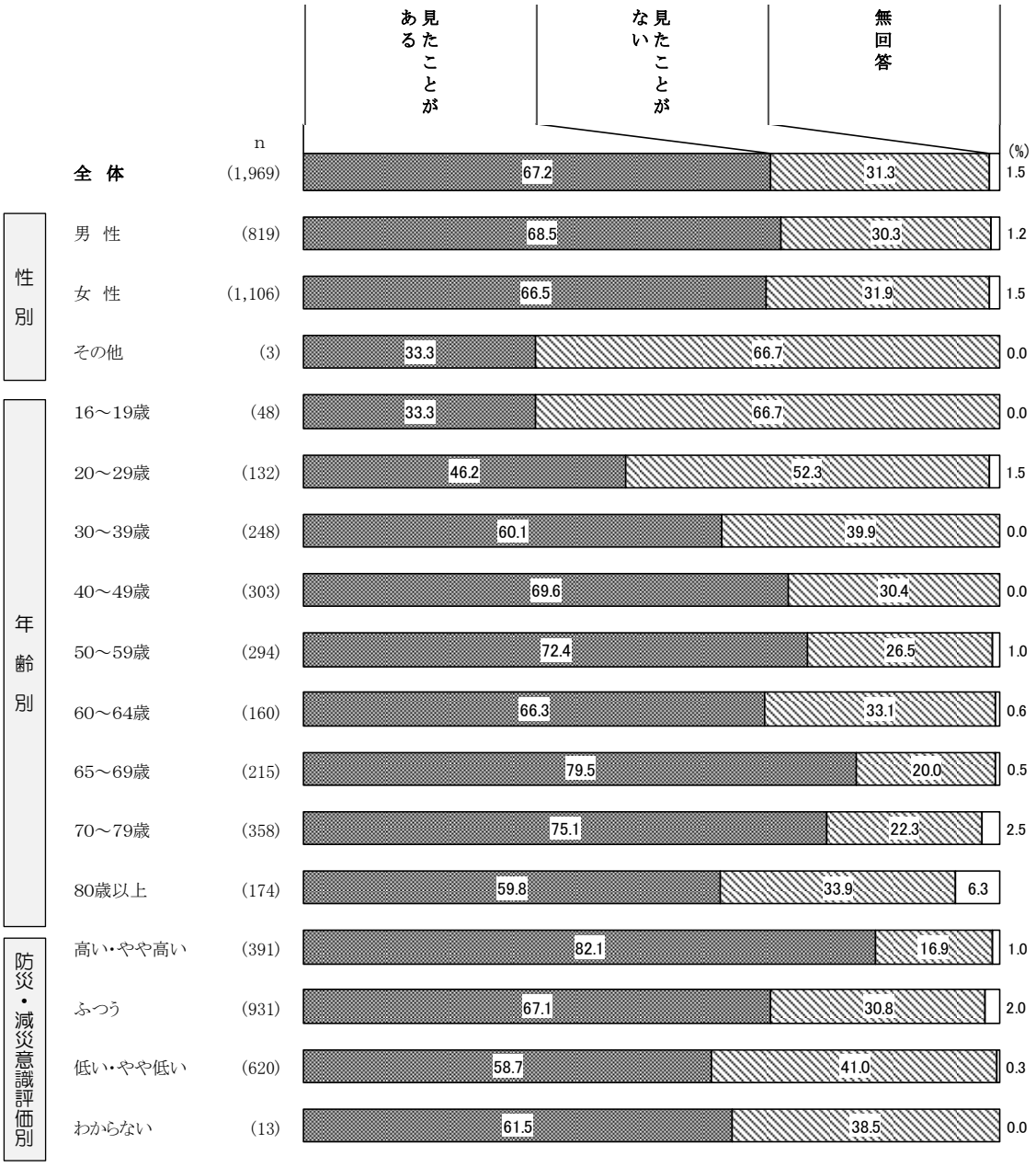



ハザードマップ閲覧の有無については、全体で「紙面版のみ見たことがある」が 37.8%、次いで「ハザードマップを見たことがない」(23.3%)、「インターネット版のみ見たことがある」(19.5%)、「インターネット版、紙面版のどちらも見たことがある」(15.4%) と続いた。

性別にみると、『女性』で「紙面版のみ見たことがある」が 42.0%と多くなった。

年齢別にみると、若年層では「インターネット版のみ見たことがある」が多く、年齢が上がるにつれて「紙面版のみ見たことがある」が多くなる傾向にある。

【参考】ハザードマップ閲覧の有無（令和元年度調査結果）（図表２－４－１－２）



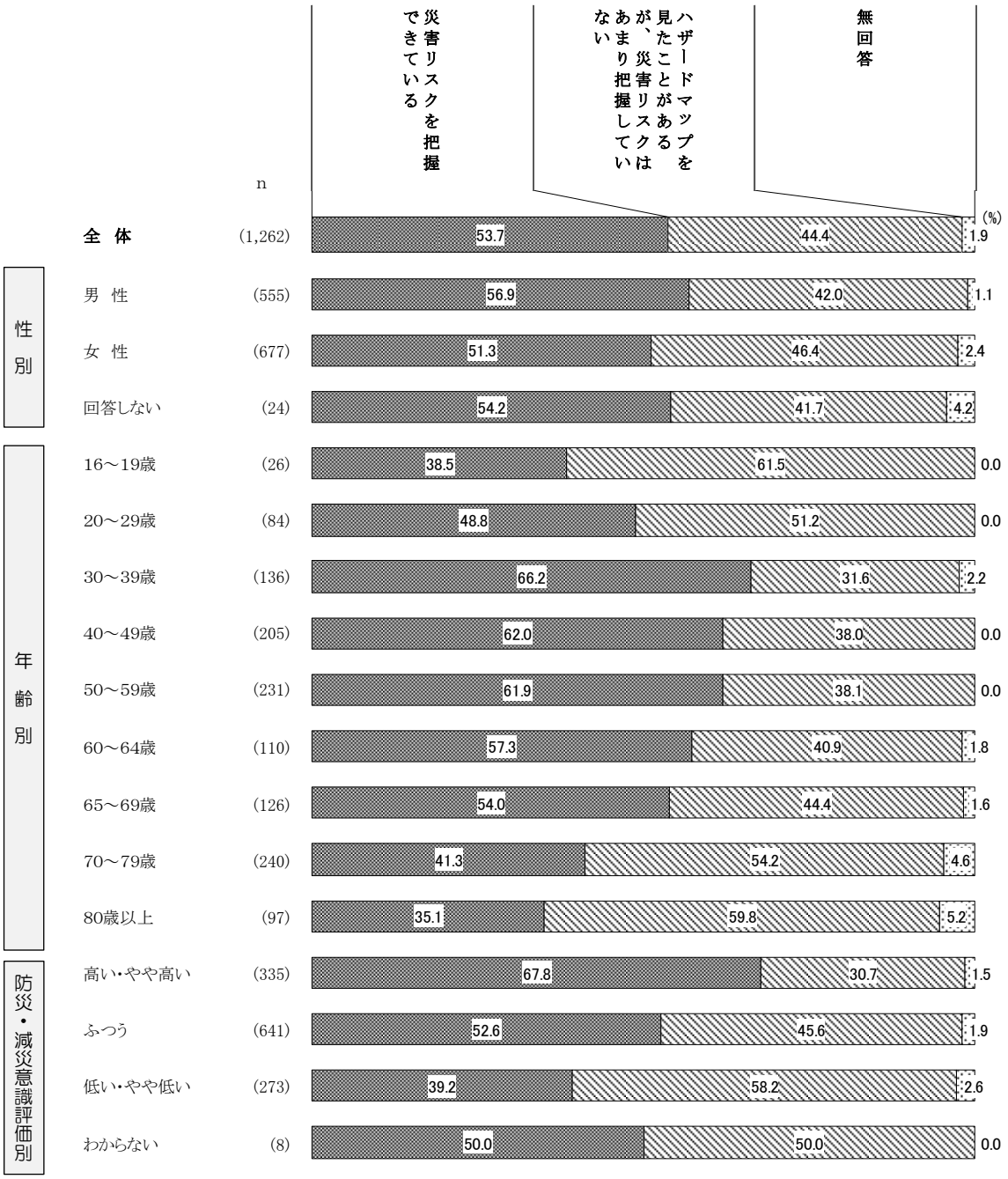

参考までに前回調査と比較すると、選択肢が異なるため単純比較はできないものの、ハザードマップを見たことがないと回答した方の割合は前回調査よりも減少しており、特に、『16～19 歳』『20～29 歳』において顕著に減少していることから、若年層を中心にハザードマップを閲覧した経験が増加している傾向がみられる。

（２）自宅周辺での災害リスクの把握

（問１０で「１．インターネット版、紙面版のどちらも見たことがある」「２．インターネット版のみ見たことがある」「３．紙面版のみ見たことがある」を選択した方）

問１１．（問１０で「１．インターネット版、紙面版のどちらも見たことがある」「２．インターネット版のみ見たことがある」「３．紙面版のみ見たことがある」を選択した方にお伺いします。）あなたはこれらのハザードマップを見て、自宅周辺でどのような災害リスク（災害の危険性）があるかを把握していますか。あてはまるものを１つお選びください。（○は１つ）

■自宅周辺での災害リスクの把握（図表２－４－２）



問１０で「１．インターネット版、紙面版のどちらも見たことがある」「２．インターネット版のみ見たことがある」「３．紙面版のみ見たことがある」を選択した方へ、自宅周辺の災害リスクについて把握しているかたずねたところ、全体では「災害リスクを把握できている」が 53.7%、「ハザードマップを見たことがあるが、災害リスクはあまり把握していない」が 44.4%であった。

性別にみると、『男性』のほうが「災害リスクを把握できている」が 5.6 ポイント高くなった。

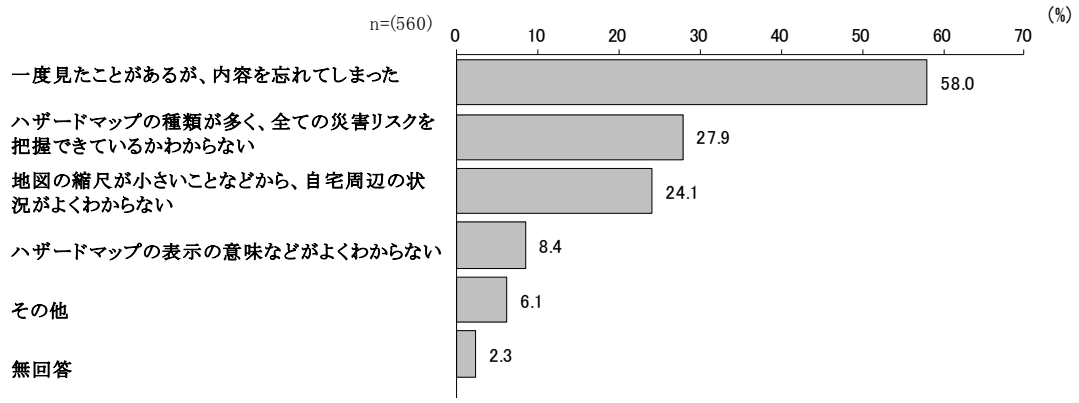
年齢別にみると、『30～39 歳』が「災害リスクを把握できている」が 66.2%と最も多かった。一方、『16～19 歳』『20～29 歳』や『70～79 歳』『80 歳以上』において「ハザードマップを見たことがあるが、災害リスクはあまり把握していない」が過半数以上となっている。

（３）自宅周辺での災害リスクを把握していない理由

（問１１で「２．ハザードマップを見たことがあるが、災害リスクはあまり把握していない」を選択した方）

問１２．（問１１で「２．ハザードマップを見たことがあるが、災害リスクはあまり把握していない」を選択した方にお伺いします。）このように回答いただいた理由について、あてはまるものをすべてお選びください。（あてはまるものすべてに○）

■自宅周辺での災害リスクを把握していない理由（図表２－４－３）



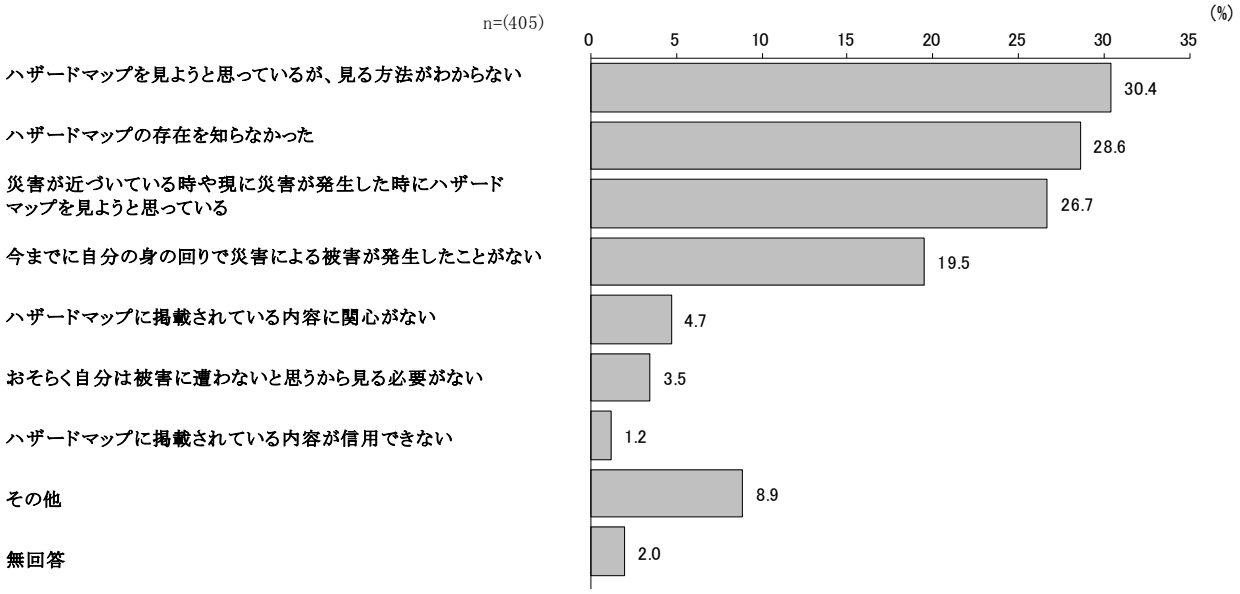

問１１で「２．ハザードマップを見たことがあるが、災害リスクはあまり把握していない」を選択した方に対する、災害リスクをあまり把握していない理由の設問については、「一度見たことがあるが、内容を忘れてしまった」が 58.0%と最も多く、以下、「ハザードマップの種類が多く、全ての災害リスクを把握できているかわからない」(27.9%)、「地図の縮尺が小さいことなどから、自宅周辺の状況がよくわからない」（24.1%）となっている。

（４）ハザードマップを閲覧したことがない理由

（問１０で「４．ハザードマップを見たことがない」 を選択した方）

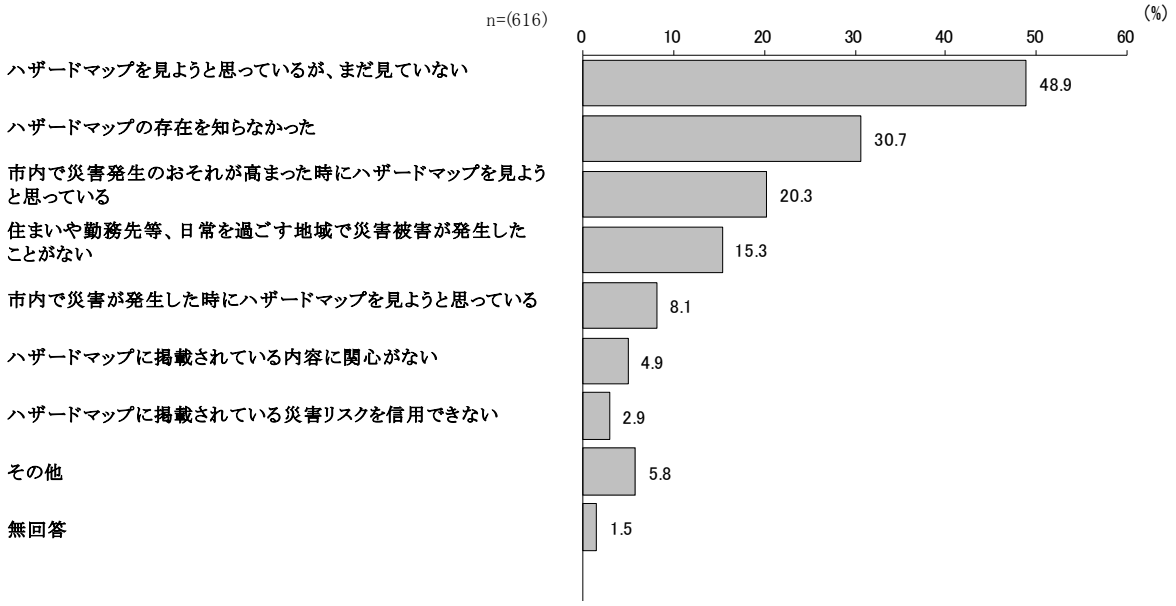
問１３．（問１０で「４．ハザードマップを見たことがない」 を選択した方にお伺いします。）このようにご回答いただいた理由について、あてはまるものをすべてお選びください。（あてはまるものすべてに○）

■ハザードマップを閲覧したことがない理由（図表２－４－４－１）




問１０で「４．ハザードマップを見たことがない」 を選択した方に対し、ハザードマップを見たことがない理由をたずねたところ、「ハザードマップを見ようと思っているが、見る方法がわからない」が 30.4%と最も多く、以下、「ハザードマップの存在を知らなかった」（28.6%）、「災害が近づいている時や現に災害が発生した時にハザードマップを見ようと思っている」（26.7%）となっている。

【参考】ハザードマップを閲覧したことがない理由（令和元年度調査結果）（図表２－４－４－２）



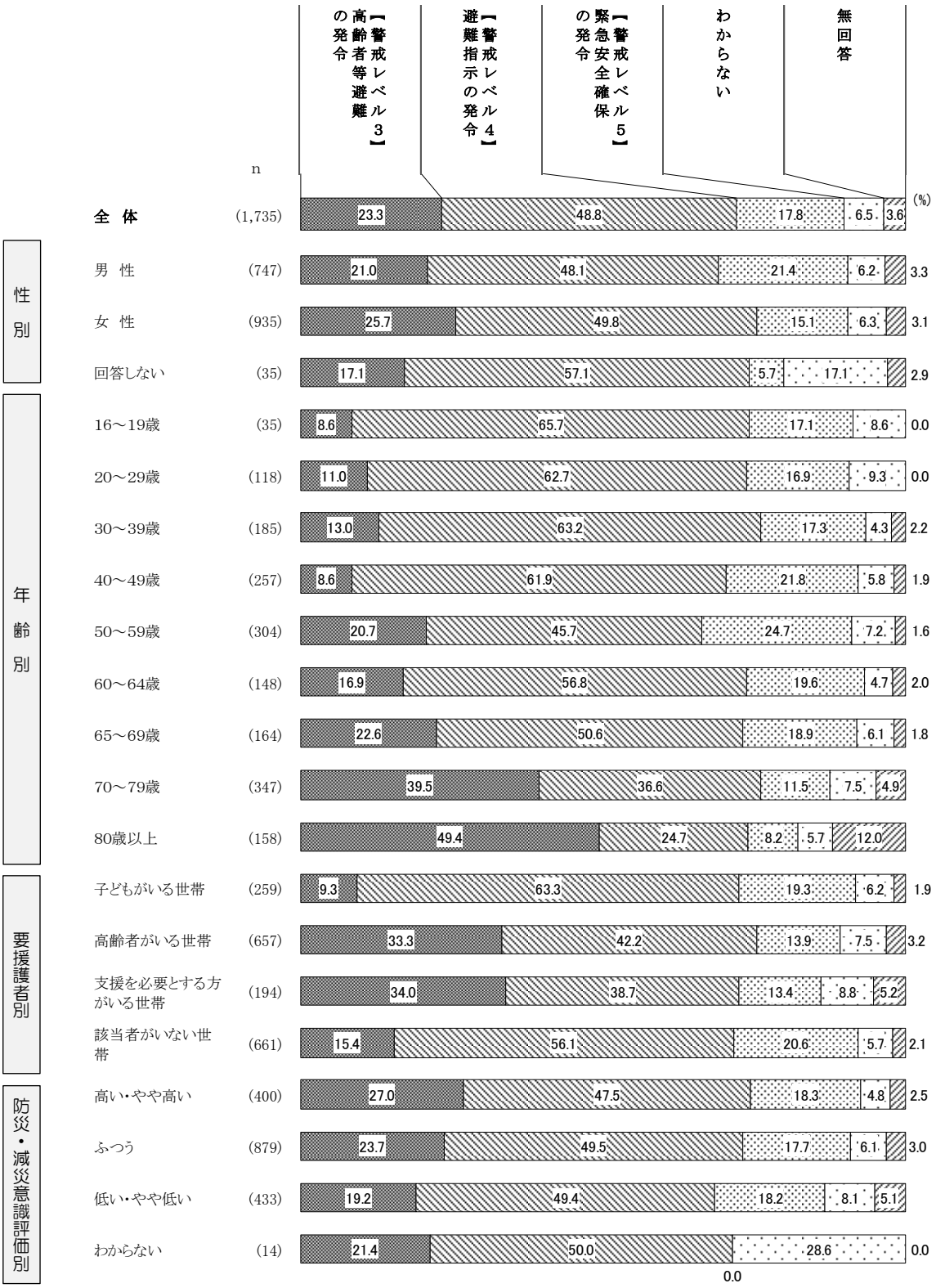

参考までに前回調査と比較すると、選択肢が異なるため単純比較はできないものの、「ハザードマップを見ようと思っているが、見る方法がわからない（まだ見ていない）」、「ハザードマップの存在を知らなかった」が上位であることに変わりなく、前回同様の傾向である。

## ５．避難行動について

### （１）避難を開始すべきと思う警戒レベル

問１４．あなたが災害の危険のある場所にいて、その場所に以下のような避難情報が発令された場合、どの時点で避難行動をとるべきだと思いますか。該当するものを１つお選びください。（○は１つ）

■避難を開始すべきと思う警戒レベル（図表２－５－１）



災害の危険のある場所にいて、避難情報が発令された場合にどの時点で避難行動をとるべきかをたずねたところ、全体では「【警戒レベル４】避難指示の発令」が 48.8%で最も多く、次いで「【警戒レベル３】高齢者等避難の発令」(23.3%) となった。

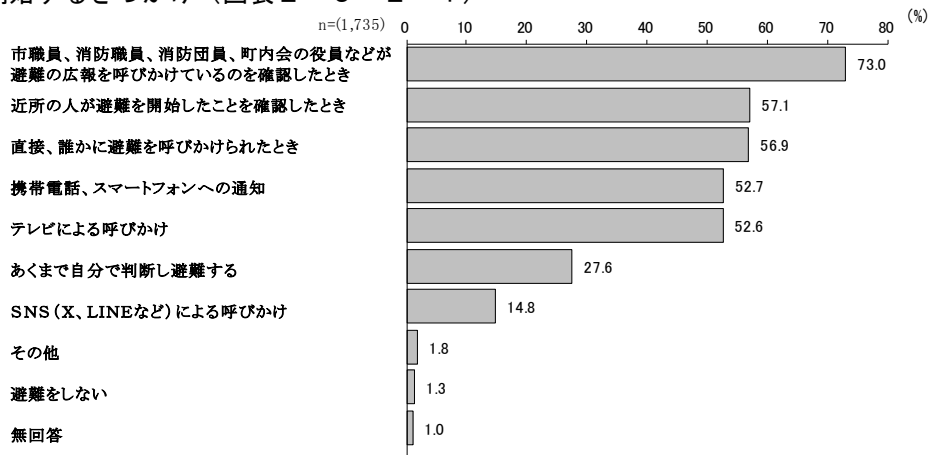
年齢別には 65 歳以上の高齢者において「【警戒レベル４】避難指示の発令」で避難行動をとるとの回答も多く、「【警戒レベル３】高齢者等避難の発令」での避難行動が十分に浸透していない結果となった。

世帯内の要援護者別にみると、『子どもがいる世帯』では、「【警戒レベル４】避難指示の発令」が 63.3%と最も多い。

（２）避難を開始するきっかけ

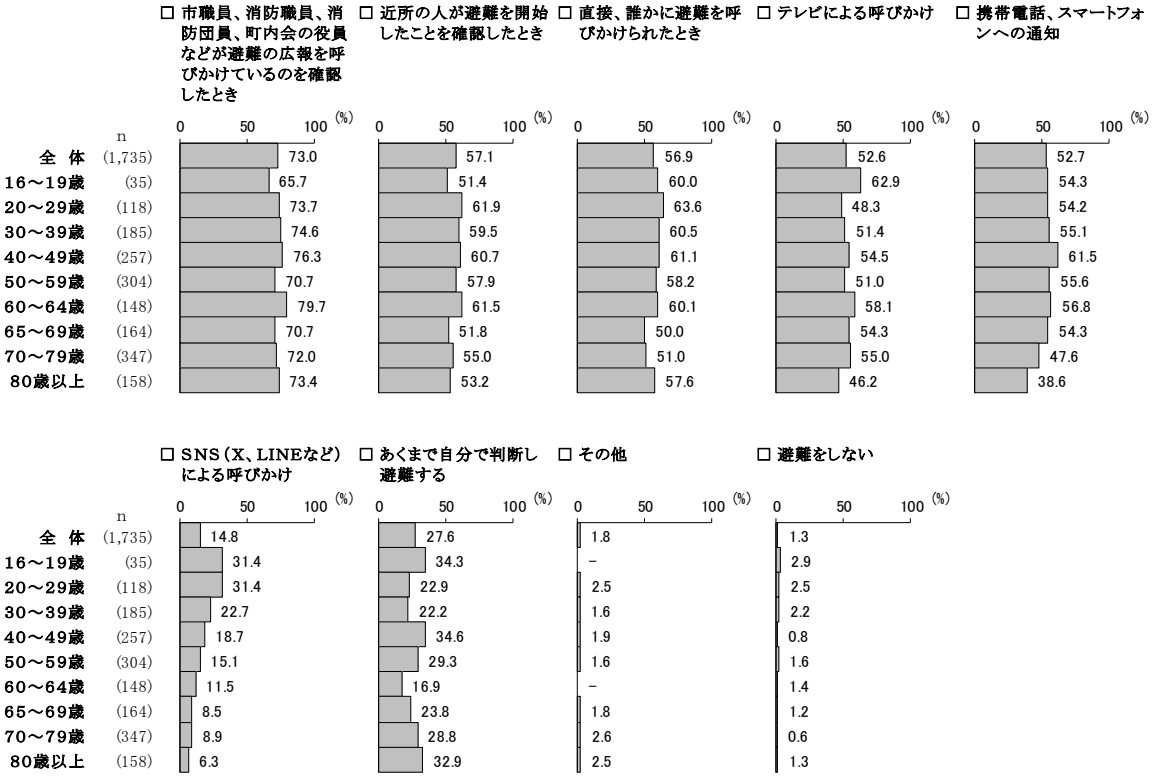
問１５．あなたは下記の呼びかけ等により、避難を開始しますか。あてはまるものをすべてお選びください。（あてはまるものすべてに○）

■避難を開始するきっかけ（図表２－５－２－１）



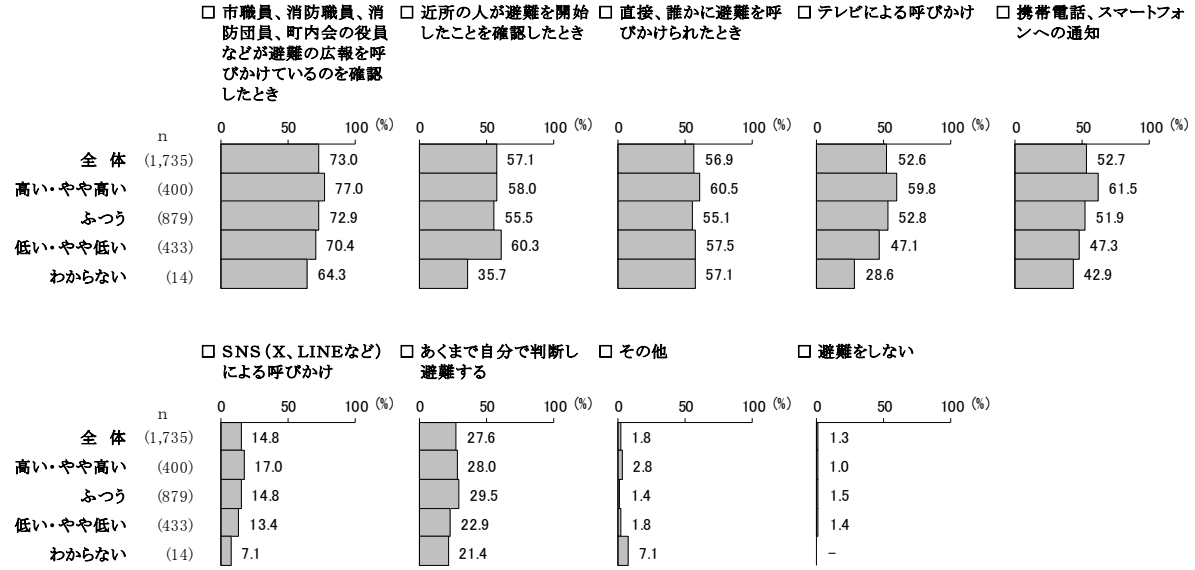

避難を開始するきっかけについては、「市職員、消防職員、消防団員、町内会の役員などが避難の広報を呼びかけているのを確認したとき」が 73.0％と最も多く、以下、「近所の人が避難を開始したことを確認したとき」（57.1％）、「直接、誰かに避難を呼びかけられたとき」（56.9％）、「携帯電話、スマートフォンへの通知」（52.7％）となっている。

■避難を開始するきっかけ（年齢別）（図表２－５－２－２）




避難を開始するきっかけを年齢別にみると、どの年齢層でも「市職員、消防職員、消防団員、町内会の役員などが避難の広報を呼びかけているのを確認したとき」、「近所の人が避難を開始したことを確認したとき」、「直接、誰かに避難を呼びかけられたとき」が５割以上となっている。『16～19 歳』『20～29 歳』では、「ＳＮＳ（Ｘ、ＬＩＮＥなど）による呼びかけ」が３割台と他の年齢に比べ多くなっている。『70～79 歳』『80 歳以上』では、「携帯電話、スマートフォンへの通知」が３～４割台と他の年齢に比べ少なくなっている。

■避難を開始するきっかけ（防災・減災意識評価別）（図表２－５－２－３）

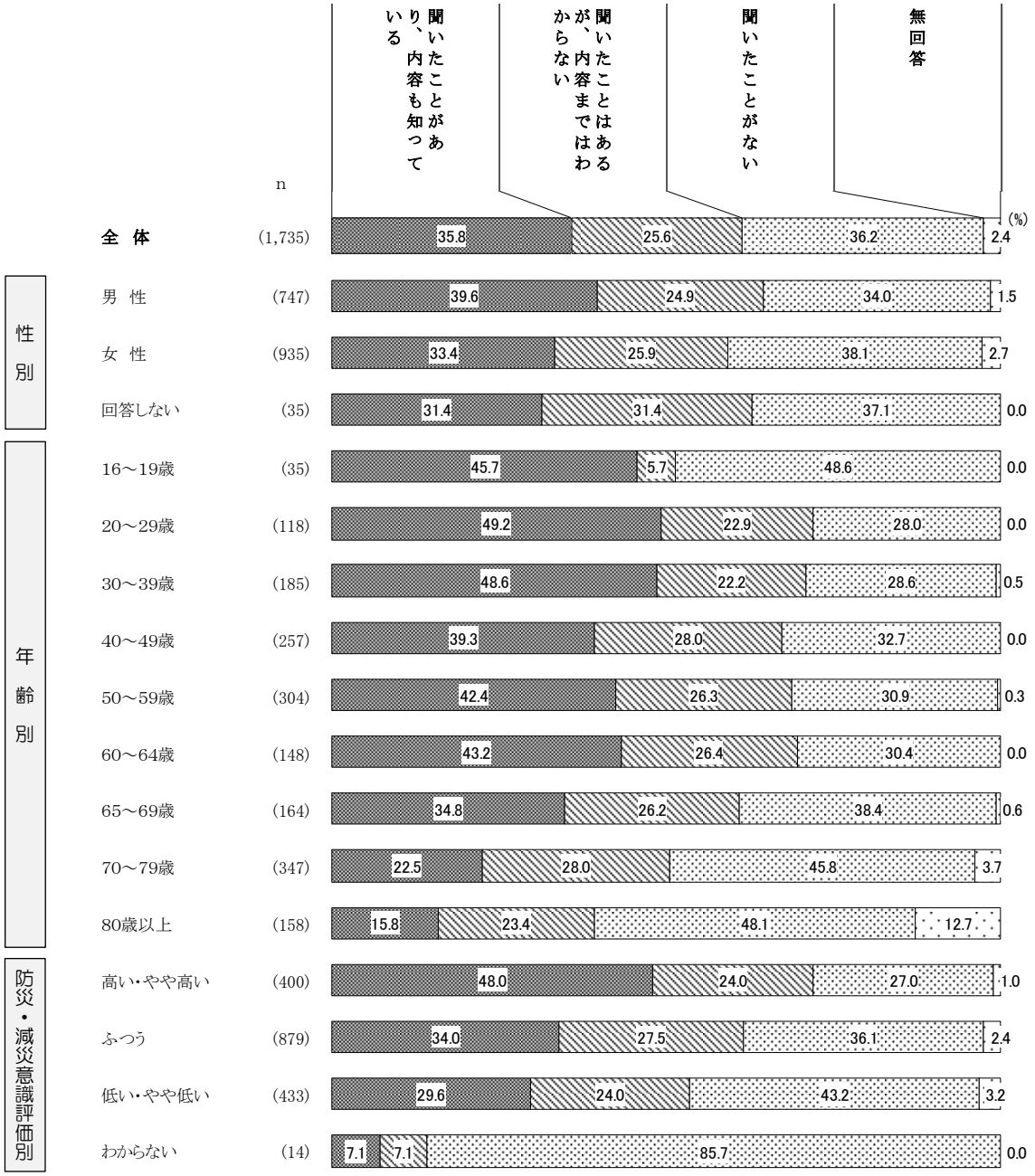



避難を開始するきっかけを防災・減災意識評価別にみると、『高い・やや高い』では、「テレビによる呼びかけ」「携帯電話、スマートフォンへの通知」において、７ポイント以上他の評価に比べて多くなっている。

（３）正常性・同調性バイアスの認知度

問１６．人には、災害の危険が迫っていても、「大したことではない」と思うことで心の安定を保とうとする「正常性バイアス」や、災害などの時に周りの人と同じ行動をとろうとする「同調性バイアス」という心理特性があることをご存じですか。それぞれあてはまるものを一つお選びください。（①、②のそれぞれについて、あてはまる番号に○）

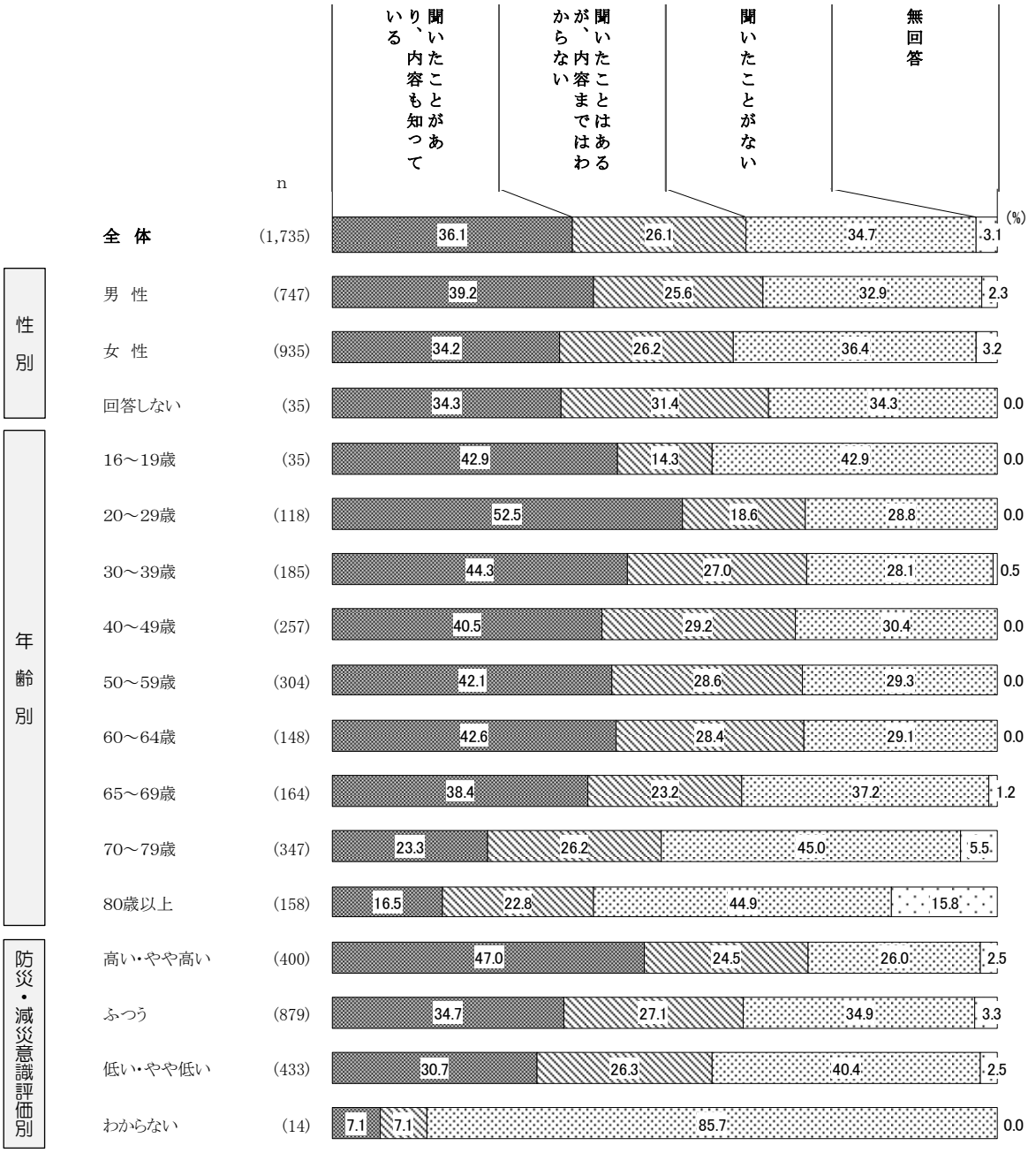
■正常性バイアスの認知度（図表２－５－３－１）




正常性バイアスについては、全体で「聞いたことがない」が 36.2%と最も多く、以下、「聞いたことがあり、内容も知っている」（35.8%）、「聞いたことはあるが、内容まではわからない」（25.6%）となっている。

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「聞いたことがあり、内容も知っている」が減少する傾向がある。

■同調性バイアスの認知度（図表２－５－３－２）




同調性バイアスについては、全体で「聞いたことがあり、内容も知っている」が 36.1%と最も多く、以下、「聞いたことがない」(34.7%)、「聞いたことはあるが、内容まではわからない」(26.1%) となっている。

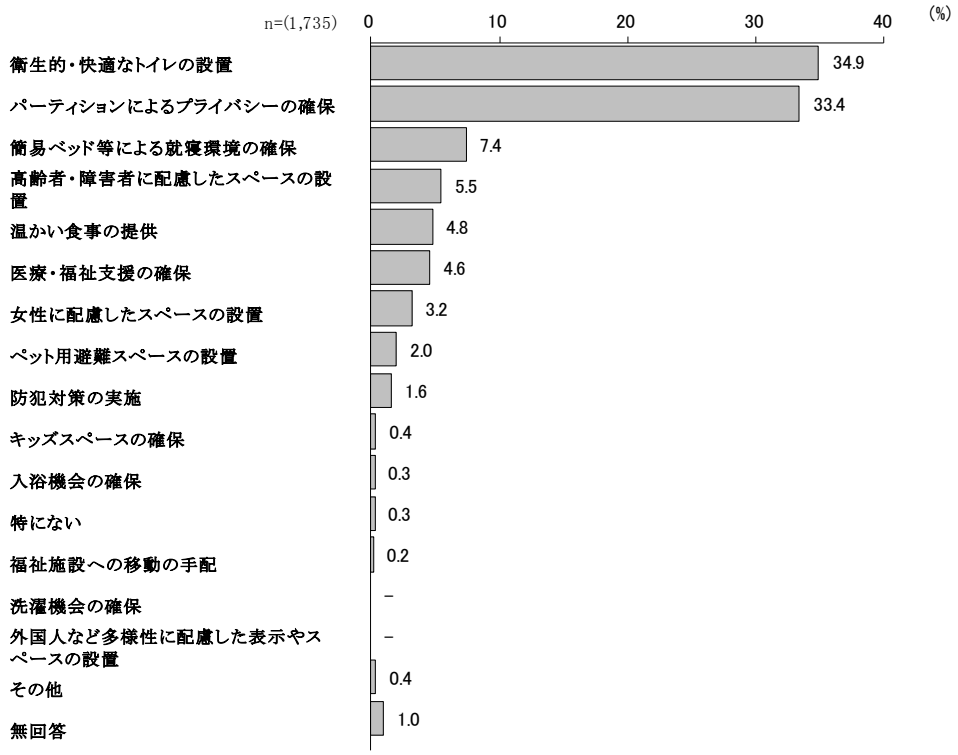
年齢別にみると、正常性バイアスと同様に、年齢が上がるにつれて「聞いたことがあり、内容も知っている」が減少する傾向がある。

## ６．避難所の環境について

### （１）避難所利用時に配慮してほしいこと

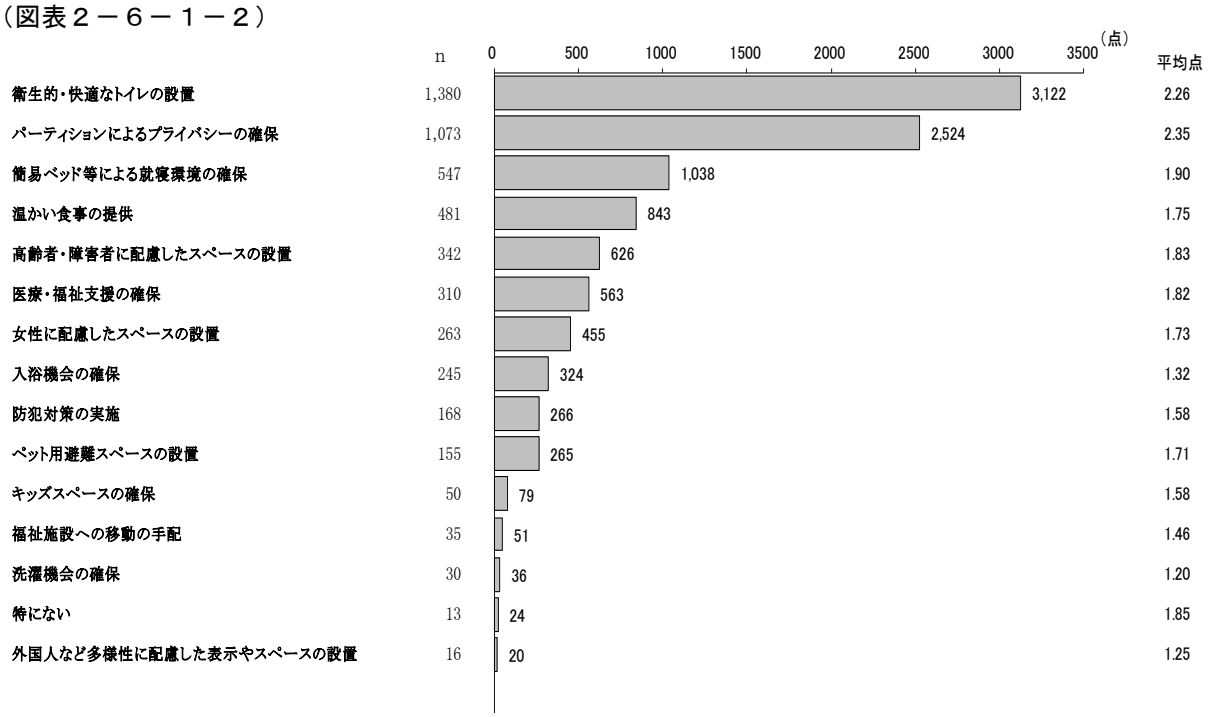
問１７．あなたが避難所を利用することになった場合に、どのようなことに配慮してほしいと考えますか。以下の選択肢の中で優先順位をつけた場合、優先度が高い順番に３つまで選び、下の回答欄にご記入ください。（期間は災害が発生してから２週間以内とします。）（あてはまるもの３つまで）

■避難所利用時に配慮してほしいこと（１番目）（図表２－６－１－１）




避難所利用時に配慮してほしいことのうち、１番目に優先度が高いものについては、「衛生的・快適なトイレの設置」が 34.9％と最も多く、以下、「パーティションによるプライバシーの確保」（33.4％）、「簡易ベッド等による就寝環境の確保」（7.4％）、「高齢者・障害者に配慮したスペースの設置」（5.5％）となっている。

■避難所利用時に配慮してほしいことについて、１番目から３番目までを合算して集計（合計点）（図表２－６－１－２）




１番目に選んだ避難所利用時に配慮してほしいことに３点、２番目に２点、３番目に１点を付与し、合計すると、「衛生的・快適なトイレの設置」が 3,122 点と最も高くなった。以下、「パーティションによるプライバシーの確保」（2,524 点）、「簡易ベッド等による就寝環境の確保」（1,038 点）となっている。

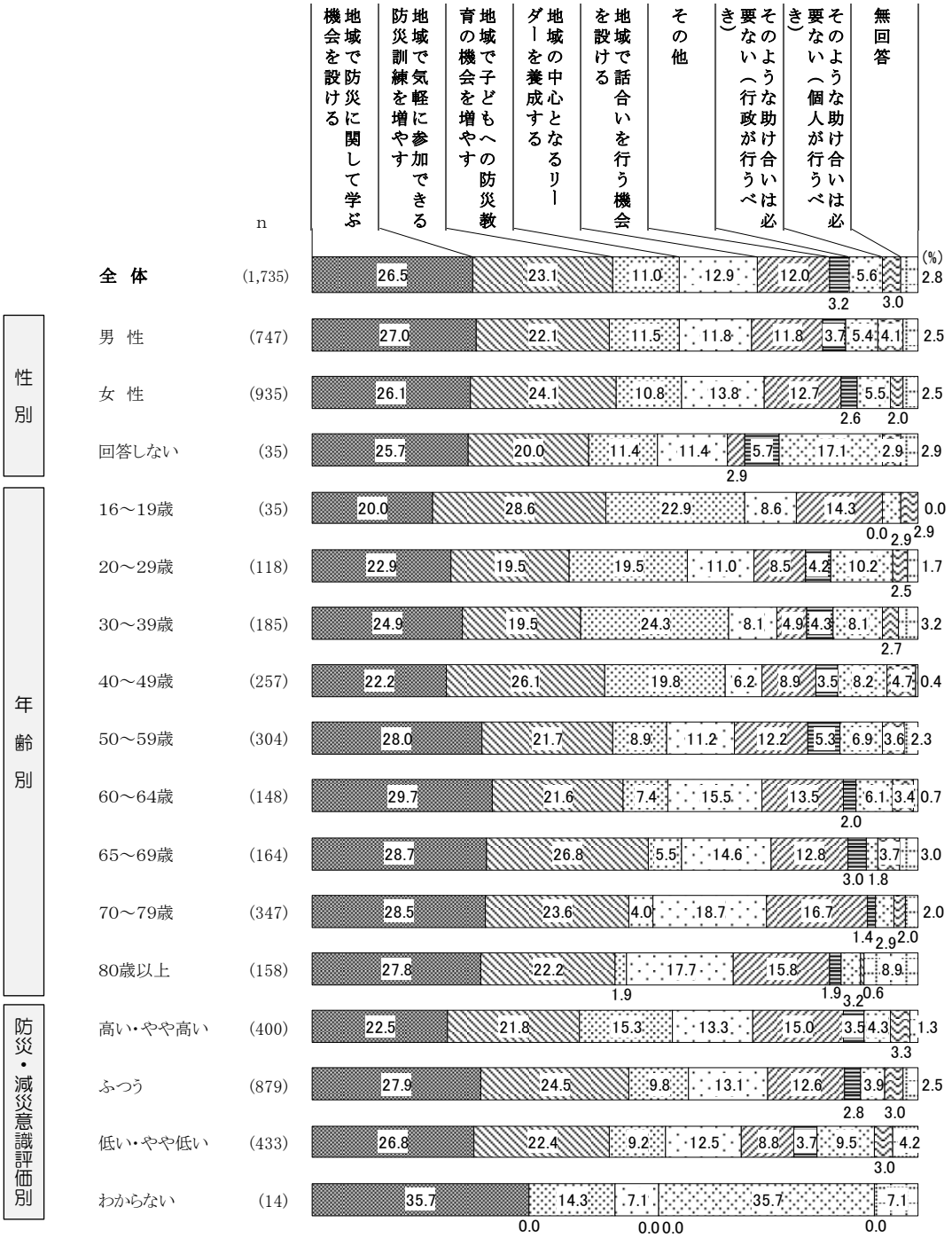
上記で算出した合計点を回答数で除し、平均点数で比較すると、「パーティションによるプライバシーの確保」が 2.35 点と最も高く、以下、「衛生的・快適なトイレの設置」（2.26 点）、「簡易ベッド等による就寝環境の確保」（1.90 点）となっている。

## ７．地域住民相互の助け合いについて

### （１）住民の共助推進のため有効だと思う取り組み

問１８．災害時における地域住民相互の助け合いを推進する取り組みとして最も有効だと思うものを１つお選びください。（○は１つ）

■住民の共助推進のため有効だと思う取り組み（図表２－７－１）



地域住民の共助推進のため有効だと思う取り組みについては、全体で「地域で防災に関して学ぶ機会を設ける」が 26.5%と最も多く、以下、「地域で気軽に参加できる防災訓練を増やす」(23.1%)、「地域の中心となるリーダーを養成する」(12.9%) となっている。

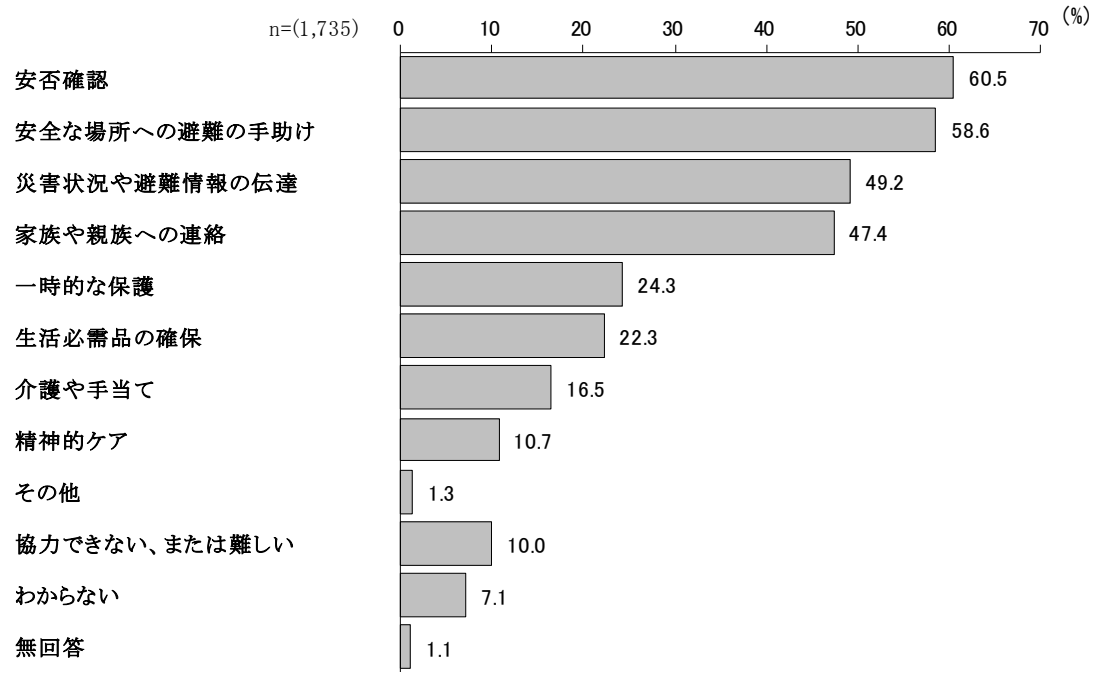
年齢別にみると、『16～19 歳』から『40～49 歳』では、「地域で子どもへの防災教育の機会を増やす」が２割前後と他の年齢と比べ多くなっている一方、『20～29 歳』では、「そのような助け合いは必要ない（行政が行うべき)」が 10.2%と他の年齢に比べ多くなっている。70 歳以上では「地域で話合いを行う機会を設ける」が 15%を超え、他の年齢に比べ多くなっている。

## ８．災害時要援護者対策について

### （１）災害時要援護者の支援に協力できること

問１９．大地震などの災害が起こったときに、あなたは近隣に住む家族以外の災害時要援護者のためにどのような助け合いや協力ができますか。あてはまるものをすべてお選びください。
（あてはまるものすべてに○）

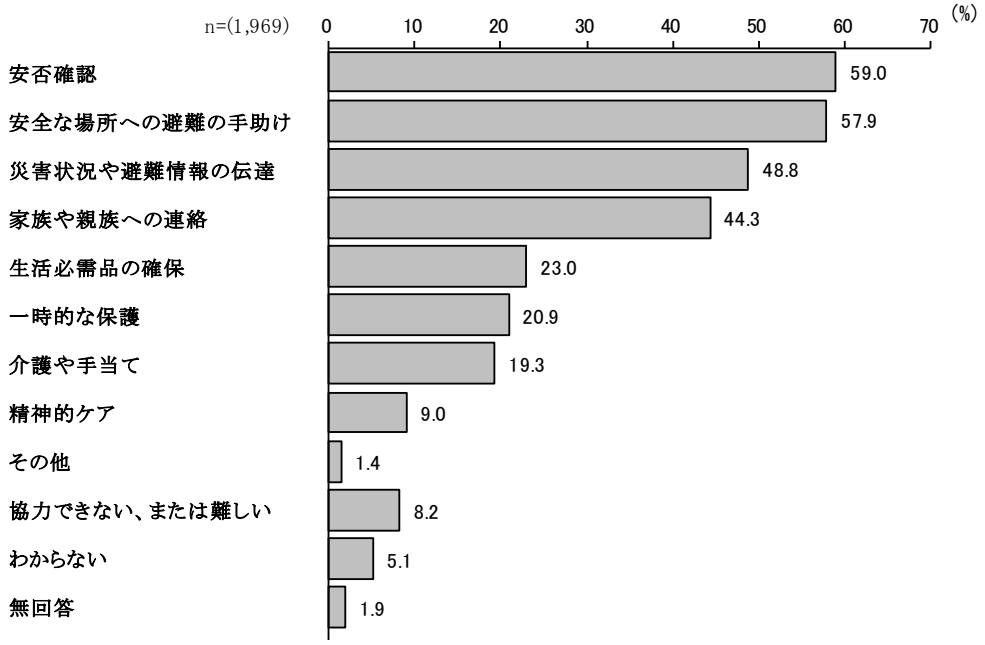
■災害時要援護者の支援に協力できること（図表２－８－１－１）




災害時、家族以外の要援護者のために協力できることについては、「安否確認」が 60.5%と最も多く、以下、「安全な場所への避難の手助け」（58.6%）、「災害状況や避難情報の伝達」（49.2%）、「家族や親族への連絡」（47.4%）となっている。

なお、「協力できない、または難しい」は 10.0%となっている。

【参考】災害時要援護者の支援に協力できること（令和元年度調査結果）（図表２－８－１－２）



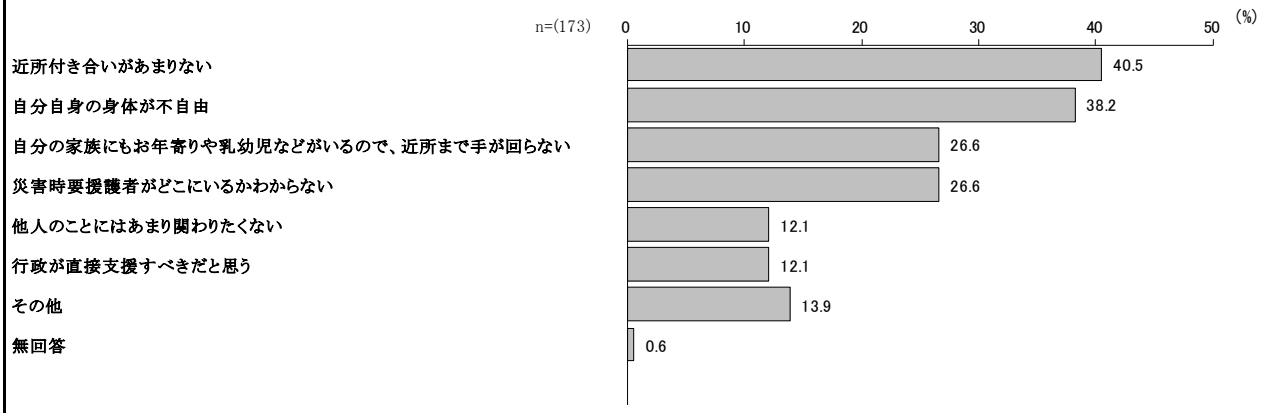

参考までに前回調査と比較すると、今回調査でも「安否確認」、「安全な場所への避難の手助け」、「災害状況や避難情報の伝達」、「家族や親族への連絡」が４割を超えて多くなっていることに変わりはない。

（２）災害時要援護者の支援に協力できない理由

（問１９で「10. 協力できない、または難しい」を選択した方）

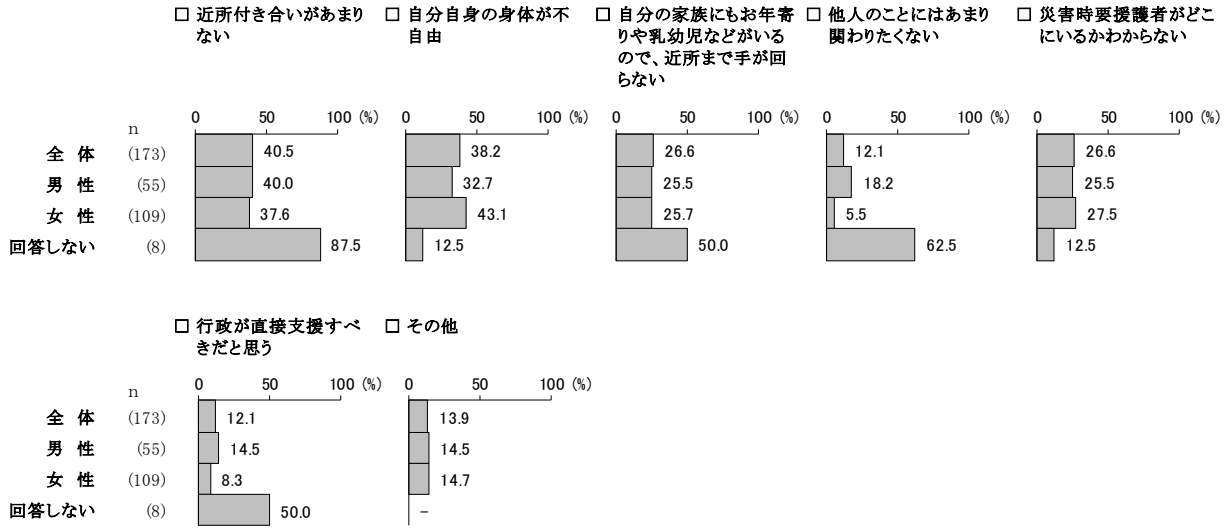
問２０.（問１９で「10. 協力できない、または難しい」を選択した方にお伺いします。）協力できない理由について、あてはまるものをすべてお選びください。（あてはまるものすべてに○）

■災害時要援護者の支援に協力できない理由（図表２－８－２－１）



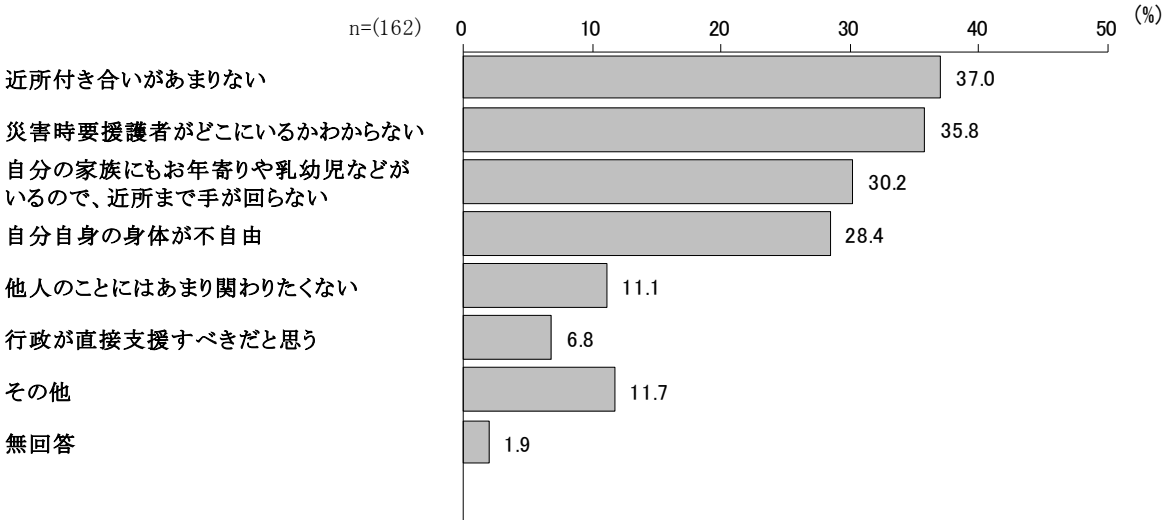

問１９で「10.協力できない、または難しい」と選択した方に対し、災害時要援護者の支援に協力できない理由をたずねたところ、「近所付き合いがあまりない」が 40.5%と最も多く、以下、「自分自身の身体が不自由」(38.2%)、「自分の家族にもお年寄りや乳幼児などがいるので、近所まで手が回らない」および「災害時要援護者がどこにいるかわからない」が 26.6%となっている。

■災害時要援護者の支援に協力できない理由（性別）（図表２－８－２－２）




災害時要援護者の支援に協力できない理由を性別にみると、『女性』では、「自分自身の身体が不自由」が 43.1%と『男性』に比べ多くなっている。

【参考】災害時要援護者の支援に協力できない理由（令和元年度調査結果）（図表２－８－２－３）

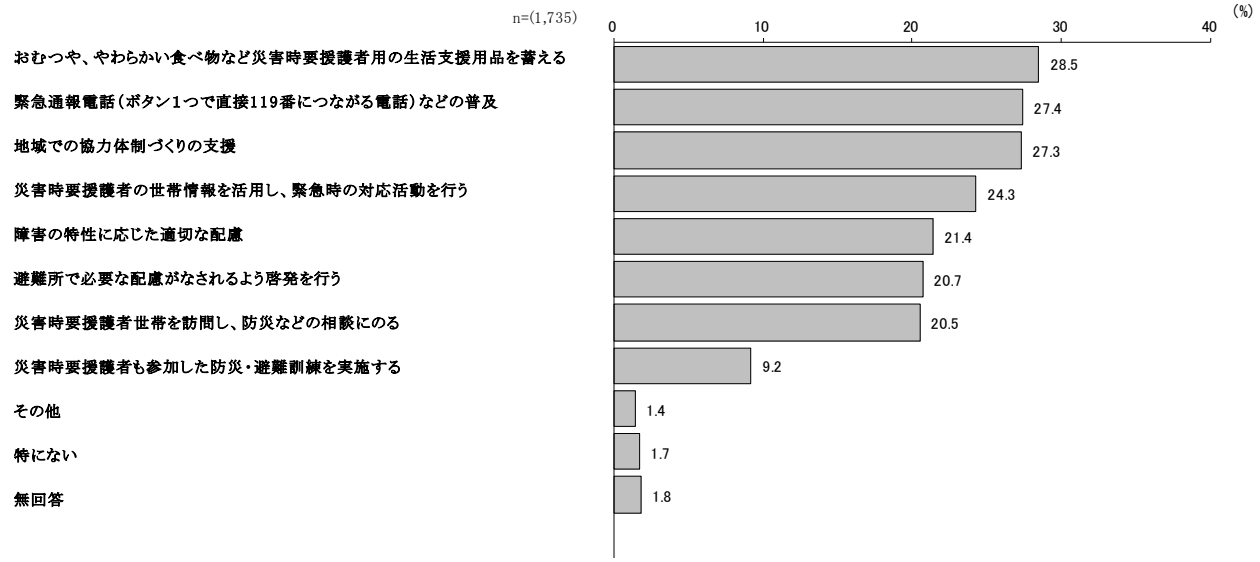



参考までに前回調査と比較すると、今回調査でも「近所付き合いがあまりない」が 40.5%で最も多いことに変わりなく、前回から 3.5 ポイント増加し、４割を超えた。今回調査では「災害時要援護者がどこにいるかわからない」が 26.6%で 9.2 ポイント減少した。

（３）災害時要援護者への対策として行政に期待すること

問２１．災害時要援護者への対策として、あなたは行政に何を期待しますか。特に重要だと思うものを２つまでお選びください。（あてはまるもの２つまで）

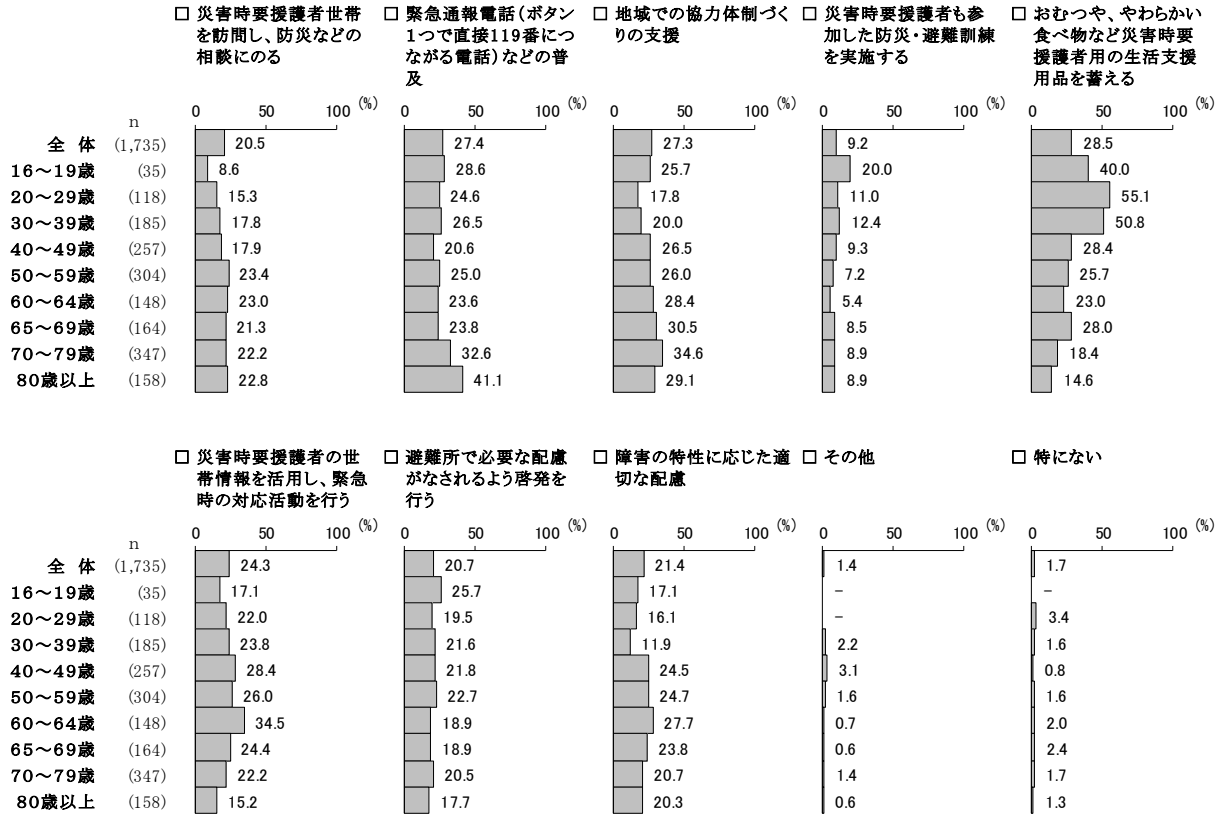
■災害時要援護者への対策として行政に期待すること（図表２－８－３－１）




災害時要援護者への対策として行政に期待することについては、「おむつや、やわらかい食べ物など災害時要援護者用の生活支援用品を蓄える」が 28.5%と最も多く、以下、「緊急通報電話（ボタン１つで直接 119 番につながる電話）などの普及」(27.4%)、「地域での協力体制づくりの支援」(27.3%）となっている。

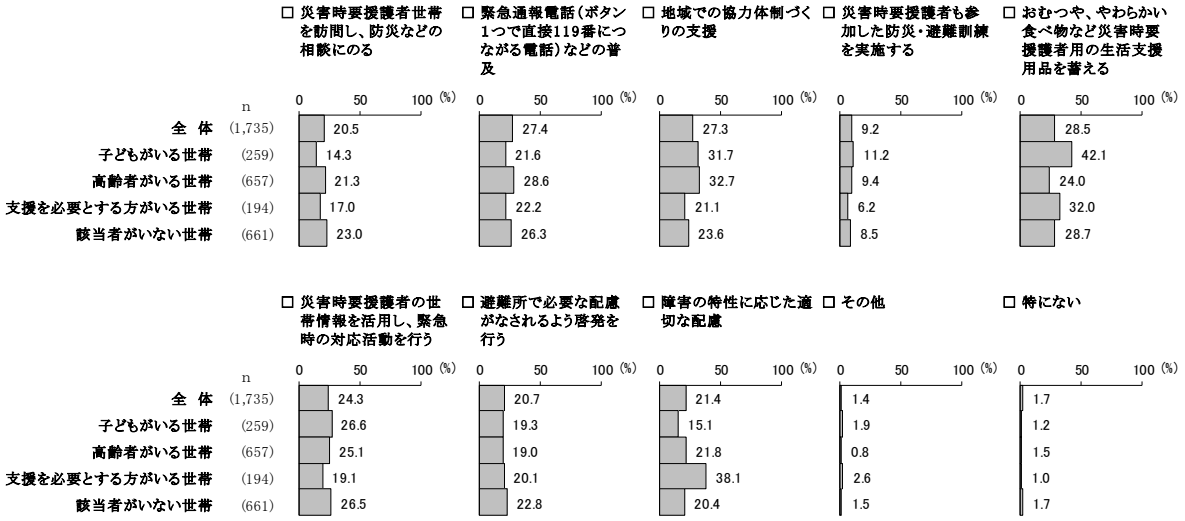
なお、「特にない」との回答は 1.7%と少数であることから、多くの方が行政に対して災害時要援護者への対策を期待していることがうかがえる。

■災害時要援護者への対策として行政に期待すること（年齢別）（図表２－８－３－２）



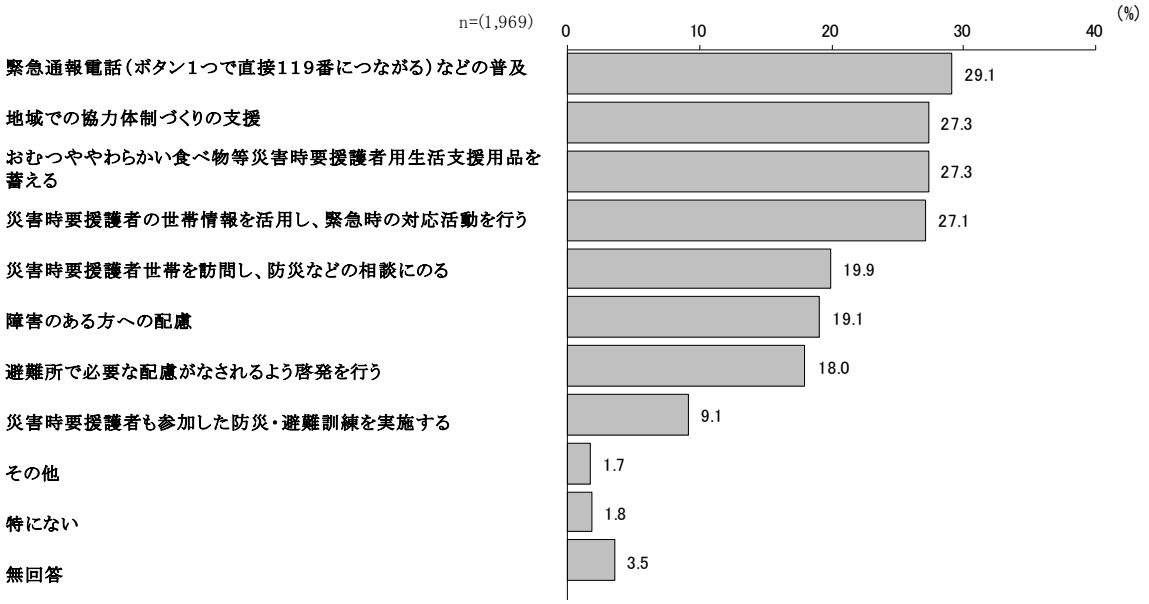

災害時要援護者への対策として行政に期待することを年齢別にみると、『20～29 歳』『30～39 歳』では、「おむつや、やわらかい食べ物など災害時要援護者用の生活支援用品を蓄える」が５割を超えて他の年齢に比べ多くなっている。『60～64 歳』では、「災害時要援護者の世帯情報を活用し、緊急時の対応活動を行う」が 34.5%と他の年齢に比べ多くなっている。70 歳以上では、「緊急通報電話（ボタン１つで直接 119 番につながる電話）などの普及」が３～４割と他の年齢に比べ多くなっている。

■災害時要援護者への対策として行政に期待すること（世帯内の要援護者〔自身を含む〕別）
（図表２－８－３－３）




災害時要援護者への対策として行政に期待することを、世帯内の要援護者（自身を含む）別にみると、『子どもがいる世帯』では、「おむつや、やわらかい食べ物など災害時要援護者用の生活支援用品を蓄える」が 42.1%、『高齢者がいる世帯』では、「緊急通報電話（ボタン１つで直接 119 番につながる電話）などの普及」が 28.6%、『支援を必要とする方がいる世帯』では、「障害の特性に応じた適切な配慮」が 38.1%と最も多くなっている。

【参考】災害時要援護者への対策として行政に期待すること（令和元年度調査結果）
（図表２－８－３－４）



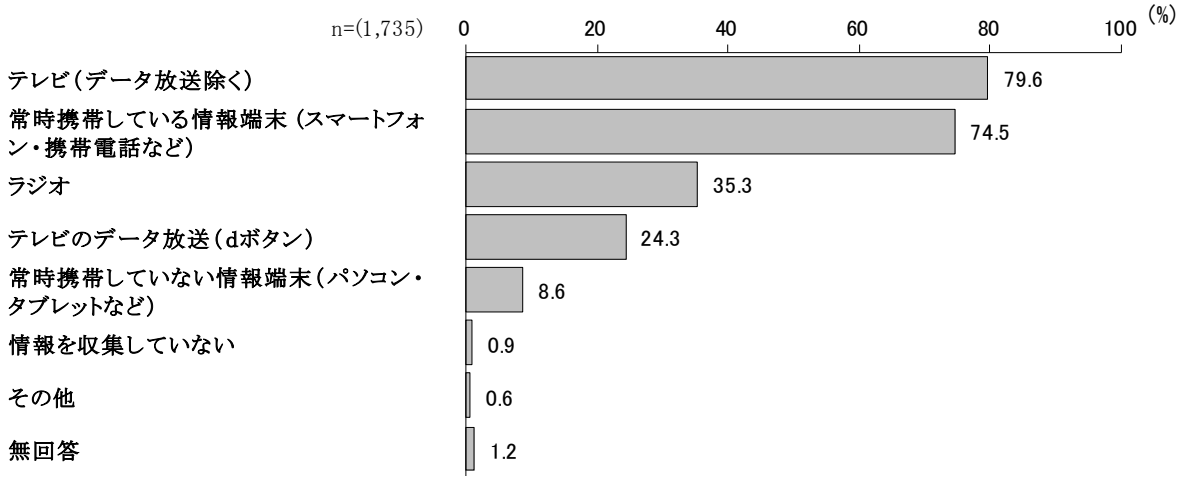

参考までに前回調査と比較すると、前回調査で最も多かった「緊急通報電話（ボタン１つで直接 119 番につながる電話）などの普及」は、今回調査では 27.4%とやや減少している一方、「おむつや、やわらかい食べ物など災害時要援護者用の生活支援用品を蓄える」が今回調査では 28.5%と 1.2 ポイント増加している。

## ９．避難情報の収集について

### （１）災害発生時や発生しそうな時の情報収集手段

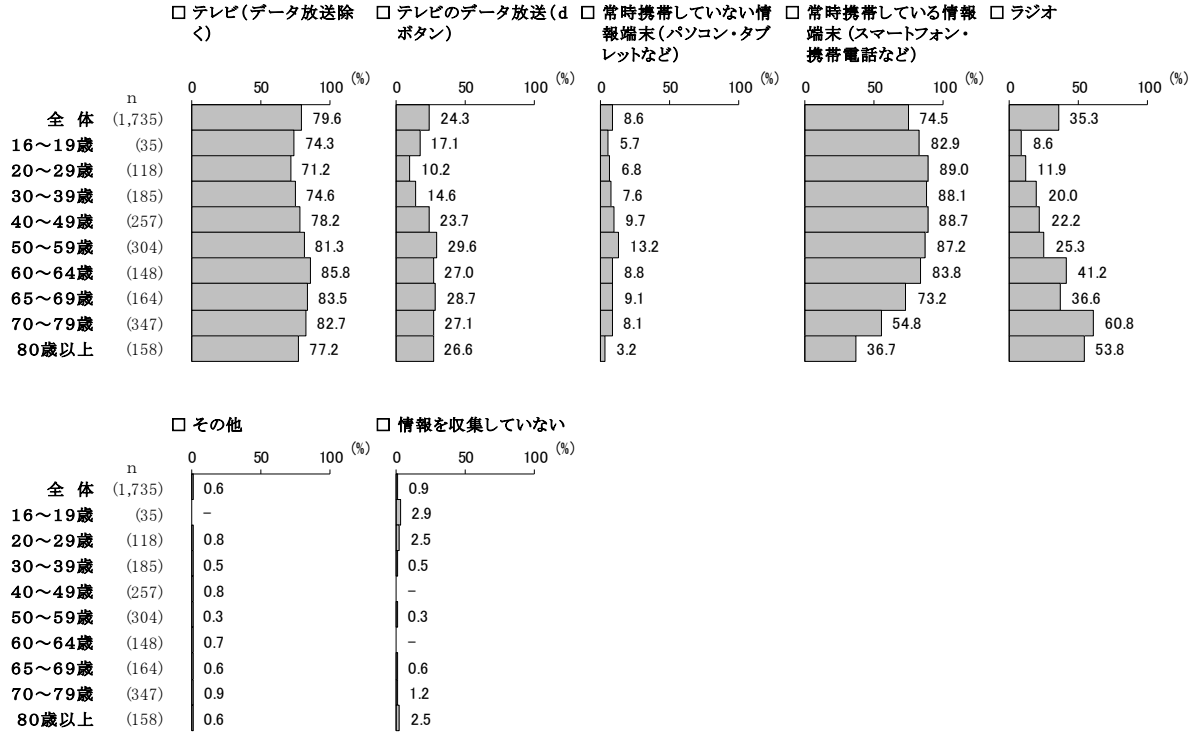
問２２．地震が発生したときや大雨が降っているときなど災害が発生するおそれがある場合、どのような手段で避難情報などを収集していますか。よく利用するツールをすべてお選びください。（あてはまるものすべてに○）

■災害発生時や発生しそうな時の情報収集手段（図表２－９－１－１）




災害発生時や発生しそうな時の情報収集手段については、「テレビ（データ放送除く）」が 79.6%と最も多く、以下、「常時携帯している情報端末（スマートフォン・携帯電話など）」（74.5%）、「ラジオ」（35.3%）、「テレビのデータ放送（ｄボタン）」（24.3%）となっている。

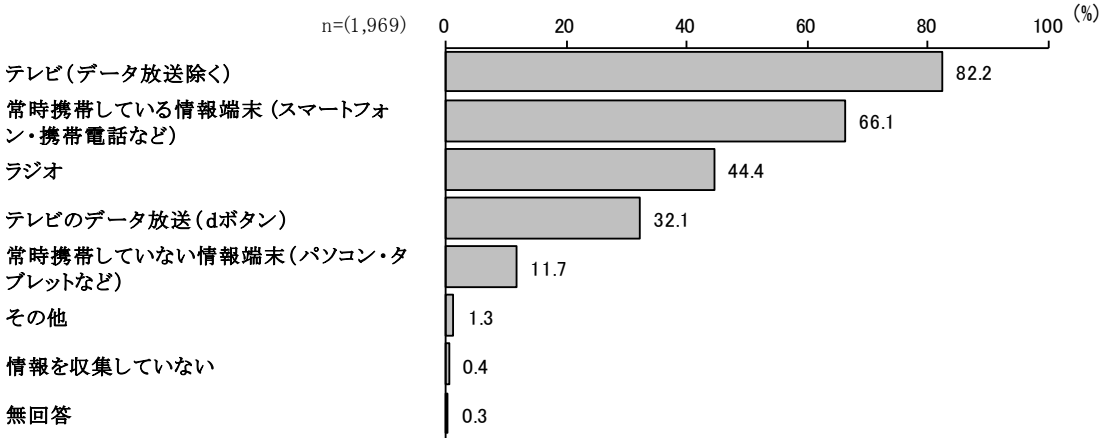
■災害発生時や発生しそうな時の情報収集手段（年齢別）（図表２－９－１－２）




災害発生時や発生しそうな時の情報収集手段を年齢別にみると、「テレビ（データ放送除く）」がどの年代でも７割以上と多くなっている。60 歳台以下では「常時携帯している情報端末（スマートフォン・携帯電話など）」が７割を超えている一方、70 歳以上では、他の年齢に比べ少なくなっている。また、70 歳以上では「ラジオ」が５割以上となり、他の年齢に比べて多くなっている。

【参考】災害発生時や発生しそうな時の情報収集手段（令和元年度調査結果）

（図表２－９－１－３）



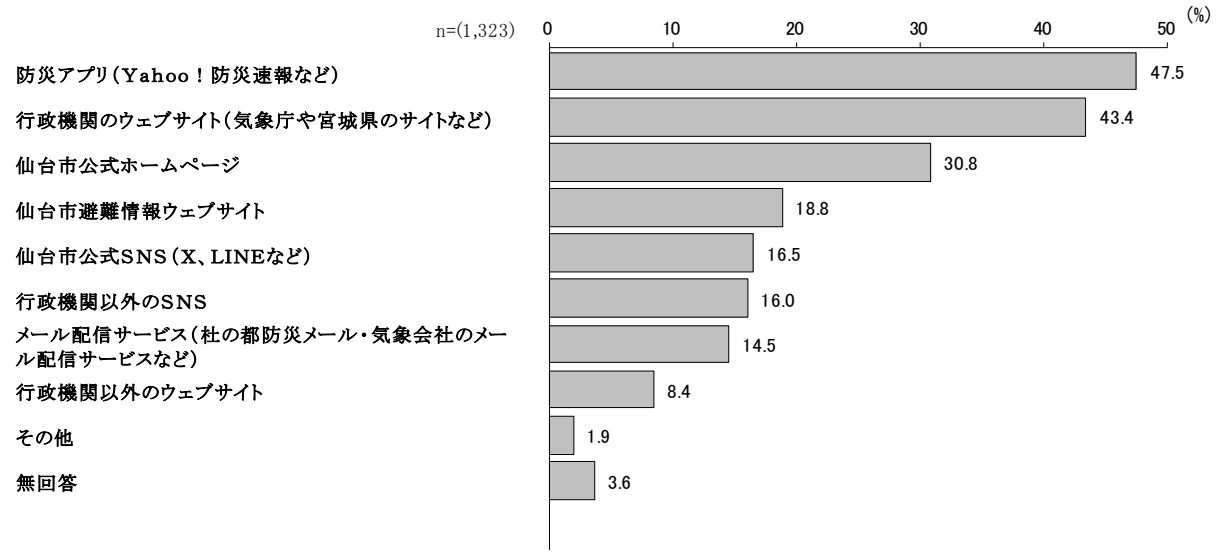

参考までに前回調査と比較すると、今回調査でも「テレビ（データ放送除く）」が一番多いことには変わりない。「常時携帯している情報端末（スマートフォン・携帯電話など）」が 74.5%と 8.4 ポイント増加した一方、「ラジオ」が 35.3%と 9.1 ポイント、「テレビのデータ放送（ｄボタン）」が 24.3%と 7.8 ポイント減少している。

（２）ＰＣやスマートフォンで情報収集の際に利用しているもの

（問２２で「３．常時携帯していない情報端末」「４．常時携帯している情報端末」を選択した方）

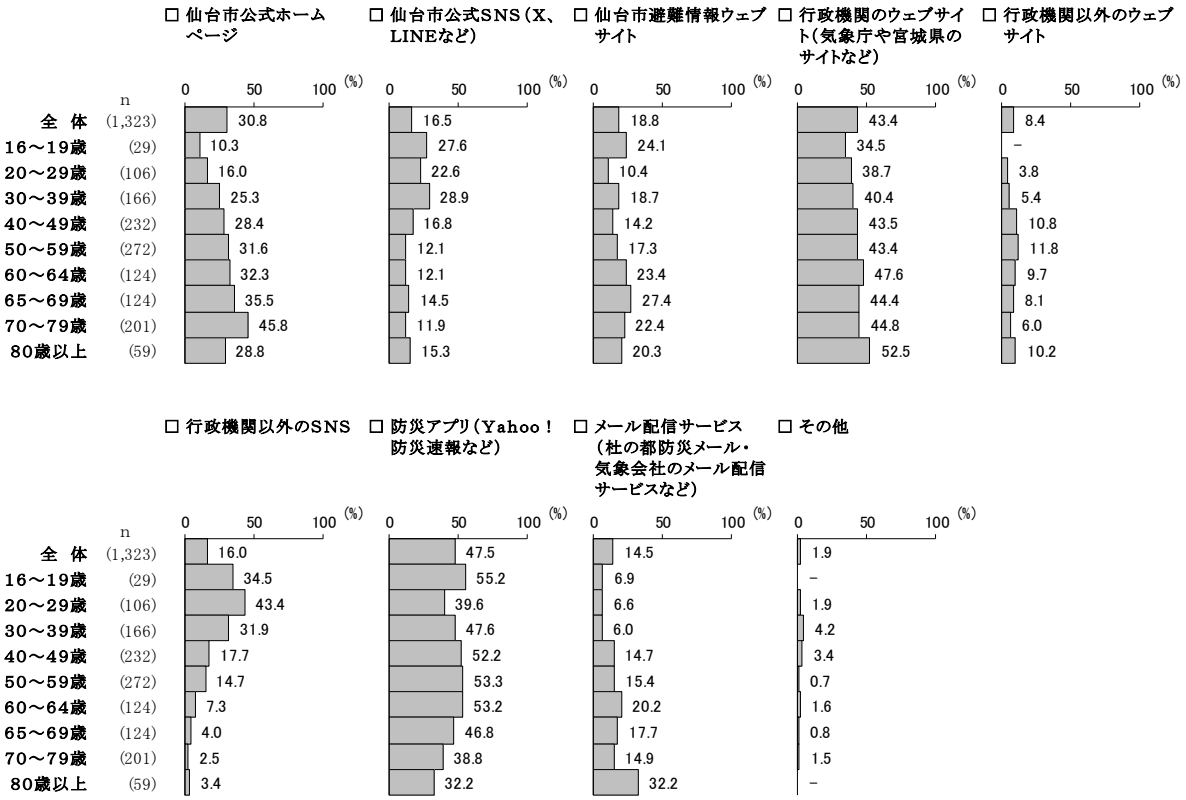
問２３．（問２２で「３．常時携帯していない情報端末」「４．常時携帯している情報端末」を選択した方にお伺いします。）パソコンやスマートフォンなどを活用し、どのように情報を収集していますか。よく利用するものをすべてお選びください。（あてはまるものすべてに○）

■ＰＣやスマートフォンで情報収集の際に利用しているもの（図表２－９－２－１）




問２２で「３．常時携帯していない情報端末」「４．常時携帯している情報端末」を選択した方に対し、パソコンやスマートフォンなどを活用し、どのように情報を収集しているかをたずねたところ、「防災アプリ（Ｙａｈｏｏ！防災速報など）」が 47.5％と最も多く、以下、「行政機関のウェブサイト（気象庁や宮城県のサイトなど）」(43.4％)、「仙台市公式ホームページ」(30.8％)、「仙台市避難情報ウェブサイト」(18.8％)、「仙台市公式ＳＮＳ（Ｘ、ＬＩＮＥなど）」(16.5％）となっている。

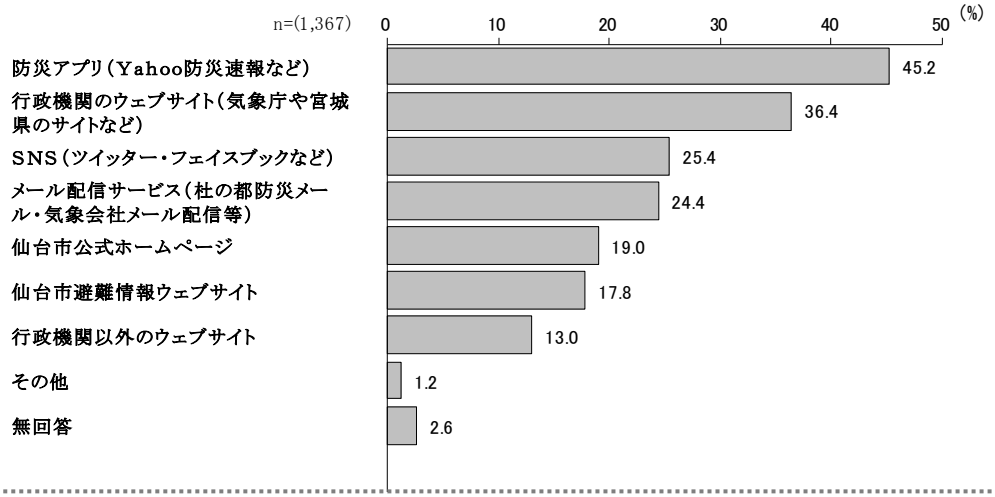
■ＰＣやスマートフォンで情報収集の際に利用しているもの（年齢別）（図表２－９－２－２）




パソコンやスマートフォンで情報収集の際に利用しているものを年齢別にみると、『16～19 歳』から『30～39 歳』では、「行政機関以外のＳＮＳ」が３割を超え、特に『20～29 歳』では 43.4％となっている。『16～19 歳』、『40～49 歳』から『60～64 歳』では、「防災アプリ（Yahoo！防災速報など）」が５割を超えている。『80 歳以上』では、「メール配信サービス（杜の都防災メール・気象会社のメール配信サービスなど）が 32.2％と他の年齢に比べ多くなっている。

【参考】ＰＣやスマートフォンで情報収集の際に利用しているもの（令和元年度調査結果）

（図表２－９－２－３）



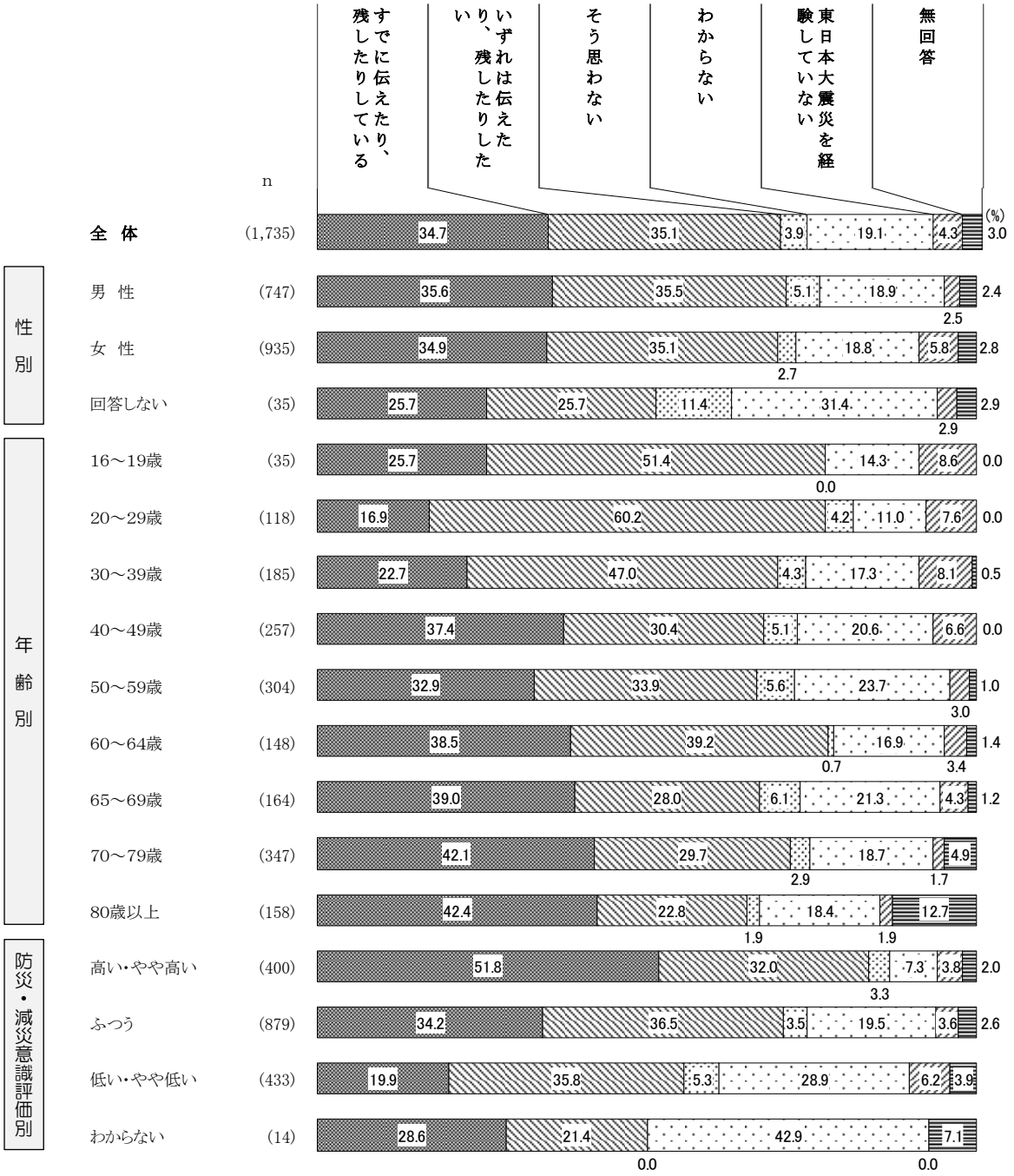

参考までに前回調査と比較すると今回調査でも「防災アプリ（Ｙａｈｏｏ！防災速報など）」が一番多く、次に「行政機関のウェブサイト（気象庁や宮城県のサイトなど）」であることには変わりない。「防災アプリ（Ｙａｈｏｏ！防災速報など）」は 47.5％と 2.3 ポイント増加、「行政機関のウェブサイト（気象庁や宮城県のサイトなど）」は 43.4％と 7.0 ポイント増加している。

## １０．東日本大震災の経験を伝えることについて

### （１）東日本大震災の経験伝承への考え

問２４．東日本大震災の発生から１３年が経過し、記憶の風化が懸念されているところですが、今後、誰かに伝えたり、残したりしたいと思いますか。１つお選びください。（○は１つ）

■東日本大震災の経験伝承への考え（図表２－１０－１－１）



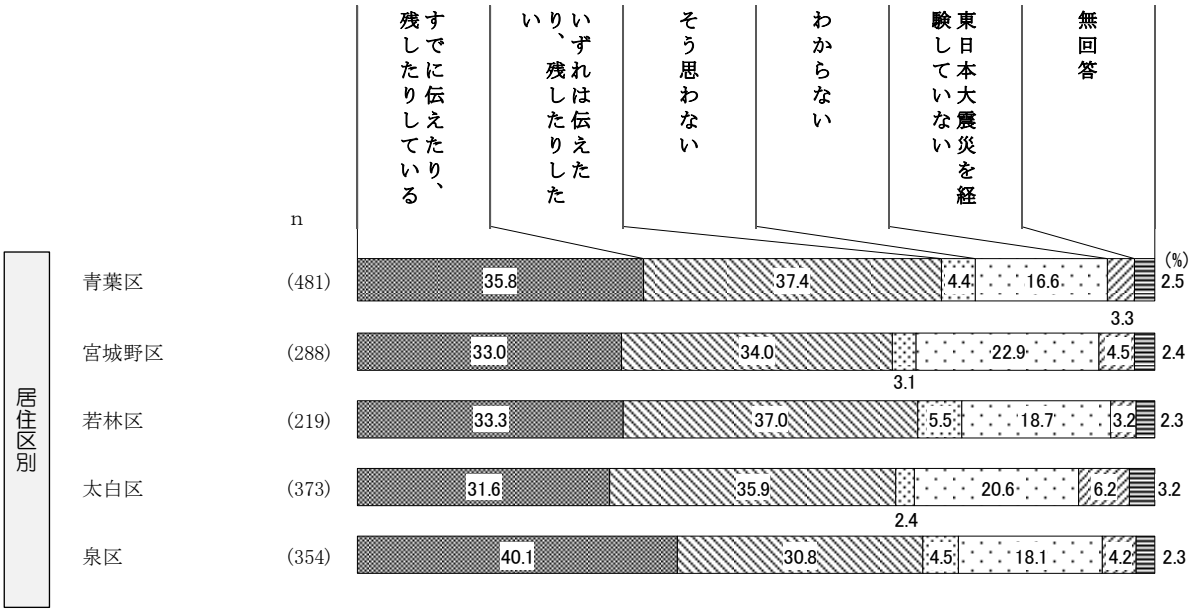
東日本大震災の経験伝承への考えについては、全体で「すでに伝えたり、残したりしている」（34.7%）と「いずれは伝えたり、残したりしたい」（35.1%）が多く、合わせると『伝えたい』人は約７割となっている。

一方、「わからない」人は 19.1%、「そう思わない」人は 3.9%となっている。

性別にみると、『男性』と『女性』で大きな差はみられない。

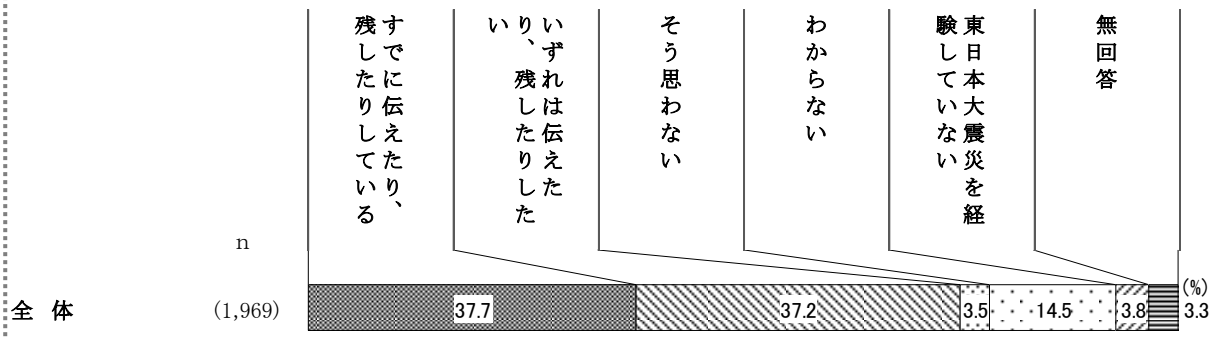
年齢別にみると、『16～19 歳』から『30～39 歳』では、「いずれは伝えたり、残したりしたい」が４～６割台と多く、60 歳以上では、「すでに伝えたり、残したりしている」が４割程度と多くなっている。

■東日本大震災の経験伝承への考え（居住区別）（図表２－１０－１－２）




東日本大震災の経験伝承への考えを居住区別にみると、『泉区』では、「すでに伝えたり、残したりしている」が約４割と最も多くなっている。

【参考】東日本大震災の経験伝承への考え（令和元年度調査結果）（図表２－１０－１－３）



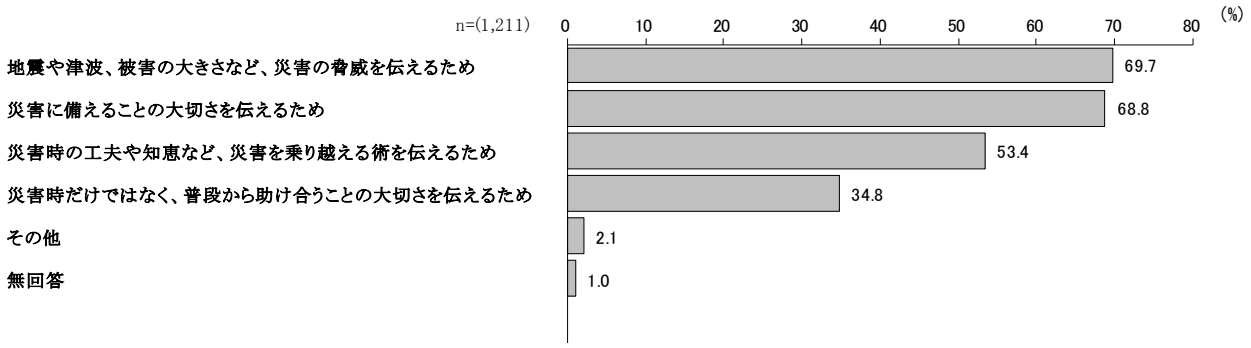

参考までに前回調査と比較すると、「すでに伝えたり、残したりしている」が 34.7%と 3.0 ポイント、「いずれは伝えたり、残したい」が 35.1%と 2.1 ポイント減少している。また、「わからない」が 19.1%と 4.6 ポイント増加、「東日本大震災を経験していない」が 4.3%と 0.5 ポイント増加している。

（２）東日本大震災の経験を伝承した（したい）理由

（問２４で「１．すでに伝えたり、残したりしている」「２．いずれは伝えたり、残したりしたい」を選択した方）

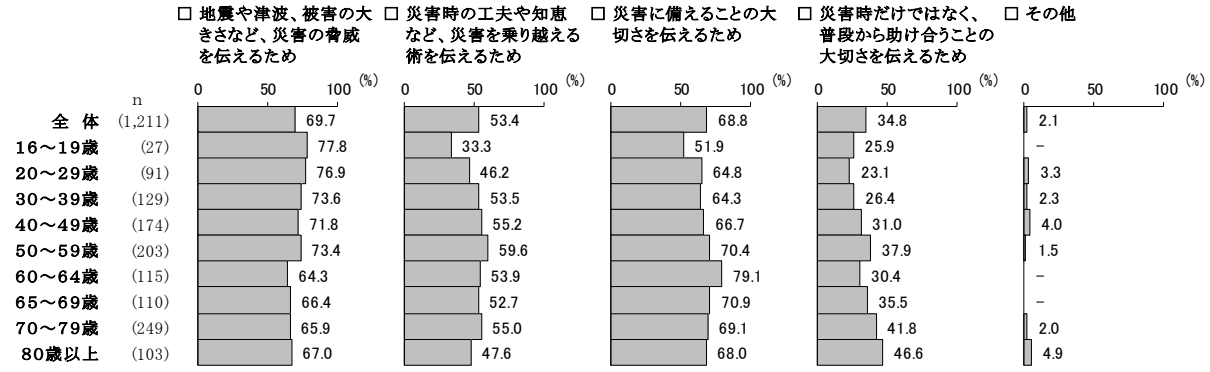
問２５．（問２４で「１．すでに伝えたり、残したりしている」「２．いずれは伝えたり、残したりしたい」を選択した方にお伺いします。）そのように思う理由について、あてはまるものをすべてお選びください。（あてはまるものすべてに○）

■東日本大震災の経験を伝承した（したい）理由（図表２－１０－２－１）



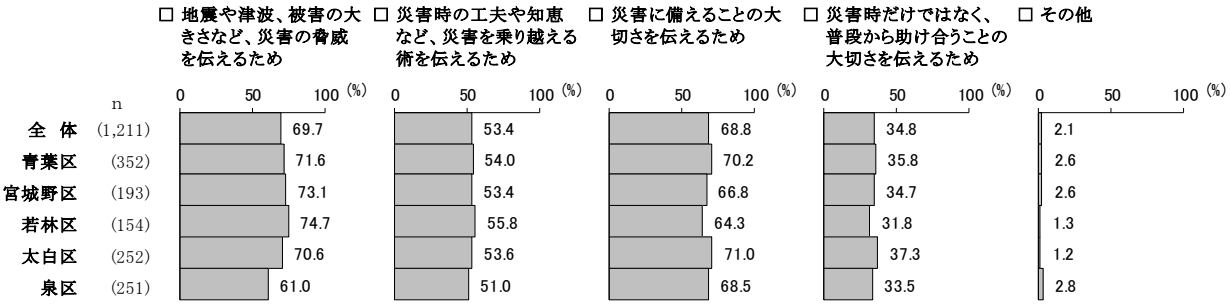

問２４で「１．すでに伝えたり、残したりしている」「２．いずれは伝えたり、残したりしたい」を選択した方に対し、東日本大震災の経験を伝承した（したい）理由をたずねたところ、「地震や津波、被害の大きさなど、災害の脅威を伝えるため」が 69.7%と最も多く、以下、「災害に備えることの大切さを伝えるため」（68.8%）、「災害時の工夫や知恵など、災害を乗り越える術を伝えるため」（53.4%）となっている。

■東日本大震災の経験を伝承したい理由（年齢別）（図表２－１０－２－２）




東日本大震災の経験を伝承したい理由を年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「災害時だけではなく、普段から助け合うことの大切さを伝えるため」が多くなる傾向がある。

■東日本大震災の経験を伝承したい理由（居住区別）（図表２－１０－２－３）

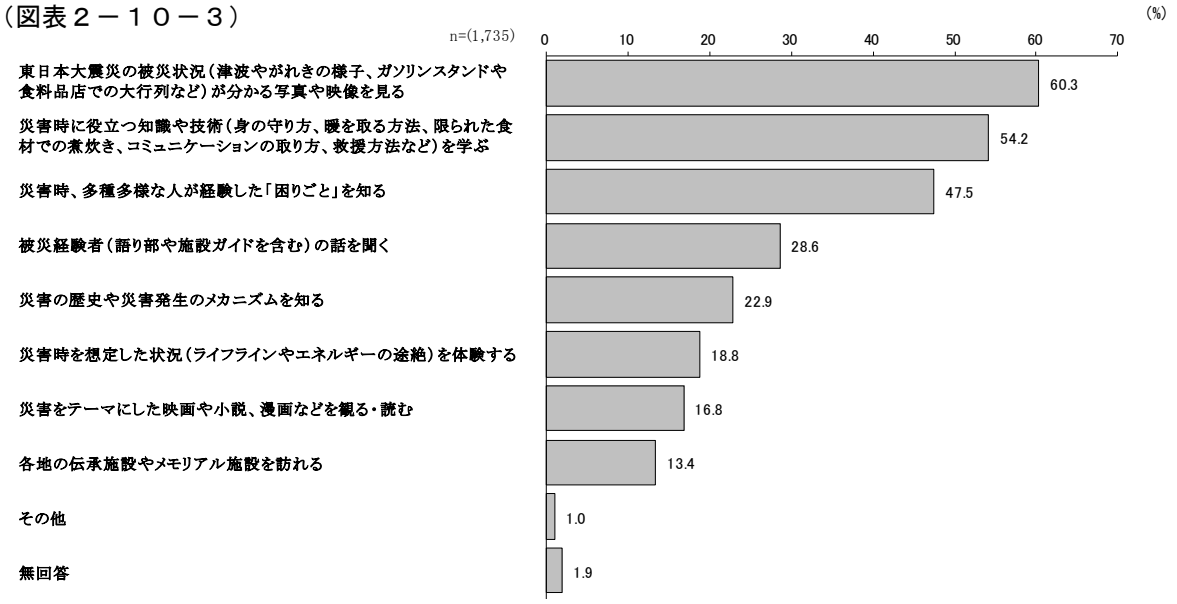



東日本大震災の経験を伝承したい理由を居住区別にみると、「地震や津波、被害の大きさなど、災害の脅威を伝えるため」は『若林区』が 74.7%、『宮城野区』が 73.1%と他の地区に比べ多く、また「災害時だけではなく、普段から助け合うことの大切さを伝えるため」は『太白区』で 37.3%と他の地区に比べ多くなっている。

（３）東日本大震災の経験伝承とともに、大災害に備える考え方や行動を身に付けるための効果的な方法

問２６．東日本大震災の経験を伝えるとともに、次の大災害に備える考え方や行動を身に着けるために、あなたにとってどのような方法が効果的だと思いますか。効果的だと思うものを３つまで選択してください。　（○は３つまで）

■東日本大震災の経験伝承とともに、大災害に備える考え方や行動を身に付けるための効果的な方法（図表２－１０－３）



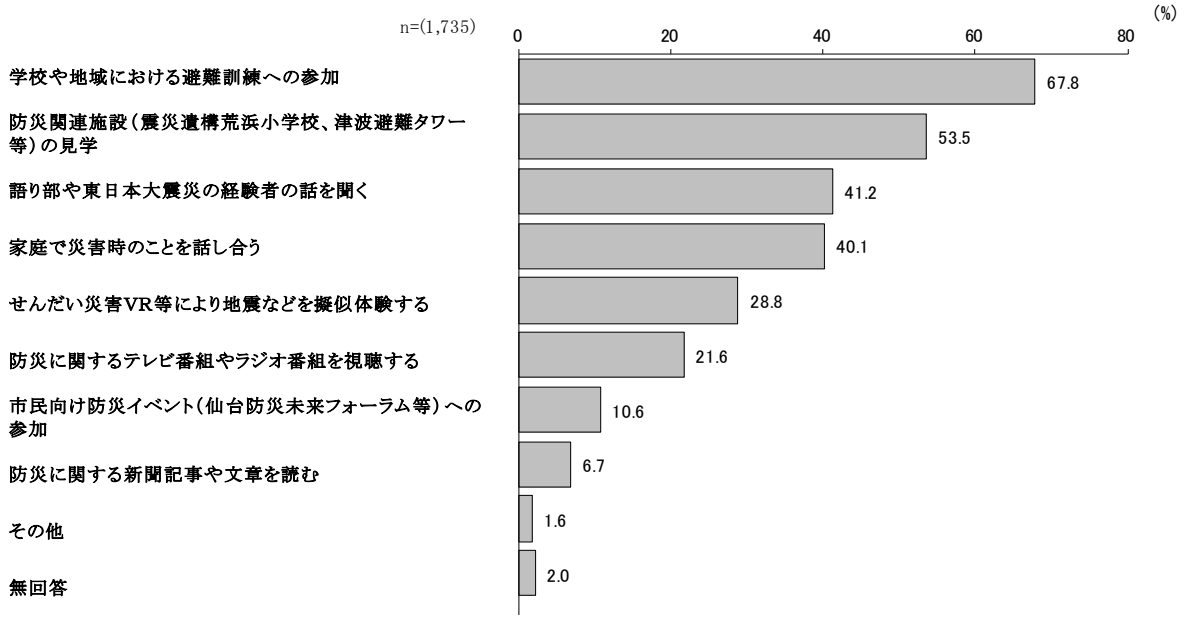

東日本大震災の経験伝承とともに、大災害に備える考え方や行動を身に付けるための効果的な方法をたずねたところ、「東日本大震災の被災状況（津波やがれきの様子、ガソリンスタンドや食料品店での大行列など）が分かる写真や映像を見る」が 60.3%と最も多く、以下、「災害時に役立つ知識や技術（身の守り方、暖を取る方法、限られた食材での煮炊き、コミュニケーションの取り方、救援方法など）を学ぶ」(54.2%)、「災害時、多種多様な人が経験した「困りごと」を知る」(47.5%) となっている。

## １１．東日本大震災を経験していない子どもたちへの取り組みについて

### （１）震災未経験の子どもたちが防災意識を持つため有効と思う取り組み

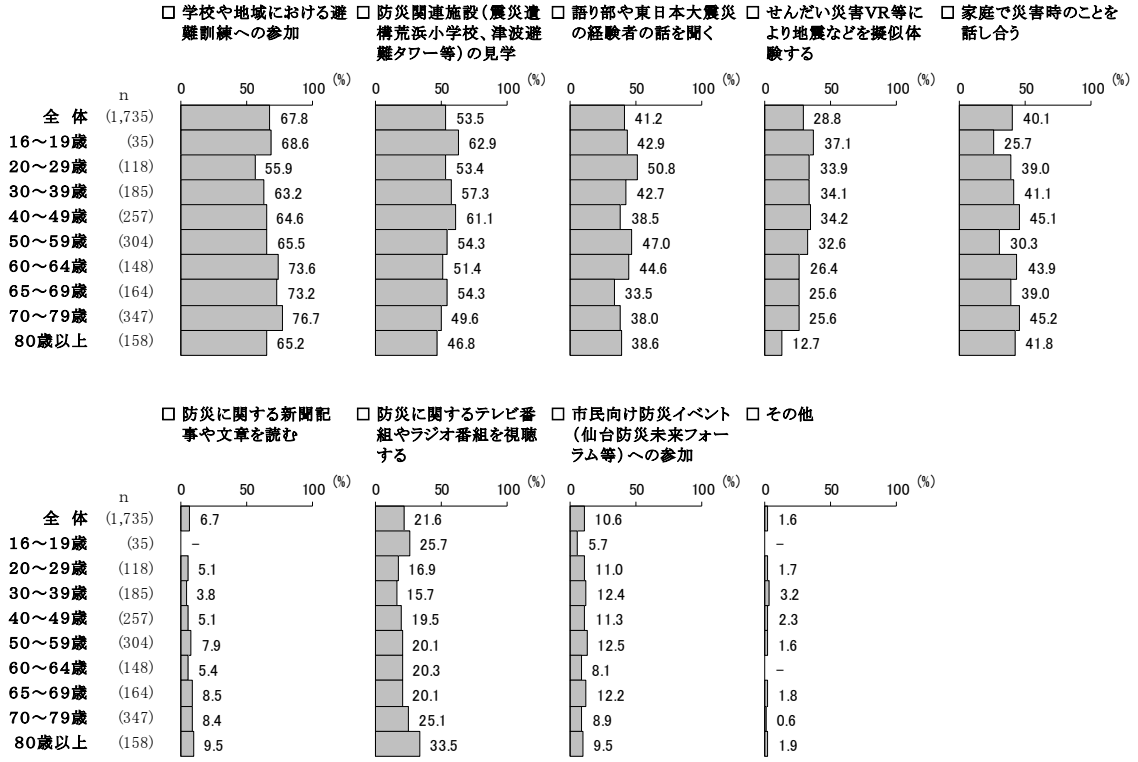
問２７．東日本大震災を経験していない子どもたちに災害への備えを意識してもらうには、どのような体験や経験が有効と考えますか。特に有効だと思うものを３つまでお選びください。
（あてはまるもの３つまで）

■震災未経験の子どもたちが防災意識を持つため有効と思う取り組み（図表２－１１－１－１）




震災未経験の子どもたちが防災意識を持つため有効と思う取り組みについては、「学校や地域における避難訓練への参加」が 67.8%と最も多く、以下、「防災関連施設（震災遺構荒浜小学校、津波避難タワー等）の見学」（53.5%）、「語り部や東日本大震災の経験者の話を聞く」（41.2%）、「家庭で災害時のことを話し合う」（40.1%）となっている。

■震災未経験の子どもたちが防災意識を持つため有効と思う取り組み（年齢別）（図表２－１１－１－２）



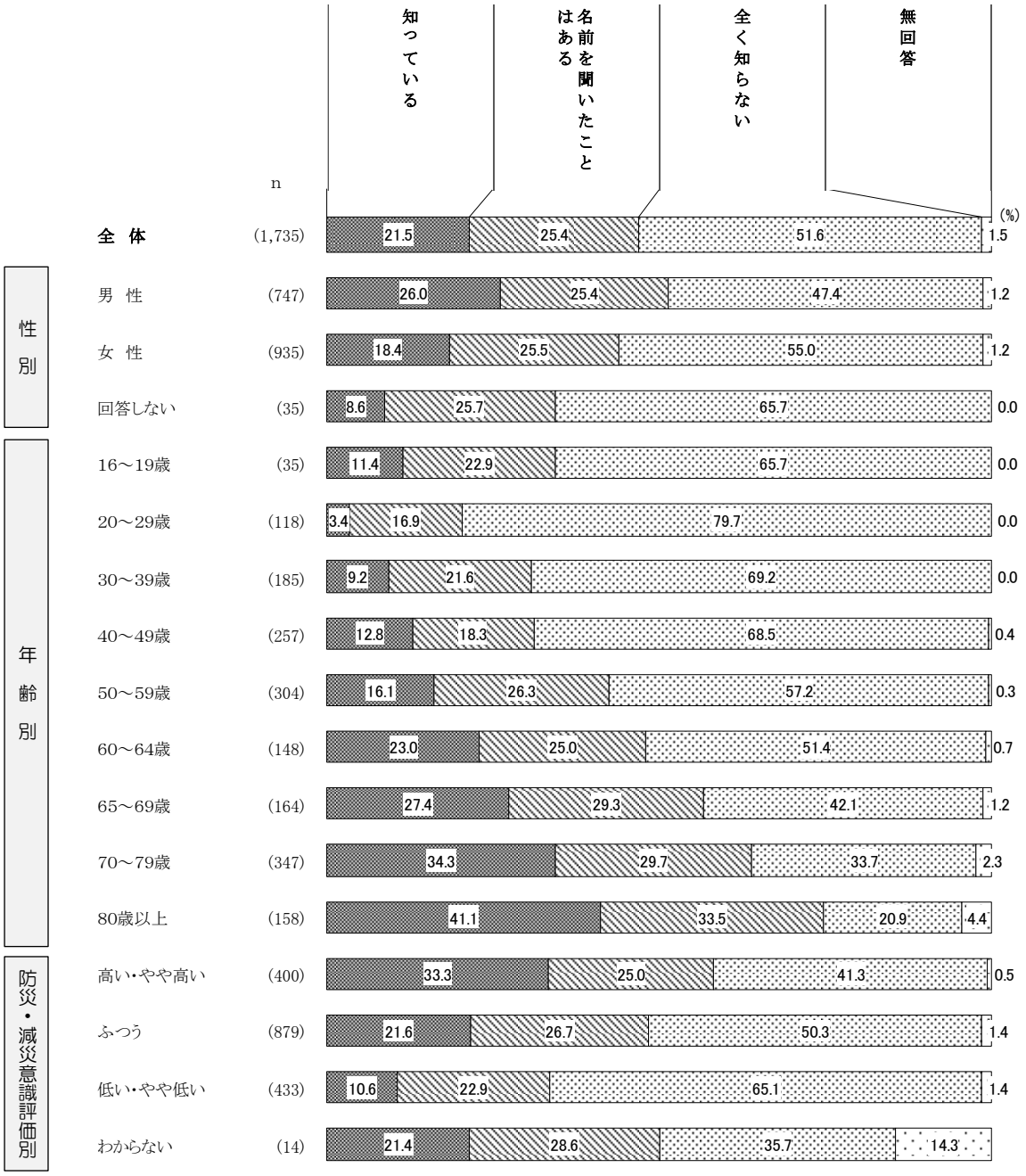

震災未経験の子どもたちが防災意識を持つため有効と思う取り組みを年齢別にみると、『16～19 歳』では、「防災関連施設（震災遺構荒浜小学校、津波避難タワー等）の見学」が 62.9％と他の年齢に比べ多くなっている。『20～29 歳』では、「語り部や東日本大震災の経験者の話を聞く」が 50.8％と他の年齢に比べ多くなっている。『16～19 歳』『50～59 歳』では、「家庭で災害時のことを話し合う」が２～３割台となり、他の年齢より少なくなっている。『80 歳以上』では、「防災に関するテレビ番組やラジオ番組を視聴する」が 33.5％と他の年齢に比べ多くなっている。「せんだい災害ＶＲ等により地震などを擬似体験する」は『16～19 歳』から『50～59 歳』で３割を超え、60 歳以上と比べ多くなっている。

## １２．地震対策について

### （１）「北海道・三陸沖後発地震注意情報」の認知度

問２８．日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の想定震源域とその周辺で大きな地震が発生した際に、続いて発生する更に大きな地震に備える呼びかけとして「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が発信されることを知っていますか。あてはまるものを１つお選びください。（○は１つ）

■「北海道・三陸沖後発地震注意情報」の認知度（図表２－１２－１）



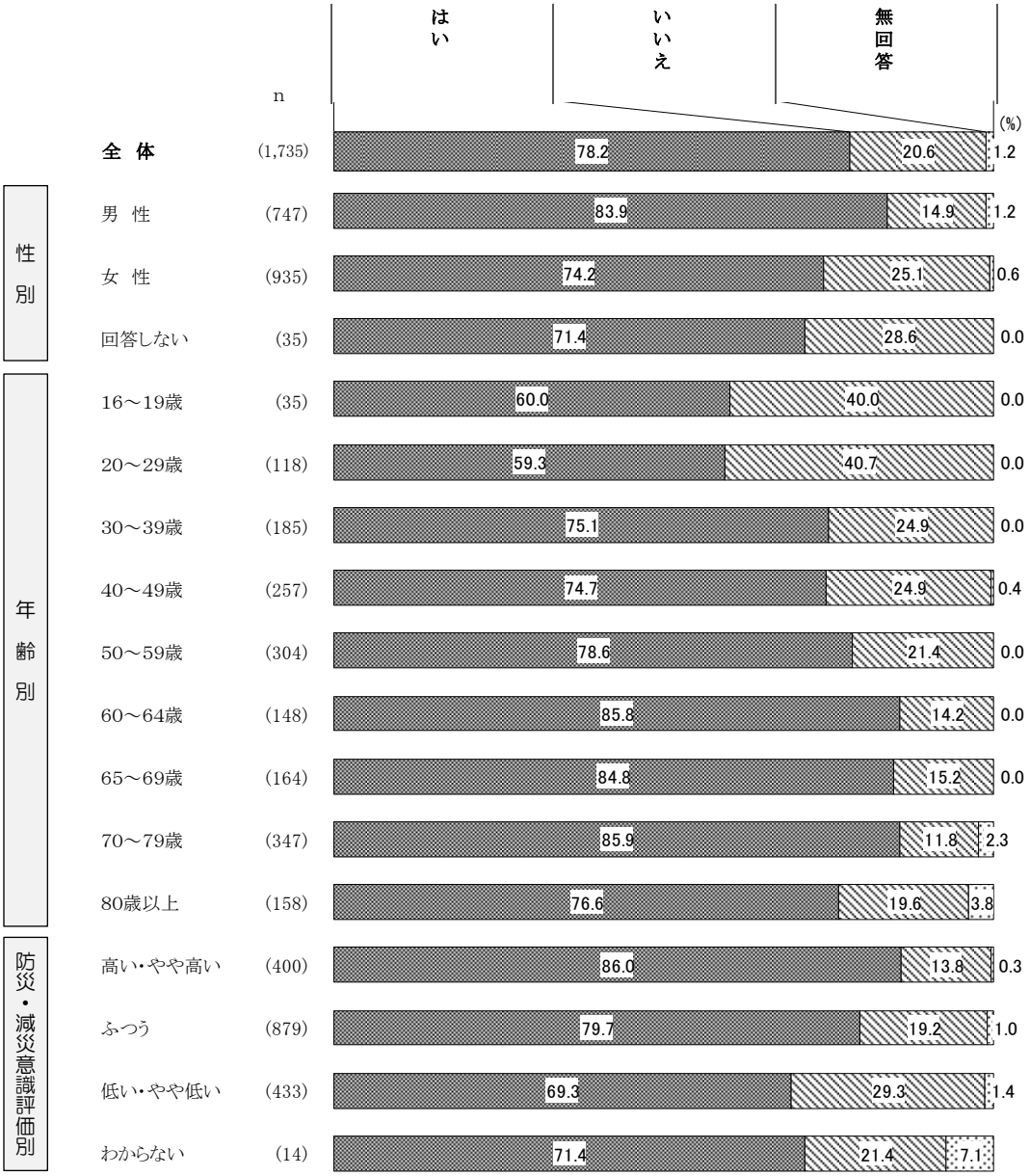

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」については、全体で「全く知らない」が 51.6%と最も多く、以下、「名前を聞いたことはある」（25.4%）、「知っている」（21.5%）となっている。

年齢別には、年齢が上がるにつれて「知っている」が増加している傾向にある。

（２）電気火災防止のためのブレーカー操作の認知度

問２９．地震が起きた際、電気ストーブ等が転倒により可燃物に接触し、その状態で停電から復旧するなどにより、火災が発生することがあります。こうした電気火災を防止するには、ブレーカーを落とすことが有効であることを知っていますか。（○は１つ）

■電気火災防止のためのブレーカー操作の認知度（図表２－１２－２）



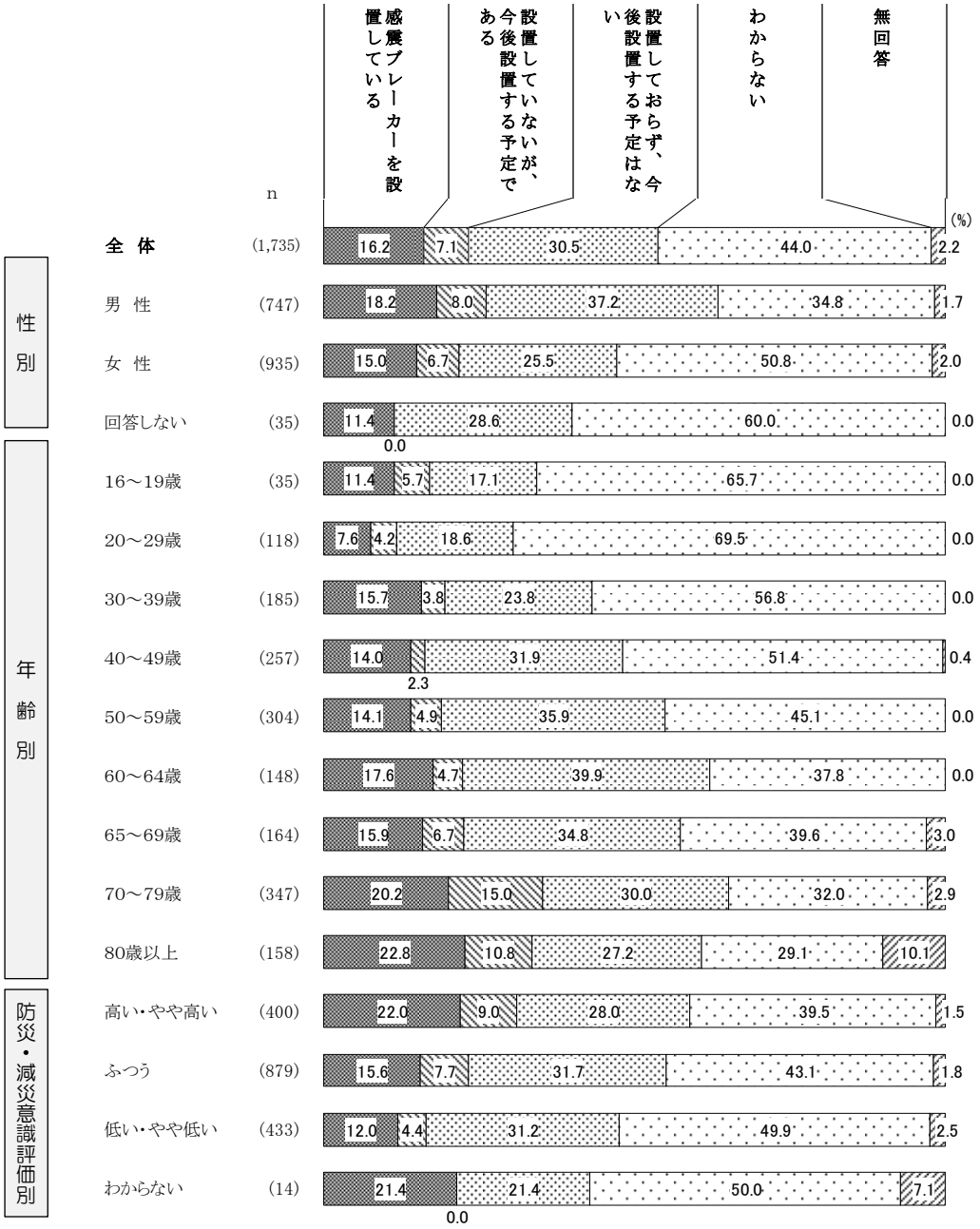

電気火災防止のため、地震発生時にブレーカーを落とす行為が有効であることを知っているかどうかをたずねたところ、全体では、「はい」が 78.2%と多く、８割程度の人が有効であることを認知していた。

年齢別に見ると、『16～19 歳』『20～29 歳』においては「はい」の割合が相対的に少なくなっている。

（３）「感震ブレーカー」の設置状況

問３０．あなたのご自宅では、地震による電気火災を防止するために、地震の大きな揺れを感知して電気を自動的に遮断する「感震ブレーカー」を設置していますか。（○は１つ）

■「感震ブレーカー」の設置状況（図表２－１２－３）




「感震ブレーカー」の設置状況については、全体で「設置しておらず、今後設置する予定はない」が 30.5%で最も多く、次に、「感震ブレーカーを設置している」（16.2%）、「設置していないが、今後設置する予定である」（7.1%）となった。なお、「わからない」は 44.0%で多かった。

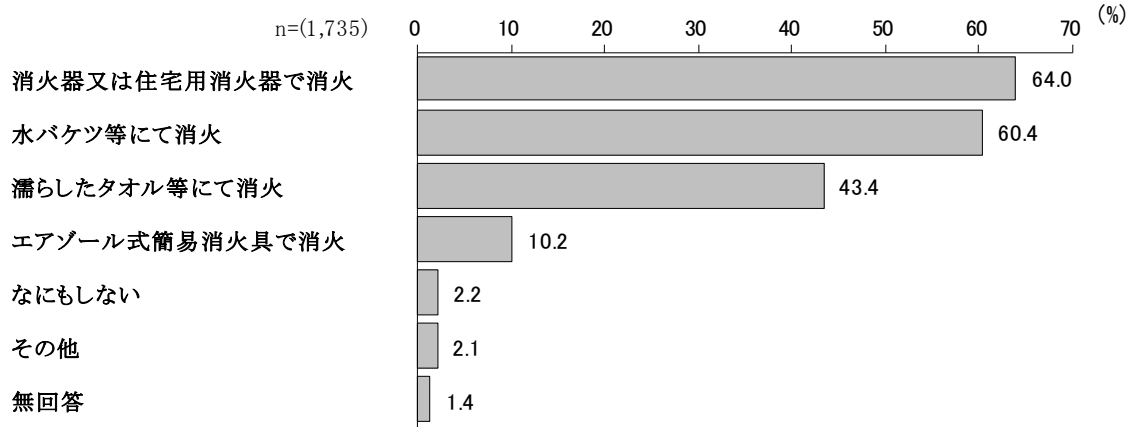
性別にみると、『女性』では「わからない」が 50.8%と男性に比べ 16.0 ポイント高く、過半数を占めている。

年齢別にみると、おおむね若年層ほど「わからない」が多く、20 歳台以下においては６割を超えている。

（４）地震時に実施可能な初期消火活動について

問３１．地震時は、火災を早期に発見し初期消火を行うことで、大規模な火災の発生を防ぐことができます。あなたは地震時に火災を早期に発見した場合、自らの安全性を確保した上でどのような初期消火活動をすることができますか。（あてはまるものすべてに○）

■地震時に実施可能な初期消火活動について（図表２－１２－４）



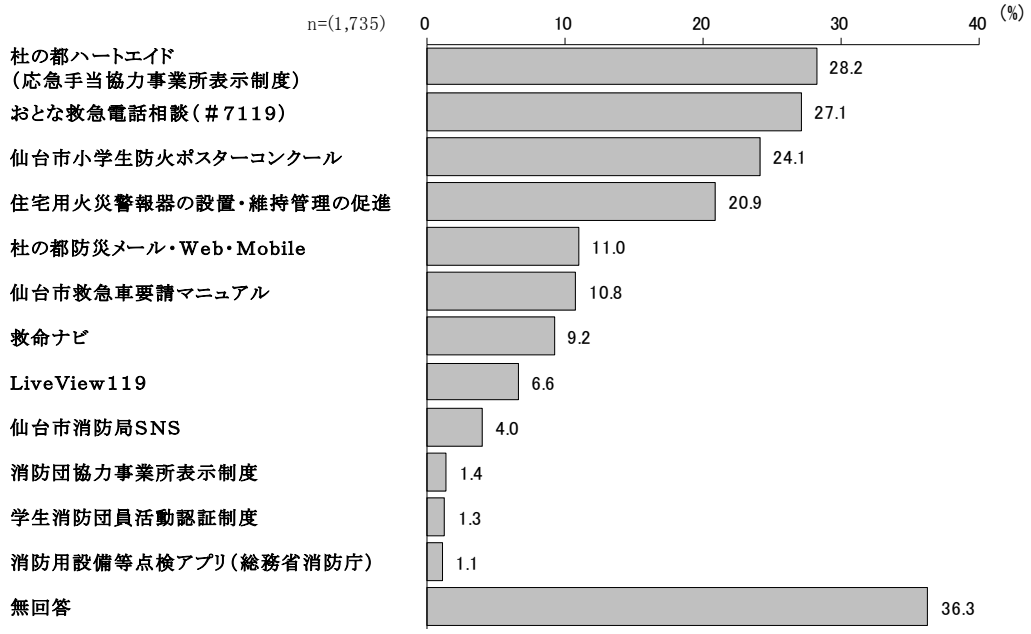

地震時に火災を早期に発見した場合、どのような初期消火活動をすることができるかたずねたところ、初期消火活動については、「消火器又は住宅用消火器で消火」が 64.0%で最も多く、以下、「水バケツ等にて消火」（60.4%）、「濡らしたタオル等にて消火」（43.4%）となっている。

## １３．消防施策について

### （１）仙台市で実施している消防施策の認知度

問３２．仙台市で実施している消防施策では、安全・安心の確保に向け、さまざまな事業に取り組んでいますが、次の中で知っているものがありますか。知っているものをすべてお選びください。（あてはまるものすべてに○）

■仙台市で実施している消防施策の認知度（図表２－１３－１－１）

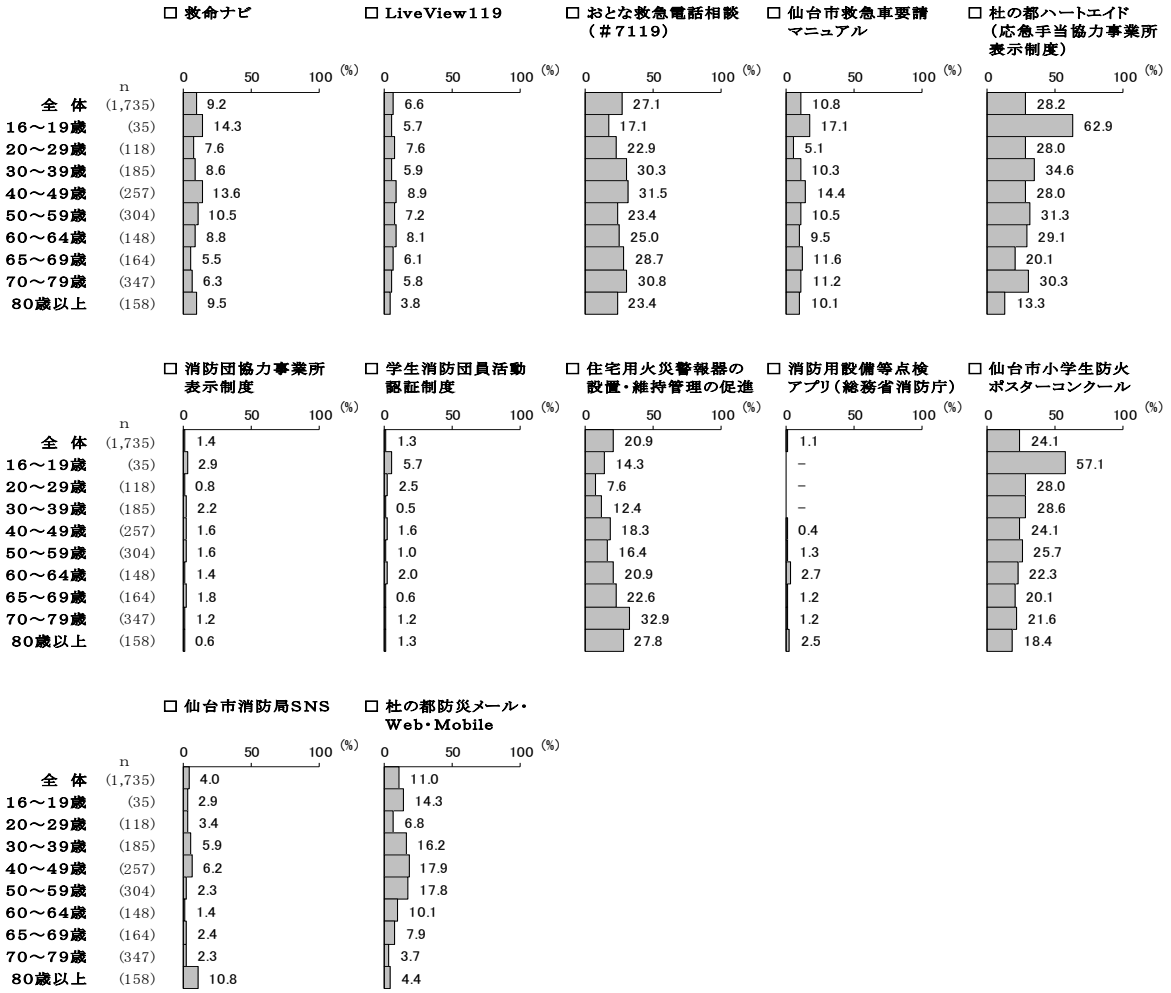



仙台市で実施している消防施策の認知度については、「杜の都ハートエイド（応急手当協力事業所表示制度）」が 28.2％と最も多く、以下、「おとな救急電話相談（＃７１１９）」（27.1％）、「仙台市小学生防火ポスターコンクール」（24.1％）、「住宅用火災警報器の設置・維持管理の促進」（20.9％）、「杜の都防災メール・Ｗｅｂ・Ｍｏｂｉｌｅ」（11.0％）となっている。

なお、いずれの事業も選択していない人（無回答）は 36.3％となっている。

※「消防用設備等点検アプリ（総務省消防庁）」は国の事業であるが、市として事業の広報に取り組んでいる。

■仙台市で実施している消防施策の認知度（年齢別）（図表２－１３－１－２）



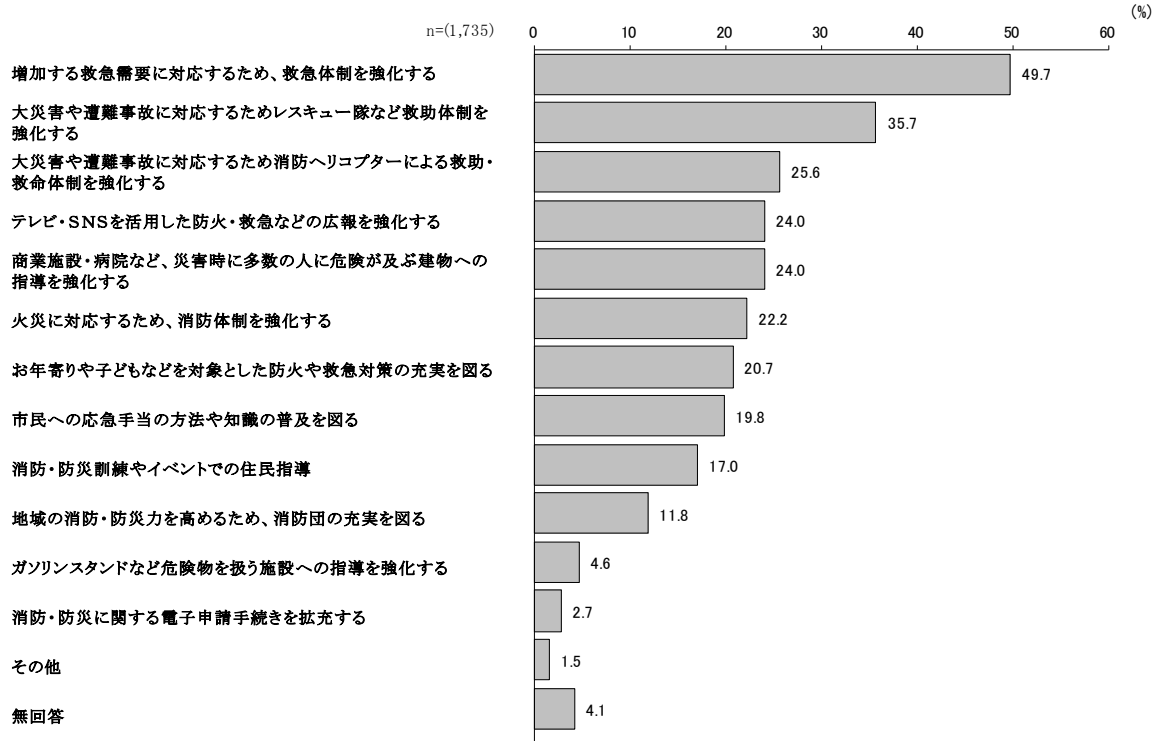

消防施策の認知度を年齢別にみると、『16～19 歳』では、「杜の都ハートエイド（応急手当協力事業所表示制度)」が 62.9%と最も多く、「仙台市小学生防火ポスターコンクール」も５割以上と他の年齢に比べ多くなっている。

また、「住宅用火災警報器の設置・維持管理の促進」では『70～79 歳』が 32.9%と最も多い一方、50 歳台以下では２割を下回っている。

（２）消防施策で特に力を入れて取り組むべきこと

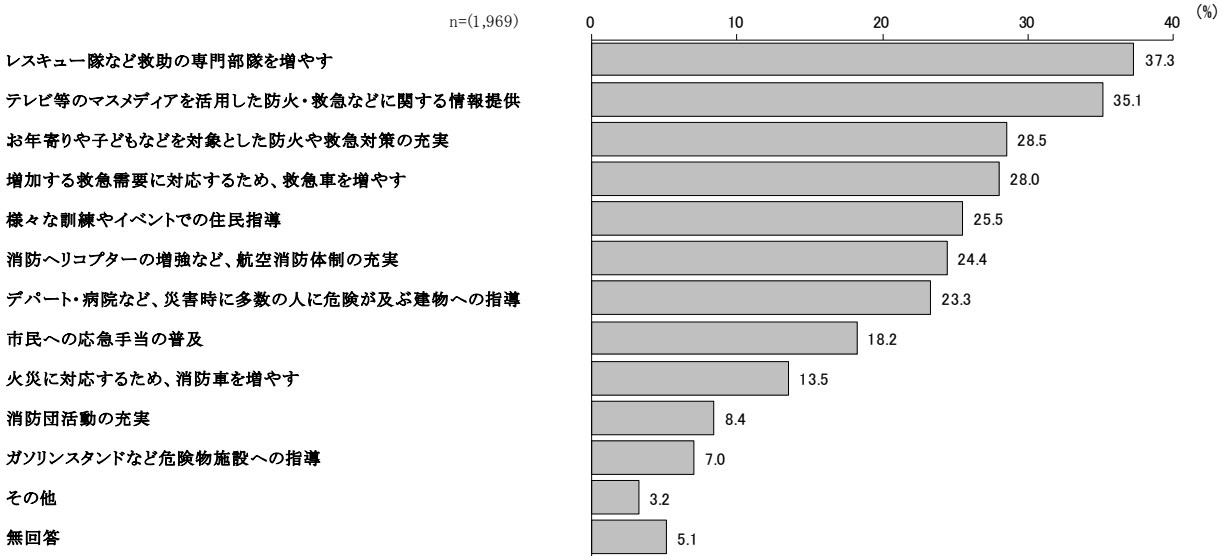
問３３．仙台市で実施している消防施策で、特に力を入れて取り組むべきと思うことを３つまでお選びください。（あてはまるもの３つまで）

■消防施策で特に力を入れて取り組むべきこと（図表２－１３－２－１）




消防施策で特に力を入れて取り組むべきことについては、「増加する救急需要に対応するため、救急体制を強化する」が 49.7%と最も多く、以下、「大災害や遭難事故に対応するためレスキュー隊など救助体制を強化する」(35.7%)、「大災害や遭難事故に対応するため消防ヘリコプターによる救助・救命体制を強化する」(25.6%)、「テレビ・ＳＮＳを活用した防火・救急などの広報を強化する」「商業施設・病院など、災害時に多数の人に危険が及ぶ建物への指導を強化する」（ともに 24.0%）となっている。

【参考】消防施策で特に力を入れて取り組むべきこと（令和元年度調査結果）（図表２－１３－２－２）

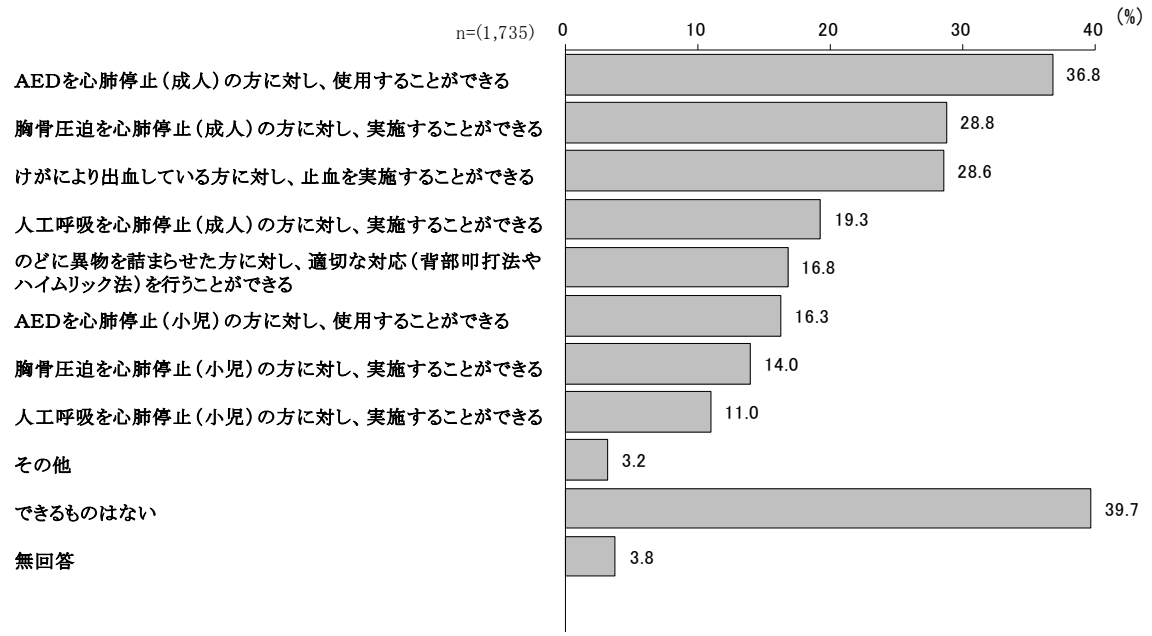



参考までに前回調査と比較すると、「増加する救急需要に対応するため、救急体制を強化する」（前回「増加する救急需要に対応するため、救急車を増やす」）が 49.7％と、前回の 28.0％から 21.7 ポイントの大幅増となり、最も多い結果となった。

（３）急病人や負傷者発生時に自身が実施できる応急処置

問３４．あなたの周囲で急病人や負傷者が発生したとき、あなたはどのような応急手当ができますか。あてはまるものをすべてお選びください。（あてはまるものすべてに○）

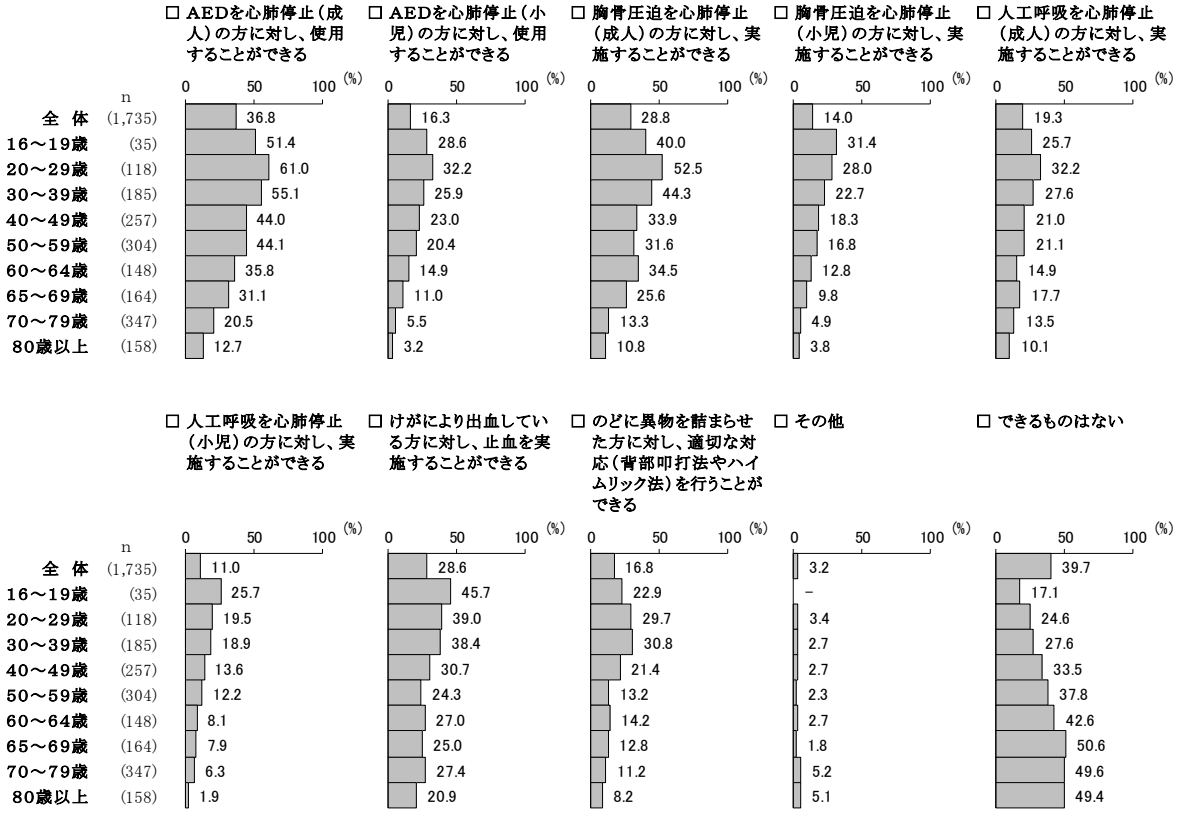
■急病人や負傷者発生時に自身が実施できる応急処置（図表２－１３－３－１）




急病人や負傷者発生時に自身ができる応急手当については、「ＡＥＤを心肺停止（成人）の方に対し、使用することができる」が 36.8％と最も多く、以下、「胸骨圧迫を心肺停止（成人）の方に対し、実施することができる」（28.8％）、「けがにより出血している方に対し、止血を実施することができる」（28.6％）となっている。

一方、「できるものはない」は 39.7％となっている。

■急病人や負傷者発生時に自身ができる応急手当（年齢別）（図表２－１３－３－２）

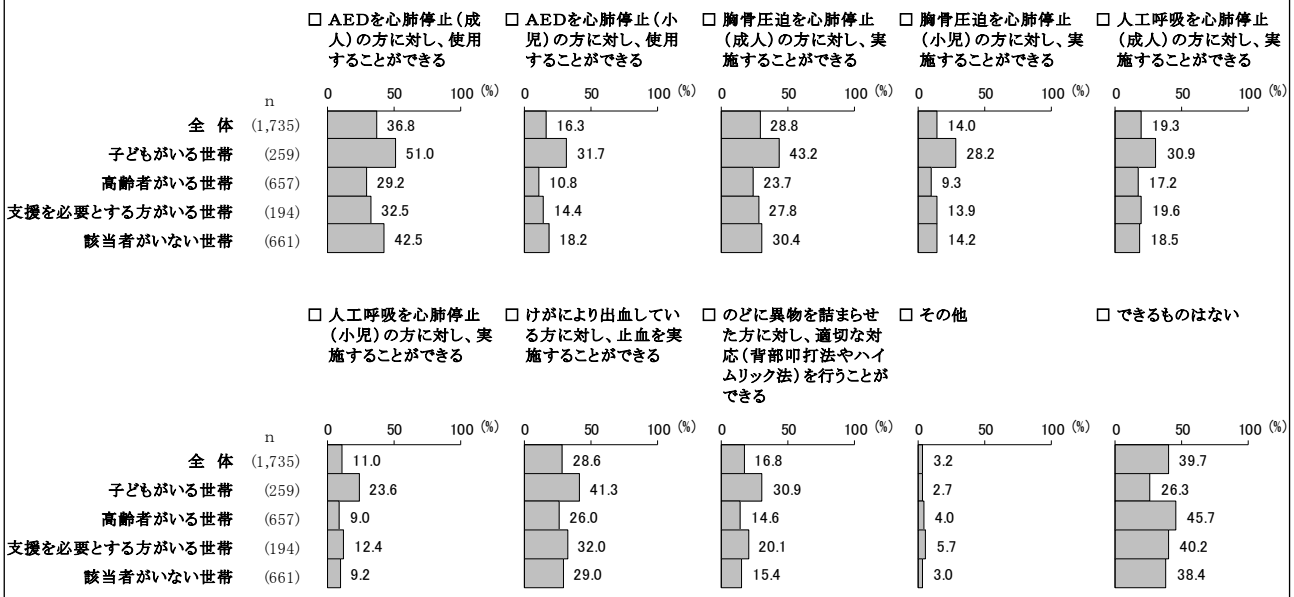



急病人や負傷者発生時に自身ができる応急手当について、年齢別にみると、『16～19 歳』から『30～39 歳』が、ほとんどの項目で他の年齢に比べ多くなっている。

一方、65 歳以上では「できるものはない」が約半数を占めている。

■急病人や負傷者発生時に自身ができる応急手当（世帯内の要援護者〔自身を含む〕別）

（図表２－１３－３－３）

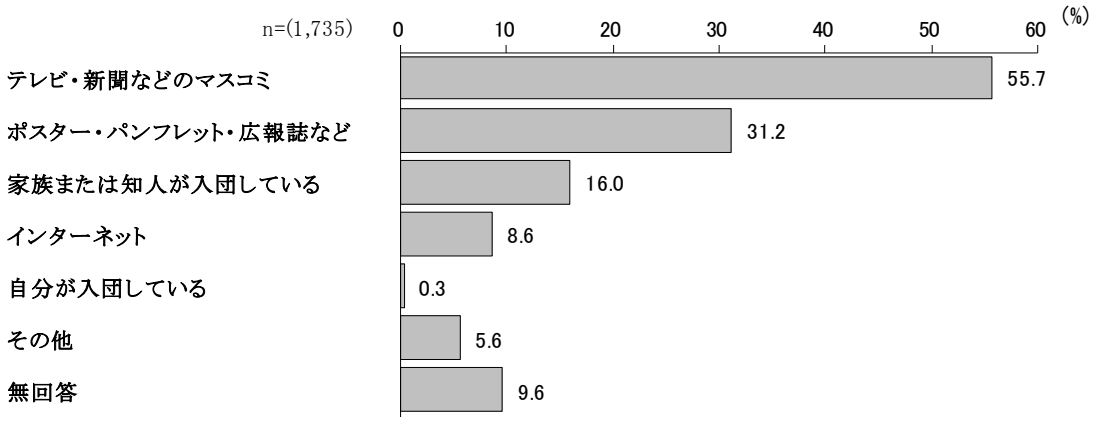



急病人や負傷者発生時に自身ができる応急手当について、世帯内の要援護者（自身を含む）別にみると、『子どもがいる世帯』では、各項目において「できる」割合が、他の区分と比べて高い傾向がみられる。

（４）消防団活動を見聞きする場面

問３５．あなたは消防団活動について、どのような場面で見聞きしますか。
（あてはまるものすべてに○）

■消防団活動を見聞きする場面（図表２－１３－４）

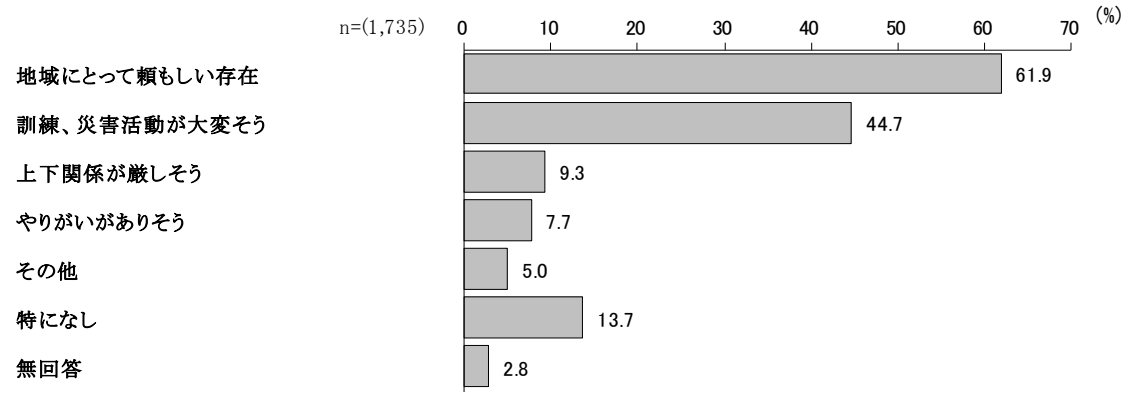



消防団活動について、どのような場面で見聞きするかについては、「テレビ・新聞などのマスコミ」が55.7%と最も多く、以下、「ポスター・パンフレット・広報誌など」(31.2%)、「家族または知人が入団している」(16.0%) となっている。

（５）消防団活動に対するイメージ

問３６．消防団に対してどのようなイメージを持っていますか。あてはまるものをすべてお選びください。（あてはまるものすべてに○）

■消防団活動に対するイメージ（図表２－１３－５）

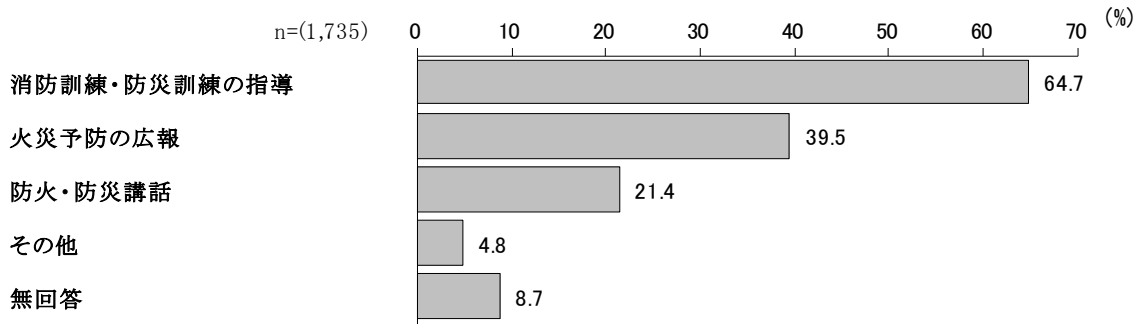



消防団活動に対するイメージについては、「地域にとって頼もしい存在」が 61.9%と最も多く、以下、「訓練、災害活動が大変そう」(44.7%)、「上下関係が厳しそう」(9.3%) となっている。

（６）災害対応以外での地元消防団に対する期待

問３７．災害対応以外で、消防団の活動について何を期待しますか。あてはまるものをすべてお選びください。（あてはまるものすべてに○）

■災害対応以外での地元消防団に対する期待（図表２－１３－６）




災害対応以外で地元消防団に期待することについては、「消防訓練・防災訓練の指導」が 64.7%と最も多く、以下、「火災予防の広報」(39.5%)、「防火・防災講話」(21.4%) となっている。

## Ⅲ．自由記述

問４６．最後に防災に関してのご意見などがございましたら、ご自由にご記入ください。

| 自由意見の主な分類 | 件数 | | 件数 |
|---|---|---|---|
| 災害に備えた体制や設備について | 169 | アンケートについて | 19 |
| 防災への意識について | 76 | 火災・原発事故等について | 13 |
| 町内・町内会について | 44 | 自助・共助について | 11 |
| 防災訓練や防災教育・啓蒙等について | 40 | 公共インフラについて | 9 |
| 情報伝達について | 23 | 心理的な影響について | 9 |
| 市政等について | 22 | 生活への影響について | 5 |
| 警察・消防・自衛隊について | 21 | その他 | 71 |

仙台市の防災に関する意見について多かったのは、災害に備えた体制や設備について（169 件）、防災への意識について（76 件）、町内・町内会について（44 件）、防災訓練や防災教育・啓蒙等について（40 件）、情報伝達について（23 件）などであった。

以下に、項目ごとの意見を抜粋して掲載する。

**■災害に備えた体制や設備について**

・最近の大雨により河川の氾濫が多くなりましたが、地震と同じく防災用具の不足分をもう一度見直したいと思います。近所の方とのコミュニケーションも大事だと思います。後期高齢になり、人の助けも必要になってきました。真剣に取り組まないといけないなぁと思いました。（女性、70 代、太白区）

・防災は一人ひとりの常日頃の心構えです。これは危険だなと思った事は、すぐ止めたり直したり注意したりする事が大事です（家具・冷蔵庫・食器棚）。今までに大きな地震が仙台地方にありましたが、困った事は殆どありませんでした。（女性、80 歳以上、太白区）

・なるべく行政を頼らなくて済むように自助、共助の意識づくり、体制づくりを推進していってほしい。（男性、30 代、若林区）

**■防災への意識について**

・年々ひどくなる自然災害に対して、常に危機意識を持ちながら、情報をアップデートしていきたいと思います。自分たちの身はせめて自分で守れるように行動したい。（女性、30 代、若林区）

・防災は、個々人が意識を持って行動が出来る様な日頃の防災等に関するチェックが必要であると思っています。（男性、70 代、青葉区）

・東日本大震災の記憶が年々薄らいでいく中で今回のアンケートを通じ、やはり災害の準備や危機感はいつも持っていないといけないなと改めて思いました。（女性、70 代、青葉区）

**■町内・町内会について**

・防災活動は地域活動だと思います。まずは、周りの方とのつながりが持てるような活動が大事だと思います。震災の時も、知り合いとはうまく連絡が取れましたが、近くても付き合いのない方とは確認が難しかったです。まずは地域情報やお祭りに参加するなどの付き合いが防災での助け合いにつながると思います。町内でも防災のイベントよりもみんなが参加できるような、参加を促すようなイベントで顔を

合わせることが大事だと思います。（女性、50 代、泉区）

・団地も高齢化が進み、また隣近所の方々とのコミュニケーションが難しくなっているので、これからますますお年寄りが増えていくどうなっていくのかな…と心配ではあります。自分がやれることはやっていかなければいけないのかな…と思っているところです。町内会ごとの備蓄に関しても、配布の仕方など考えていかなければならないと思います。（女性、60 代、泉区）

■防災訓練や防災教育・啓蒙等について

・自然災害は、その住んでいる地域ごとに変わってくるので過去の災害の歴史などを小学校や中学校などで、防災の日などに写真やパネルを体育館に展示し、それぞれの場所における災害リスクを意識づけさせ、それに備える対策を地域住民とともにはぐくむ体制を子供のころから作り上げてゆくことが大事だと思います。（男性、60 代、太白区）

・災害の避難については、普段の訓練が大切だと思います。地域の中で災害時要支援者の情報をある程度共有していないと、避難の手伝いをするのは難しいと思います。（女性、60 代、宮城野区）

・小学校で、ＡＥＤの使用方法や心臓マッサージの方法を学べました。とてもいい経験をしました。今度、町内会で、防災訓練があるので参加します。去年は、ラップでの腕の固定の仕方や、消火器を使って的あてをやりました。そういうゲーム感覚で子供たちと参加できる訓練はありがたいです。（女性、30 代、太白区）

■情報伝達について

・行政の指示・伝達が安心で安全なので、行政のきめ細やかな指導を期待します。（男性、70 代、泉区）

・知識があればいざというときにパニックにはならないと思う。防災に関心を持つことが大切だと思う。情報は簡単に入るように、ＳＮＳや定期的なチラシ等の普及が必要なのかなと思う。（女性、50 代、宮城野区）

・防災予防の情報などは自分から調べて入手しないと解らない事が多いので、もっと発信してほしいです。（女性、40 代、宮城野区）

■市政等について

・もし地震などで避難となったとき、女性としては性暴力が起きたり、トイレなどで何かあったりするのが怖いです。パーソナルスペースを避難所に求めるのはもちろんありますが、それとはまた違う話として、女性と子供の人権が守られるような防災がしたいです。個人が気を付けることは前提としてありますが、行政が避難所の開設をする際に、少しでも気にかけていただけるとありがたいです。（女性、20 代、太白区）

・東日本大震災を経験した仙台市。世界で一番の最先端を行く、防災都市になってほしいです。世界中の人たちが仙台市を見学に来るような。（男性、50 代、太白区）

・いつ発生するのか、予想出来ない災害に常時備えることは、大変な事です。しかしながら、災害が発生したら、大小にかかわらず、迅速な対応が急務となります。能登地方の人々の毎日の生活が本当にお気の毒に思います。仙台市は、もし一年に２度もあのような大災害に見舞われたら…という考えで、これからの防災を考えていただきたいと思います。（女性、60 代、泉区）

■警察・消防・自衛隊について

・災害は何時に起こるかわかりません。災害は忘れたころにやってくるとよく言います。消防員さん私た

ちの身近の方と思い、感謝しております。災害が起きれば一番に早く来てくれます。（男性、80 歳以上、青葉区）

・地震が多い国ですのでいつどこで起きるかわからない。どこで起きても助け合い、生きることだと思います。自衛隊の方からの支援が必要となるため大切にしてほしいです。（女性、70 代、青葉区）

**■アンケートについて**

・定期的にアンケート調査することにより、意識・備えについて考える時間ができました。ぜひ、今後もアンケートを続けて頂きたいと思います。（男性、40 代、泉区）

・東日本大震災後しばらくは、色々な情報を気にかけ、食料や水を常に備蓄することに注意していたが、最近は防災意識が薄らいできたと、今回アンケートに答えて感じました。考えなおす良い機会となりました。ありがとうございます。（女性、50 代、泉区）

・アンケート項目が多すぎて途中の回答が雑になると思います。多くの項目を聞きたいのはわかりますが精度は低いのではないでしょうか。（男性、40 代、泉区）

**■火災・原発事故等について**

・マンションなので、もし他の部屋で火災があった場合、早く消防車が来て消火してくれる事を願います。（女性、60 代、若林区）

・原子力災害が起こったとき、人間の力ではどうにもできないので普段からとても怖いと思っている。（女性、60 代、青葉区）

**■自助・共助について**

・自分で出来る限りの事はできるように心がけています。災害が起こってしまったら、周りを助け合い運動。色々な事を共有して、これから起こりうる災害に対処して、一人でも多くの方が助かってくれたら…そんな風に思います。「備えあれば憂いなし」そんな世の中であってほしい。（女性、40 代、泉区）

・自助、共助、公助のいずれも必要である旨の周知が必要ではないか。（男性、30 代、青葉区）

**■公共インフラについて**

・行政には早期のインフラ回復と災害避難所への迅速な対応を期待します。（男性、50 代、青葉区）

・地震の時、水が止まらないような水道管にしてほしい。（女性、40 代、青葉区）

**■その他**

・対面での活動がコロナで減ってしまった。実際にやらないとわからないこともあるのでコロナ以前に戻して欲しい。（女性、40 代、青葉区）

・災害時に置ける女性、子ども、障害者の尊厳を守れるようにしてほしい（生理用品の配布、避難所での配慮の義務など）（回答しない、30 代、宮城野区）

・地球温暖化による災害が多発しています。水害等にもこれからはもっと力を入れてほしいです。（女性、60 代、泉区）

# ４章　資料（調査票）

仙台市 SENDAI CITY

# 令和６年度「仙台市防災に関する市民意識アンケート調査」調査票

◆回答方法◆

以下のどちらか１つの方法でご回答ください。回答は１回限りです。

【回答方法１】調査票を同封の返信用封筒にてご返送

①調査票に回答を直接記入する。
②三つ折りにして、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、投函する。
※ご回答にあたっては、該当事項に○印をお付けください。設問によって、○は１つ、あてはまるものすべてに○、など回答数の指示があります。また、数字や自由意見をご記入いただく場合もあります。

【回答方法２】インターネットでご回答

下記いずれかの方法で以下の ID、パスワードでアクセスの上、ご回答ください。
・URL（http://●●●●●●　）を直接入力
・右記二次元コードからアクセス

二次元コード

ID：●●●●●●●●　パスワード：●●●●●●●

## ― 災害への備えについて ―

問１．あなたの生活の中で、特に不安に思う災害を心配な順番に３つまで選び、下の回答欄にご記入ください。（あてはまるもの３つまで）

| | |
|---|---|
| 1. 地震災害 | 7. 大規模な山火事 |
| 2. 津波・高潮災害 | 8. 大規模な建物火災 |
| 3. がけ崩れなどの土砂災害 | 9. 原子力災害 |
| 4. 豪雨による洪水 | 10. 鉄道などの公共交通機関の事故 |
| 5. 強風による災害 | 11. 危険物や化学薬品などによる爆発・火災 |
| 6. 火山の噴火 | 12. その他　※具体的に（　　） |

あてはまる選択肢の番号を回答欄にご記入ください。

| 回答欄 | １番目に心配なもの | ２番目に心配なもの | ３番目に心配なもの |
|---|---|---|---|
| | | | |



仙台市 SENDAI CITY

問２．ご自宅で、非常時にすぐ使用できるように用意しているものをすべてお選びください。（あてはまるものすべてに○）

| | |
|---|---|
| 1. 食料・飲料水　⇒問３へ | 9. スマートフォン・携帯電話の充電用電池 |
| 2. 携帯ラジオ | 10. その他　※具体的に（　　） |
| 3. 懐中電灯 | |
| 4. 乾電池 | |
| 5. 救急医薬品 | |
| 6. カセットコンロ | 11. 特にない |
| 7. 携帯トイレ・簡易トイレ | |
| 8. 石油ストーブなど停電時でも使用可能な暖房器具 | |

問３．（問２で「1. 食料・飲料水」を選択した方にお伺いします。）
ご自宅の備蓄量はおおむね何日分を用意していますか。食料と飲料水それぞれお答えください。

| | |
|---|---|
| **食料**　（＿＿＿＿）日分程度 | **飲料水**　（＿＿＿＿）日分程度 |

※参考　大人１人が１日に必要な飲料水の量（目安）：３リットル

問４．災害への備えについて、あなたや同居のご家族が取り組んでいることをお答えください。
（①～⑧のそれぞれについて、あてはまる番号に○）

| | A. 何らかの取組をしている | B. 取組ができていない 下記あてはまる理由に○ | | | C. 取組を必要としない（家族や自宅が該当しない場合など） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 必要性は感じるが実施していない | 知らない・やり方がわからない | 必要性を感じない | |
| ① 家族との連絡方法を決める | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ② 自宅から避難する場所、経路を決める | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ③ 風呂にいつも水をいれておく | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ④ 自家用車にこまめに給油をする | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑤ 窓ガラスの飛散防止対策をする | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑥ 食器棚などに飛び出し防止器具をとりつける | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑦ 自宅の耐震化をする | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑧ ブロック塀の点検や倒壊防止を施す | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

問５．ご自宅では、家具などの転倒防止対策を実施していますか。あてはまるものを１つお選びください。（○は１つ）

| | | |
|---|---|---|
| 1. 全ての家具などで実施している | 4. やり方が分からないため、実施していない | 7. その他　※具体的に（　　） |
| 2. 一部の家具などで実施している | 5. 必要性を感じないため実施していない | |
| 3. 金銭的な余裕や時間がないため、実施していない | 6. 対策が必要な家具などがない | 8. わからない |

問６．あなたの防災・減災に対する意識はどのくらいだと思いますか。あてはまるものを１つお選びください。（自己評価でご回答ください）（○は１つ）

| 高い | やや高い | ふつう | やや低い | 低い | わからない |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |



## ― 防災訓練について ―

問７．あなたは、次の防災訓練などに参加したことはありますか。
（①～④のそれぞれについて、あてはまる番号に○）

| | ある | ない |
|---|---|---|
| ①仙台市が主催する防災訓練への参加（各区の総合防災訓練、6 月 12 日のシェイクアウト訓練など） | 1 | 2 |
| ②町内会などの地域団体が主催する防災訓練への参加 | 1 | 2 |
| ③学校や職場での消防訓練や防災訓練への参加 | 1 | 2 |
| ④上記以外の防災講演会・シンポジウム・座談会などへの参加 | 1 | 2 |

問８へ

問８．（問７の②で「2. ない」を選択した方にお伺いします。）防災訓練へ参加しない理由についてあてはまるものを１つお選びください。（○は１つ）

| | |
|---|---|
| 1. 訓練があることを知らなかった | 4. 訓練に参加する必要がない |
| 2. 参加する意思はあったが、都合により参加できなかった | 5. その他　※具体的に（　　） |
| 3. 必要性は感じるが参加していない | |

## ― 防災施策について ―

問９．仙台市で実施している以下の取り組みなどを知っていますか。知っているものをすべてお選びください。（あてはまるものすべてに○）

**1. わが家と地域の防災チェック表**

家庭での地震に対する備えの点検を行うチェック表

**2. 仙台市地域防災リーダー（SBL）**

防災に関する知識や技術を有し、それぞれの地域における自主的な防災活動の中心となる方々

**3. 地域版避難所運営マニュアル**

各避難所において地域の特性に合わせて作成した避難所の運営マニュアル

※写真は仙台市で作成したひな形など

**4. せんだいくらしのマップ**

防災に関する情報などを確認することができる電子地図

**5. 仙台防災ハザードマップ**

災害から身を守るための基本的な知識やハザードマップなどをまとめた冊子

**6. マイ・タイムライン作成**

大雨・台風災害に備えて、自身や家族がとるべき避難行動（いつ、誰が、何をするのか）を時系列に記入して作成する「家族の避難計画」

**7. 仙台市津波避難訓練**

市東部において毎年 11 月 5 日「津波防災の日」に防災関係機関（宮城県警察、海上保安庁など）と合同で実施する避難訓練

**8. 帰宅困難者対策**

一時滞在場所や支援に関する各種協定の締結、関係事業所への訓練指導など

**9. せんだい防災のひろば**

防災や減災に対して関心を持っていただくことを目的とした体験型イベント

**10. 仙台防災未来フォーラム**

東日本大震災の経験や教訓を未来の防災につなぐため、市民の皆さまが防災を学び、日頃の活動を発信できるイベント

**11. 仙台市防災・減災アドバイザー**

各種メディアや地域の防災講座などを通じ、市民の皆さまへの防災・減災の普及啓発を専門とするアドバイザー

**12. 仙台防災枠組 2015-2030**

2015 年の第３回国連防災世界会議の成果文書で、2030 年までの国際的な防災の取組み指針

問 12 へ





## ― ハザードマップについて ―

**※「ハザードマップ」とは、自然災害による被害を予測し、その被害範囲を地図化したものです。本市では、洪水・土砂災害・地震・津波・内水・防災重点農業用ため池に関するハザードマップを作成しており、以下の方法からご確認いただけます。**

| インターネット版 | 紙面版 |
|---|---|
| せんだいくらしのマップ（PC 版） | 仙台防災ハザードマップ（洪水、土砂災害のハザードマップを掲載） |
| **各種ハザードマップ等を電子地図上で詳細に確認できるサービス「せんだいくらしのマップ」のほか、各ハザードマップの PDF データを掲載しています。** | **「仙台防災ハザードマップ」や「津波からの避難の手引き」など、災害ごとに作成しており、主に市役所本庁舎や各区・総合支所等で配布しています。** |

問１０．あなたはこれらのハザードマップをご覧になったことがありますか。当てはまるものを１つお選びください。（○は１つ）

| | | |
|---|---|---|
| 1. | インターネット版、紙面版のどちらも見たことがある | ⇒ 問１１へ |
| 2. | インターネット版のみ見たことがある | ⇒ 問１１へ |
| 3. | 紙面版のみ見たことがある | ⇒ 問１１へ |
| 4. | ハザードマップを見たことがない | ⇒ 問１３へ |

問１１．（問１０で「1．インターネット版、紙面版のどちらも見たことがある」「2．インターネット版のみ見たことがある」「3．紙面版のみ見たことがある」を選択した方にお伺いします。）あなたはこれらのハザードマップを見て、自宅周辺でどのような災害リスク（災害の危険性）があるかを把握していますか。あてはまるものを１つお選びください。

（○は１つ）

| | | |
|---|---|---|
| 1. | 災害リスクを把握できている | ⇒ 問１４へ |
| 2. | ハザードマップを見たことがあるが、災害リスクはあまり把握していない | ⇒ 問１２へ |

問１２．（問１１で「２．ハザードマップを見たことがあるが、災害リスクはあまり把握していない」を選択した方にお伺いします。）このように回答いただいた理由について、あてはまるものをすべてお選びください。　（あてはまるものすべてに○）

1. ハザードマップの表示の意味などがよくわからない
2. 地図の縮尺が小さいことなどから、自宅周辺の状況がよくわからない
3. 一度見たことがあるが、内容を忘れてしまった
4. ハザードマップの種類が多く、全ての災害リスクを把握できているかわからない
5. その他　※具体的に（　　）

問１３．（問１０で「４．ハザードマップを見たことがない」を選択した方にお伺いします。）
このようにご回答いただいた理由について、あてはまるものをすべてお選びください。
（あてはまるものすべてに○）

1. ハザードマップの存在を知らなかった
2. ハザードマップを見ようと思っているが、見る方法がわからない
3. 災害が近づいている時や現に災害が発生した時にハザードマップを見ようと思っている
4. ハザードマップに掲載されている内容に関心がない
5. ハザードマップに掲載されている内容が信用できない
6. 今までに自分の身の回りで災害による被害が発生したことがない
7. おそらく自分は被害に遭わないと思うから見る必要がない
8. その他　※具体的に（　　）





## ― 避難行動について ―

問１４．あなたが災害の危険のある場所にいて、その場所に以下のような避難情報が発令された場合、どの時点で避難行動をとるべきだと思いますか。該当するものを１つお選びください。
（○は１つ）

1. 【警戒レベル３】高齢者等避難の発令
2. 【警戒レベル４】避難指示の発令
3. 【警戒レベル５】緊急安全確保の発令

緊急性：高

4. わからない

問１５．あなたは下記の呼びかけ等により、避難を開始しますか。あてはまるものをすべてお選びください。　（あてはまるものすべてに○）

1. 市職員、消防職員、消防団員、町内会の役員などが避難の広報を呼びかけているのを確認したとき
2. 近所の人が避難を開始したことを確認したとき
3. 直接、誰かに避難を呼びかけられたとき
4. テレビによる呼びかけ
5. 携帯電話、スマートフォンへの通知
6. SNS（X、LINE など）による呼びかけ
7. あくまで自分で判断し避難する
8. その他　※具体的に（　　）
9. 避難をしない

問１６．人には、災害の危険が迫っていても、「大したことではない」と思うことで心の安定を保とうとする「正常性バイアス」や、災害などの時に周りの人と同じ行動をとろうとする「同調性バイアス」という心理特性があることをご存じですか。それぞれあてはまるものを一つお選びください。　（①、②のそれぞれについて、あてはまる番号に○）

| | 聞いたことがあり、内容も知っている | 聞いたことはあるが、内容まではわからない | 聞いたことがない |
|---|---|---|---|
| ①正常性バイアス | 1 | 2 | 3 |
| ②同調性バイアス | 1 | 2 | 3 |

## ― 避難所の環境について ―

問１７．あなたが避難所を利用することになった場合に、どのようなことに配慮してほしいと考えますか。以下の選択肢の中で優先順位をつけた場合、優先度が高い順番に３つまで選び、下の回答欄にご記入ください。（期間は災害が発生してから２週間以内とします。）

（あてはまるもの３つまで）

| | |
|---|---|
| 1. パーティションによるプライバシーの確保 | 9. 女性に配慮したスペースの設置 |
| 2. 簡易ベッド等による就寝環境の確保 | 10. 高齢者・障害者に配慮したスペースの設置 |
| 3. 衛生的・快適なトイレの設置 | 11. 外国人など多様性に配慮した表示やスペースの設置 |
| 4. 温かい食事の提供 | 12. ペット用避難スペースの設置 |
| 5. 入浴機会の確保 | 13. 防犯対策の実施 |
| 6. 洗濯機会の確保 | 14. 福祉施設への移動の手配 |
| 7. 医療・福祉支援の確保 | 15. 特にない |
| 8. キッズスペースの確保 | 16. その他　※具体的に（　　） |

あてはまる選択肢の番号を回答欄にご記入ください。

| 回答欄 | １番目に優先度が高いもの | ２番目に優先度が高いもの | ３番目に優先度が高いもの |
|---|---|---|---|
| | | | |

## ― 地域住民相互の助け合いについて ―

問１８．災害時における地域住民相互の助け合いを推進する取り組みとして最も有効だと思うものを１つお選びください。（○は１つ）

| | |
|---|---|
| 1. 地域で防災に関して学ぶ機会を設ける | 6. その他　※具体的に（　　） |
| 2. 地域で気軽に参加できる防災訓練を増やす（避難所運営ゲームなど） | |
| 3. 地域で子どもへの防災教育の機会を増やす | 7. そのような助け合いは必要ない（行政が行うべき） |
| 4. 地域の中心となるリーダーを養成する | 8. そのような助け合いは必要ない（個人が行うべき） |
| 5. 地域で話合いを行う機会を設ける | |





## ― 災害時要援護者対策について ―

**※「災害時要援護者」とは高齢者・障害者・妊産婦・乳幼児・児童・外国人など災害時一連の行動において第三者の支援が必要な方々をいいます。**

問１９．大地震などの災害が起こったときに、あなたは近隣に住む家族以外の災害時要援護者のためにどのような助け合いや協力ができますか。あてはまるものをすべてお選びください。

（あてはまるものすべてに○）

| | |
|---|---|
| 1. 家族や親族への連絡 | 7. 介護や手当て |
| 2. 安否確認 | 8. 生活必需品の確保 |
| 3. 災害状況や避難情報の伝達 | 9. その他　※具体的に（　　） |
| 4. 安全な場所への避難の手助け | |
| 5. 一時的な保護 | 10. 協力できない、または難しい⇒問２０へ |
| 6. 精神的ケア | 11. わからない |

問２０．（問１９で「10. 協力できない、または難しい」を選択した方にお伺いします。）協力できない理由について、あてはまるものをすべてお選びください。（あてはまるものすべてに○）

| | |
|---|---|
| 1. 近所付き合いがあまりない | 5. 災害時要援護者がどこにいるかわからない |
| 2. 自分自身の身体が不自由 | 6. 行政が直接支援すべきだと思う |
| 3. 自分の家族にもお年寄りや乳幼児などがいるので、近所まで手が回らない | 7. その他　※具体的に（　　） |
| 4. 他人のことにはあまり関わりたくない | |

問２１．災害時要援護者への対策として、あなたは行政に何を期待しますか。特に重要だと思うものを２つまでお選びください。（あてはまるもの２つまで）

| | |
|---|---|
| 1. 災害時要援護者世帯を訪問し、防災などの相談にのる | 6. 災害時要援護者の世帯情報を活用し、緊急時の対応活動を行う |
| 2. 緊急通報電話（ボタン１つで直接 119 番につながる電話）などの普及 | 7. 避難所で必要な配慮がなされるよう啓発を行う |
| 3. 地域での協力体制づくりの支援 | 8. 障害の特性に応じた適切な配慮 |
| 4. 災害時要援護者も参加した防災・避難訓練を実施する | 9. その他　※具体的に（　　） |
| 5. おむつや、やわらかい食べ物など災害時要援護者用の生活支援用品を蓄える | 10. 特にない |

## ― 避難情報の収集について ―

問２２．地震が発生したときや大雨が降っているときなど災害が発生するおそれがある場合、どのような手段で避難情報などを収集していますか。よく利用するツールをすべてお選びください。

（あてはまるものすべてに○）

1. テレビ（データ放送除く）
2. テレビのデータ放送（ d ボタン）
3. 常時携帯していない情報端末（パソコン・タブレットなど）　⇒問２３へ
4. 常時携帯している情報端末（スマートフォン・携帯電話など）　⇒問２３へ
5. ラジオ
6. その他　※具体的に　〔　　〕
7. 情報を収集していない

問２３．（問２２で「3. 常時携帯していない情報端末」「4. 常時携帯している情報端末」を選択した方にお伺いします。）パソコンやスマートフォンなどを活用し、どのように情報を収集していますか。よく利用するものをすべてお選びください。

（あてはまるものすべてに○）

1. 仙台市公式ホームページ
2. 仙台市公式 SNS（X、LINE など）
3. 仙台市避難情報ウェブサイト
4. 行政機関のウェブサイト（気象庁や宮城県のサイトなど）
5. 行政機関以外のウェブサイト ※特に利用しているサイト（　　）
6. 行政機関以外の SNS
7. 防災アプリ（Yahoo！防災速報など）
8. メール配信サービス（杜の都防災メール・気象会社のメール配信サービスなど）
9. その他　※具体的に　〔　　〕





## ― 東日本大震災の経験を伝えることについて ―

問２４．東日本大震災の発生から１３年が経過し、記憶の風化が懸念されているところですが、今後、誰かに伝えたり、残したりしたいと思いますか。１つお選びください。

（○は１つ）

1. すでに伝えたり、残したりしている　⇒　問２５へ
2. いずれは伝えたり、残したりしたい　⇒　問２５へ
3. そう思わない
4. わからない
5. 東日本大震災を経験していない

問２５．（問２４で「1. すでに伝えたり、残したりしている」「2. いずれは伝えたり、残したりしたい」を選択した方にお伺いします。）そのように思う理由について、あてはまるものをすべてお選びください。（あてはまるものすべてに○）

1. 地震や津波、被害の大きさなど、災害の脅威を伝えるため
2. 災害時の工夫や知恵など、災害を乗り越える術を伝えるため
3. 災害に備えることの大切さを伝えるため
4. 災害時だけではなく、普段から助け合うことの大切さを伝えるため
5. その他　※具体的に〔　　〕

問２６．東日本大震災の経験を伝えるとともに、次の大災害に備える考え方や行動を身に着けるために、あなたにとってどのような方法が効果的だと思いますか。効果的だと思うものを３つまで選択してください。（○は３つまで）

1. 東日本大震災の被災状況（津波やがれきの様子、ガソリンスタンドや食料品店での大行列など）が分かる写真や映像を見る
2. 被災経験者（語り部や施設ガイドを含む）の話を聞く
3. 災害をテーマにした映画や小説、漫画などを観る・読む
4. 災害の歴史や災害発生のメカニズムを知る
5. 災害時、多種多様な人が経験した「困りごと」を知る
6. 各地の伝承施設やメモリアル施設を訪れる
7. 災害時を想定した状況（ライフラインやエネルギーの途絶）を体験する
8. 災害時に役立つ知識や技術（身の守り方、暖を取る方法、限られた食材での煮炊き、コミュニケーションの取り方、救援方法など）を学ぶ
9. その他　※具体的に〔　　〕

## ― 東日本大震災を経験していない子どもたちへの取り組みについて ―

問２７．東日本大震災を経験していない子どもたちに災害への備えを意識してもらうには、どのような体験や経験が有効と考えますか。特に有効だと思うものを３つまでお選びください。
（あてはまるもの３つまで）

1. 学校や地域における避難訓練への参加
2. 防災関連施設（震災遺構 荒浜小学校、津波避難タワーなど）を見学する
3. 語り部や東日本大震災の経験者の話を聞く
4. せんだい災害 VR 等により地震などを擬似体験する
5. 家庭で災害時のことを話し合う
6. 防災に関する新聞記事や文章を読む
7. 防災に関するテレビ番組やラジオ番組を視聴する
8. 市民向け防災イベント（仙台防災未来フォーラムなど）へ参加する
9. その他　※具体的に（　　）





## ― 地震対策について ―

問２８．日本海溝･千島海溝沿いの巨大地震の想定震源域とその周辺で大きな地震が発生した際に、続いて発生する更に大きな地震に備える呼びかけとして「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が発信されることを知っていますか。あてはまるものを１つお選びください。
（○は１つ）

1. 知っている
2. 名前を聞いたことはある
3. 全く知らない

問２９．地震が起きた際、電気ストーブ等が転倒により可燃物に接触し、その状態で停電から復旧するなどにより、火災が発生することがあります。こうした電気火災を防止するには、ブレーカーを落とすことが有効であることを知っていますか。（○は１つ）

1. はい
2. いいえ

問３０．あなたのご自宅では、地震による電気火災を防止するために、地震の大きな揺れを感知して電気を自動的に遮断する「感震ブレーカー」を設置していますか。（○は１つ）

1. 感震ブレーカーを設置している
2. 設置していないが、今後設置する予定である
3. 設置しておらず、今後設置する予定はない
4. わからない

問３１．地震時は、火災を早期に発見し初期消火を行うことで、大規模な火災の発生を防ぐことができます。あなたは地震時に火災を早期に発見した場合、自らの安全性を確保した上でどのような初期消火活動をすることができますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 消火器又は住宅用消火器で消火
2. エアゾール式簡易消火具で消火
3. 水バケツ等にて消火
4. 濡らしたタオル等にて消火
5. なにもしない
6. その他
（　　）

消火器　住宅用消火器　エアゾール式簡易消火具

## ― 消防施策について ―

問３２．仙台市で実施している消防施策では、安全・安心の確保に向け、さまざまな事業に取り組んでいますが、次の中で知っているものがありますか。知っているものをすべてお選びください。（あてはまるものすべてに○）

**1. 救命ナビ**

救命処置を学習することができ、緊急時には、119 番通報と処置の流れをナビゲートする Web アプリ

**2. LiveView119**

119 番通報時、通報者のスマートフォンからの映像をもとに、指令員が適切な対応を案内するシステム

**3. おとな救急電話相談（#7119）**

夜間や休日の急な病気やけがで医療機関の受診等について迷ったときの相談ダイヤル

**4. 仙台市救急車要請マニュアル**

救急車を要請すべき症状をまとめたマニュアル

**5. 杜の都ハートエイド（応急手当協力事業所表示制度）**

AED を活用した応急手当に協力する意思のある事業所を認定・公表する制度

**6. 消防団協力事業所表示制度**

消防団活動に協力している事業所等を認定・公表する制度

**7. 学生消防団員活動認証制度**

大学生等が消防団員として地域社会へ貢献した活動について認証する制度

**8. 住宅用火災警報器の設置・維持管理の促進**

住宅における火災の発生を早期に感知し、音等で知らせる警報器の設備・維持管理を促進するもの

**9. 消防用設備等点検アプリ(総務省消防庁)**

消防用設備の点検と報告書の作成を支援するアプリ

**10. 仙台市小学生防火ポスターコンクール**

市内の小学生の防火意識醸成、受賞作品を用いた火災予防啓発を目的としたポスターコンクール

**11. 仙台市消防局 SNS**

Instagram
Facebook
X

火災予防・応急手当等の救急に関する情報のほか、消防に関するイベント情報、消防局の活動等を発信

**12. 杜の都防災メール・Web・Mobile**

火災等の災害情報や避難情報、防災気象情報を Web やメールでお知らせするサービス

問３３．仙台市で実施している消防施策で、特に力を入れて取り組むべきと思うことを３つまでお選びください。（あてはまるもの３つまで）

1. 増加する救急需要に対応するため、救急体制を強化する
2. 火災に対応するため、消防体制を強化する
3. 大災害や遭難事故に対応するためレスキュー隊など救助体制を強化する
4. 大災害や遭難事故に対応するため消防ヘリコプターによる救助・救命体制を強化する
5. 地域の消防・防災力を高めるため、消防団の充実を図る
6. テレビ・SNS を活用した防火・救急などの広報を強化する
7. お年寄りや子どもなどを対象とした防火や救急対策の充実を図る
8. 消防・防災訓練やイベントでの住民指導
9. 市民への応急手当の方法や知識の普及を図る
10. 商業施設・病院など、災害時に多数の人に危険が及ぶ建物への指導を強化する
11. ガソリンスタンドなど危険物を扱う施設への指導を強化する
12. 消防・防災に関する電子申請手続きを拡充する
13. その他　※具体的に〔　　〕

問３４．あなたの周囲で急病人や負傷者が発生したとき、あなたはどのような応急手当ができますか。あてはまるものをすべてお選びください。（あてはまるものすべてに○）

1. AED を心肺停止（成人）の方に対し、使用することができる
2. AED を心肺停止（小児）の方に対し、使用することができる
3. 胸骨圧迫を心肺停止（成人）の方に対し、実施することができる
4. 胸骨圧迫を心肺停止（小児）の方に対し、実施することができる
5. 人工呼吸を心肺停止（成人）の方に対し、実施することができる
6. 人工呼吸を心肺停止（小児）の方に対し、実施することができる
7. けがにより出血している方に対し、止血を実施することができる
8. のどに異物を詰まらせた方に対し、適切な対応（背部叩打法やハイムリック法）を行うことができる
9. その他　※具体的に〔　　〕
10. できるものはない

問３５．あなたは消防団活動について、どのような場面で見聞きしますか。

（あてはまるものすべてに○）

| | |
|---|---|
| 1. 自分が入団している | 4. テレビ・新聞などのマスコミ |
| 2. 家族または知人が入団している | 5. ポスター・パンフレット・広報誌など |
| 3. インターネット | 6. その他　※具体的に（　　） |

問３６．消防団に対してどのようなイメージを持っていますか。あてはまるものをすべてお選びください。（あてはまるものすべてに○）

| | |
|---|---|
| 1. 地域にとって頼もしい存在 | 4. 上下関係が厳しそう |
| 2. やりがいがありそう | 5. 特になし |
| 3. 訓練、災害活動が大変そう | 6. その他　※具体的に（　　） |

問３７．災害対応以外で、消防団の活動について何を期待しますか。あてはまるものをすべてお選びください。（あてはまるものすべてに○）

| | |
|---|---|
| 1. 消防訓練・防災訓練の指導 | 3. 防火・防災講話 |
| 2. 火災予防の広報 | 4. その他　※具体的に（　　） |





## ― あなたご自身のことについて ―

**※ 個人を特定するものではございませんので、ご協力いただきますようお願いいたします。**

問３８．あなたの性別をお答えください。（○は１つ）

| | | |
|---|---|---|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. 回答しない |

問３９．あなたの現在の年齢をお答えください。（○は１つ）

| | | |
|---|---|---|
| 1. １６～１９歳 | 4. ４０～４９歳 | 7. ６５～６９歳 |
| 2. ２０～２９歳 | 5. ５０～５９歳 | 8. ７０～７９歳 |
| 3. ３０～３９歳 | 6. ６０～６４歳 | 9. ８０歳以上 |

問４０．あなたが現在一緒に暮らしているご家族は、あなたを含め何人ですか。（○は１つ）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1. １人 | 2. ２人 | 3. ３人 | 4. ４人 | 5. ５人以上 |

問４１．あなたを含め同居している家族の中に次に該当する方はいますか。

（あてはまるものすべてに○）

| | | |
|---|---|---|
| 1. 乳児（０歳） | 5. ６５歳以上の方 | 9. 妊産婦 |
| 2. １～３歳児 | 6. 身体に障害があり、自力避難ができない方 | 10. いずれもいない |
| 3. ４歳以上で小学校入学前の児童 | 7. 知的障害がある方 | |
| 4. 小学生 | 8. こころの病気の方 | |

問４２．あなたの現在のご職業をお答えください。（○は１つ）

| | | |
|---|---|---|
| 1. 自営業 | 4. 農林漁業 | 7. 学生 |
| 2. 会社員 | 5. パート・アルバイト | 8. 無職 |
| 3. 公務員 | 6. 主婦・主夫 | 9. その他　※具体的に（　　） |

問４３．あなたの現在のお住まいの区をお答えください。（○は１つ）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1. 青葉区 | 2. 宮城野区 | 3. 若林区 | 4. 太白区 | 5. 泉区 |

問４４．あなたの現在のお住まいは、次のように分けるとどれにあたりますか。１つだけお答えください。　（○は１つ）

| | |
|---|---|
| 1. 一戸建て持家 | 7. 公営住宅（1～5 階部分） |
| 2. 一戸建て借家 | 8. 公営住宅（6 階以上部分） |
| 3. 分譲マンション（1～5 階部分） | 9. 寮・寄宿舎 |
| 4. 分譲マンション（6 階以上部分） | 10. その他　※具体的に |
| 5. 賃貸アパート・マンション（1～5 階部分） | （　　） |
| 6. 賃貸アパート・マンション（6 階以上部分） | |

問４５．あなたは仙台市に何年間お住まいですか。通算の年数をお答えください。　（○は１つ）
例）仙台市：０～１２歳（１２年間）と１８～２２歳（４年間）→④（１６年間）

| | | |
|---|---|---|
| 1. １年未満 | 3. ４年～１０年未満 | 5. ２０年以上 |
| 2. １年～４年未満 | 4. １０年～２０年未満 | |

問４６．最後に防災に関してのご意見などがございましたら、ご自由にご記入ください。

～アンケートはこれで終了です。ご協力ありがとうございました。～

仙台市では、皆さまから頂いたご意見を十分に踏まえ、今後の防災対策に生かしていきたいと考えております。ご記入いただきました調査票は、お手数ですが返信用封筒（切手不要）に入れ、１０月１１日（金）までにご返送ください。

令和６年度

# 防災に関する市民意識
# アンケート調査報告書

令和６年１２月発行

調査実施主体：仙台市危機管理局防災・減災部防災計画課
〒980-8671　仙台市青葉区国分町三丁目７番１号
TEL：022-214-3046

編集：株式会社東京商エリサーチ 東北支社
〒980-0803　宮城県仙台市青葉区国分町 3-1-2 アーバンネット定禅寺ビル 4F
TEL：022-262-3811